

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン

つながれ ひろがれ ちいきの輪

in
TOKYO

2025 報告書



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都内の特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム・地域包括支援センター・在宅介護支援センター・デイサービスセンター約1,200ヶ所が集まるネットワークです。



は じ め に

本書は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりをめざして、東京の高齢者福祉施設・事業所が地域の中で試みている様子をまとめ、伝える報告書として発刊しました。取組みごとの実施レポートを掲載する一方、「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO」という全都的なキャンペーンとして取組んできた背景やキャンペーンの流れについても分かりやすく伝えるよう心掛けています。また、コンパクトなサイズになっており、本書を手にとった方が活用しやすい冊子となっております。

東京都内の高齢者福祉施設・事業所における地域によりそう活動への理解を深めるとともに、地域での実践の一助となれば幸いです。

●本書の構成について

本書は、4つの章で構成されています。

I 章 図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

地域の中における高齢者福祉施設・事業所の現状や地域住民の暮らしによりそうために求められているものをつなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO実施する背景と合わせてイラストや図で解説します。また、地域の中で実践するためのポイントを「地域によりそいはじめるための10のステップ」としてまとめています。

.....

II 章 地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会より～

2026年1月に開催された実践報告会での報告やコメントなどから、それぞれの地域のニーズや取組みでの工夫やヒントを学びます。地域につながる中でみつけたたくさんの気づきが書かれています。

.....

III 章 キャンペーン実施に至るまで～2025年度のふりかえり～

2025年度のキャンペーンを実施するにあたり、どのようなしかけをつくってきたか、学びの場づくりの様子や実行委員会の活動の様子などから理解を深めます。

.....

IV 章 きっとみつける！あなたのまちの『ちいきの輪』

～キャンペーン取組みレポート～

都内の各地の地域によりそう取組みの様子についてキャンペーン参加施設・事業所から届いたレポートを掲載しています。

目次

I 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする	
～地域の中でつながりあう施設とは～	2
地域によりそいはじめるための10のステップ	4

Ⅱ 地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会より～

第1節

実践報告会について	8
「ヤングケアラーサポーター養成講座」	9
「第9回 八王子介護フェア」	13
「こども食堂フラワープラム」	16

第2節

地域に寄り添う活動 担当者あるある..... 19

第3節

参加者の声..... 21

Ⅲ キャンペーン実施に至るまで～2025年度のふりかえり～

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYOキャンペーンとは？	24
今年度の総括	26
見学会	28
つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO実行委員会	30

Ⅳ きっとみつける！あなたのまちの「ちいきの輪」 ～キャンペーン取組みレポート～

実施施設・事業所 一覧.....	36
実施施設・事業所取組みレポート2025	39
参考：期間外 of 取組み一覧・レポート.....	103

資料

実施施設・事業所 募集要項	116
実施状況	120
広報グッズ紹介	121
広報ツール紹介	122
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 実行委員（会）名簿	128

I

明日が待ち遠しい 暮らしをデザインする ～地域の中でつながりあう施設とは～



明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

～地域の中でつながりあう施設とは～

■ つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOとは？

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうことで「ちいきの輪」をつくります。

「ちいきの輪」とは、一人ひとりの生活を、点（福祉サービス）のみではなく、面（ネットワーキング）で支えること（地域包括ケアの実現）を示しています。制度の狭間でこぼれ落ちる人がいないよう、サービス利用者や地域住民によりそう具体的な8つの取組み例として右記イラストにまとめています。

■ キーワード

地域でこぼれ落ちる人

- ・高齢者とその家族を取り巻く様々な暮らしの課題が多様化・複雑化し、社会のセーフティネットからこぼれ落ちる可能性のある人への支援が必要。
- ・東京のさまざまな場所にある高齢者のための施設・事業所は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、地域でくらす住民のみなさんの役に立ちたいと願っている。

地域によりそう

- ・高齢者福祉施設・事業所が地域の課題や住民の個々の生活ニーズを把握し、専門性を発揮しながら、解決に結びつくアクションを起こしている。
- ・地域住民にとって身近な存在として感じてもらうために暮らしの中でのちょっとした困りごとや悩みによりそい、支える活動を展開。
- ・合わせて、広く市民全体に知ってもらうために都内の高齢者福祉施設・事業所が一体となったキャンペーンを実施。

施設・事業所も地域の一員として、地域のゆるやかな支え合いネットワークを形成するために地域に入り込み、住民とかかわり、地域の高齢者が施設・事業所に利用者としてかかわる前に要介護状態を予防するはたらきかけを行います。かかわりの入口は高齢者ですが、家族・自治会・商店街などそれぞれの地域住民の生活ニーズ把握を重ねていくことで、いずれは地域全体の課題をつかみ、新しい社会資源（サービス、ネットワーク等）を生み出すきっかけをつくり、最期の時まで安心して暮らせる地域の実現をめざしています。



■ 東京の地域を取り巻く課題～制度の狭間にこぼれ落ちる人～

① 高齢化の進行

2035年には、高齢者人口が約353万人、高齢化率は24.9%、都民の4人に一人が高齢者になると見込まれている。

出典：2050東京戦略 附属資料 東京の将来人口 2025年3月改定版

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seisakukikaku/jinkou>

② 孤立の増加

65歳以上の一人暮らし世帯について、2025年では約94万世帯であるのが、2050年には約124万世帯に増える見込まれている。また、コロナ禍を経て他者とのつながりを保ちにくくなった地域もある。

出典：2050東京戦略 附属資料 東京の将来人口 2025年3月改定版

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seisakukikaku/jinkou>

③ 経済的に困窮している高齢者の増加

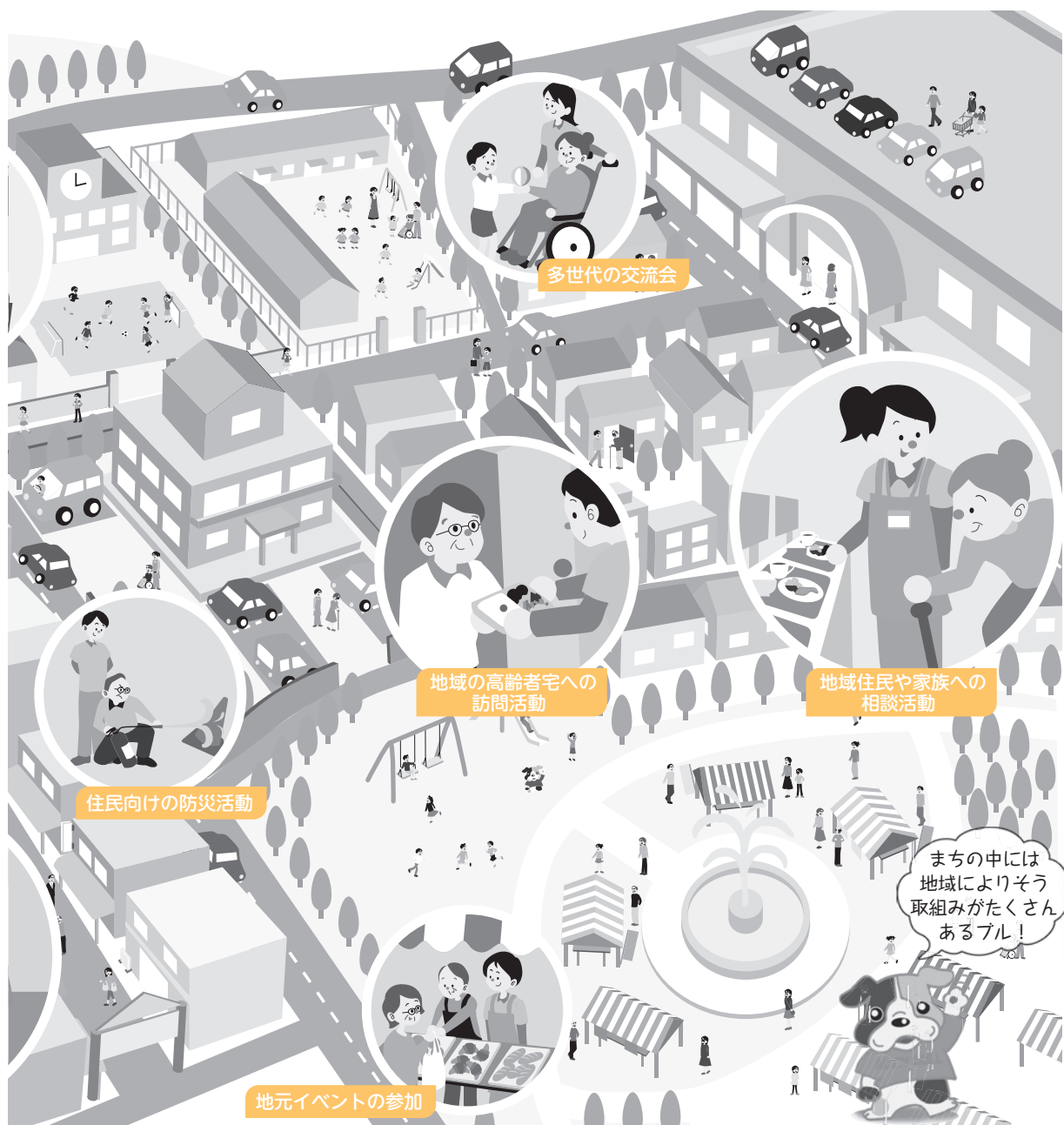
高齢者世帯の37%が年収200万円以下となっている。

出典：令和7年版高齢社会白書

https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2025/html/zenbun/s1_2_1.html

④ 多面的なかかわりの必要性

本人ならびに家族に、多様かつ複雑な課題があるため、サービスの充実だけでは対応が不十分なケースが増えている。

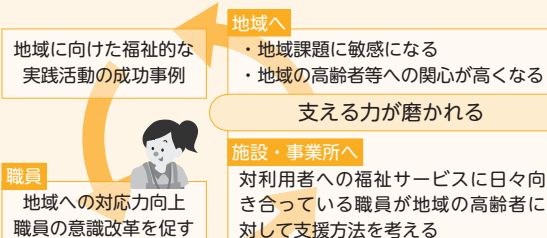


■ 地域によりそうことで生まれる効果



- ・車の両輪のように「福祉（施設・事業所利用者へのサービスの質）」「地域（地域住民全体に向けた支援）」の2つが比例して高齢者福祉施設・事業所の支援の質が高められる。
- ・1施設では、地域への対応力に限界があるため、公私にわたる多様な機関との協働が欠かせない。

■ 包括的な視点に基づく福祉的な取り組みサイクル



上記の一連のサイクルを通して、新たな暮らしの課題解決に向けた視点が形成されるとともに、施設・事業所の地域のニーズに対する支える力が磨かれ、自ずと支え手のあらゆる可能性を引き出します。

地域によりそいはじめるための10のステップ

このページでは、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうために必要なことを10のステップとしてまとめてみました。すでに地域で行っていることやこれから取り組もうとしていることを見返すチェックポイントとして活用ください。ここに示しているものはほんの一例であり、高齢者福祉施設・事業所のそれぞれが取り組む上での大切なポイント（活動への効果と最初にできることなど）をから考えていくためのツールとしても利用できます。

1

STEP

地域の一員として力になる

- ⇒施設で行う特別なことではなく、従来行われている地域に馴染みのあるイベント（例：お祭りなど）に協力する。施設から地域に歩みより、ともに汗をかくことで、距離感が縮まり、互いに話しやすい関係性が構築される。
- ⇒まずは、町内会のイベントをのぞき、地域の団体が集まる定例会議に参加していく中で積極的に協力して、地域の方に施設や職員を知ってもらおう。

2

STEP

活動を応援してくれる地域の仲間を増やす

- ⇒日頃から顔の見える関係をつくり、気軽に相談できる環境をつくること。普段から考えをめぐらせていることを伝える中で共感し、活動の協力者になることも。企画を練る段階から一緒に入ってもらうことで一体感を持った取組みができ、今後のつながりとひろがり生まれやすくなる。
- ⇒地域の方々や団体などに名前を覚えてもらえるよう話かけに行く。どんなに小さなことでも頼って相談しに行こう。特に自分たちだけではできないことをする際には得意とする分野を持つ地域住民や団体を巻き込むのも1つの方法。

3

STEP

1人1人のニーズを地域のニーズと照らし合わせて考える

- ⇒高齢者福祉の現場で日々起こっている困りごとは、地域の方々の目にどのように映るのだろうか、地域の中での日常の暮らしとどのようにつながっているのだろうか。地域での出来事や暮らしの困りごと（高齢者にとらわれない）は、高齢者福祉施設・事業所の目から見てどう捉え、利用者やスタッフにつながっているのか考えて行動することで、ニーズをキャッチするアンテナを敏感に持つことができる。
- ⇒ふと立ち止まって他人事を自分事として考える時間をつくり、多くの人と共有してみよう。

4

STEP

参加者の目線に立った企画づくり

- ⇒自施設・事業所の取組みのターゲットにしている人はどんな暮らしをしている人が想像し、何を求めているのかを考えながら企画づくりをすすめる。また、実施する際はその人の目線に合わせて、どうしたら楽しんでもらえるのか、伝え方やはたらきかけ方を工夫することで、地域の方がより身近に感じ、参加したいと思ってもらえる可能性が高まる。
- ⇒高齢者福祉施設・事業所の当たり前だと思っていることが、実はそうでないことを意識しながら、ターゲットとしている人が親しみを持てるようにする。

5

STEP

参加者や地域の方の自主性を高めるしくみをつくる

- ⇒使い方を覚えれば自由に施設の設定が利用できるように環境を整える、早い時期から参加している方が先輩となって教えたり、活動の協力者になったりすることで、地域の方同士の助け合いが生まれるしくみが展開される。参加者が活動の運営に目を向けるきっかけとなり、スタッフの負

担を分けることでゆるやかに長く続けられる活動に結びつく。

⇒参加者の声をじっくり聞く機会をつくり、取組みに対する率直な意見を伺いながら、現状を変えるために地域住民と高齢者福祉施設・事業所ができそうなことは何か一緒に考え、やってみる。

6 STEP できることから実践してみる

⇒地域住民や団体、高齢者福祉施設・事業所内の利用者やスタッフが地域のニーズに気づき、活動として応えたいという声に対して、自分たちが無理なく手伝えることを思い描き、地域へ発信することで、具体的な活動に結びつく可能性を高めることができる。

⇒見学会、カフェ、地域のイベントへの参画、学校の授業への協力など、取り組みやすいものから始める。施設・事業所内外の協力を得る際は計画的にかかわり、少しずつ段取りを整えていこう。

7 STEP 高齢者福祉施設ならではの強みを有効活用する

⇒取組みを行う際に新しく何かを準備する必要は決してなく、すでに身の回りにあるものを有効活用することで思いもよらない効果を生むこともある。特に地域交流スペース、リハビリのトレーニング機器、給食室などの設備などは活動する場をつくることにもつながる。

⇒まず、施設・事業所の設備や環境の中からこういったものが地域の方の日常をより豊かにする可能性があるのか1つずつあげて整理してみよう。

8 STEP スタッフも楽しみながら取組める体制をつくる

⇒ただ、お願いするのではなく、その人が得意なことをまかせ、協力者であるスタッフやボランティアが楽しみながら参画することで、活動に参加する意味を見出し、今後のモチベーションにつなげることができる。ときには、活動を発展させるためのアイデアをくれたり、新たな仲間を呼んで来たりすることもある。

⇒活動の意味・今回の目標・実施のイメージを事前に共有し、その人に合った役割をお願いしてみよう。終了後には参加者の声を伝えたり、ねぎらいの会を開いたり、取組みを楽しくふりかえれる場をつくってみよう。

9 STEP 活動の運営に困ったら具体的に呼びかける

⇒活動に必要な人・モノ・金（技術や知識も含む）を自分たちの中で用意していくには限界がある。運営上の困りごとを、より多くの方に取組みを知ってもらえるチャンスと捉え、協力できる可能性を持つ人や団体の立場に立ってできそうなことを具体的に示しながら協力を呼びかける。例えば、参加費の徴収、寄付（モノ・金）やボランティアの募集などがある。呼びかけたいターゲットに合わせて、ウェブサイトやチラシなど活動の様子を積極的に発信することでより多くの協力を得られる可能性が高まる。

⇒今行っている活動の中で課題となっていることや不足しているものを常に把握し、こういった協力なら得ることができるのかを考えて少しずつ行動する。

10 STEP 1回の活動で終わらず、次を意識する

⇒1回のイベントを行うことに満足せず、次回以降の取組みに向けての種まきを行うと、参加者や協力者が徐々に増え、活動に継続性を持たせることができる。加えて、連続して参加した人に対して意識した心配り（名前を覚える、前回の話題を出すなどのコミュニケーションをとるなど）を積み重ねることで、今後の活動への協力者になってくれることもある。

⇒次回のイベントの案内、リピーター参加における特典（プレゼント配布）など、次回へのお楽しみを用意する。

地域によりそいはじめるための10のステップ

- 1 地域の一員として力になる
- 2 活動を応援してくれる地域の仲間を増やす
- 3 1人1人のニーズを地域のニーズと照らし合わせて考える
- 4 参加者の目線に立った企画づくり
- 5 参加者や地域の方の自主性を高めるしくみをつくる
- 6 できることから実践してみる
- 7 高齢者福祉施設ならではの強みを有効活用する
- 8 スタッフも楽しみながら取組める体制をつくる
- 9 活動の運営に困ったら具体的に呼びかける
- 10 1回の活動で終わらず、次を意識する

10
STEP

Ⅱ

地域のニーズに こたえるヒント ～実践報告会より～



だれもが安心して暮らせるために地域でできること ～つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO の取り組みから～

※報告書掲載にあたり、一部要約しております。

日時：令和8年1月19日（月）14：00～16：30

会場：家の光会館 7階 コンベンションホール

内 容

〔1：実践報告〕

- ・テーマ1 啓発講座「ヤングケアラーサポーター養成講座」
齊藤 恵里 氏、相澤 瑛美 氏
(社会福祉法人 品川総合福祉センター)
- ・テーマ2 地域交流「第9回八王子介護フェア」
浜村 正秀 氏 (社会福祉法人 清心福祉会 ファミリーマイホーム)
- ・テーマ3 カフェ・居場所「こども食堂フラワープラム」
馬場 なつみ 氏 (社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム)

〔2：情報交流会〕

実践報告 1

「ヤングケアラーサポーター養成講座」

社会福祉法人 品川総合福祉センター（品川区）

齊藤 恵里氏、相澤 瑛美氏

詳細はP43



1. はじめに（資料1～4ページ）

私たち社会福祉法人品川総合福祉センターは、昭和57年に全国初の都市型複合施設として品川区八潮に開設されました。以来、地域とともに43年、高齢者、障害者、児童を対象とした総合的なサポートを行っています。

開所当初より「地域とともに」を理念に掲げており、地域福祉に特化した部署として「地域福祉課」を設置しています。現在の地域福祉課は常勤2名、非常勤1名の計3名体制で、「誰もが安心して暮らせる地域共生社会の実現」を目指して公益的な取組を推進しています。



2. 地域福祉課の事業紹介（資料5～12ページ）

地域福祉課では主に7つの事業を行っています。本日は時間の関係上、今回の取り組みに関係の深い1番から3番を中心にご説明します。

- （1）**福祉教育**：地域の教育機関と連携し、青少年に向けた福祉講座（車椅子講座、重度肢体不自由者から学ぶ講座など）や、夏の体験ボランティア、子どものつどいなどを実施しています。
- （2）**福祉啓発**：認知症や高次脳機能障害など、地域のニーズに合わせた啓発講座を行っています。令和4年度からは「ヤングケアラー」をテーマに取り組んでいます。
- （3）**公益的な取組み**：地域の課題解決に向けて、「しなふく食堂」や「フリースペースしなふく」など、法人の社会資源を活用した地域福祉力の向上に取り組んでいます。
- その他、法人行事（しなふく紅葉フェスタ）や、地域の美化運動など、多岐にわた

る地域交流を行っています。

3. ヤングケアラー理解促進に向けて：R4年～R5年（資料13～20ページ）

ヤングケアラーとは、何らかの支援を必要としている、本来大人が担うような家事や家族の世話を日常的に行っている若者のことです。

ヤングケアラーをテーマとしたきっかけは？（資料14ページ）

当法人が所在する八潮地区は高齢化率が37.1%（R5年）と区内最高であり、長年、高齢福祉・在宅支援に注力してきました。しかし近年、老々介護、高齢者の単身世帯、貧困、不登校、引きこもり、ヤングケアラーといった多世代にわたる複雑な課題が顕在化しています。品川区から「ヤングケアラーの団体を知らないか、支援をしたいと考えている」との話があり、結果としてヤングケアラーをサポートする団体が区内にないことが分かった。こうした背景から、令和4年度より「ヤングケアラー」を福祉啓発のテーマに据えました。

令和4年度の実践（資料15～17ページ）

令和5年3月に、元ヤングケアラーであるフリーアナウンサーの町亞聖氏を招き、「ヤングケアラーのためにできること」と題した講演会を開催しました。定員80名であったがハイブリッド開催で114名が参加し、都外からの参加もありました。参加者は専門職や行政関係者が中心であり、一般区民へのさらなる浸透が課題となりました。

令和5年度の実践「福祉啓発と福祉教育」（資料18～20ページ）

令和6年2月には、前年に続き町氏と、埼玉県で13年学習支援を行っている土屋匠宇三氏をお招きしました。土屋氏は、アウトリーチ（家庭訪問）を1900世帯、年間で12000回実施。合わせて学習支援も行っています。家庭訪問と学習支援は車の両輪のように、丁寧に個々とかかわっていくことの重要性を学び、子どもたちとの出会いと場所の大切さを職員も深く実感しました。

4. R5年度の学校での福祉教育（資料21～27ページ）

次に、教育現場での実践です。学校側も業務の忙しさからヤングケアラーの現状を把握しにくい状況がありました。

教員向けミニ講座（資料22～25ページ）

教員55名が参加し、事前に募った質問に元ヤングケアラーの講師が回答する形式で行いました。

- ・ 質問：「ヤングケアラーの疑いがある子にどう声をかけたらよいか？」
- ・ 返信：「マニュアルはない。まずは何気ない挨拶から、『この先生は信頼できる』と思われる関係性を日頃から作ることが大切」

ヤングケアラーの解決で大切なことは、子どもの自立支援と同時に、親の課題（介護、精神疾患、貧困等）を解決しなければならない点、学校だけでは解決できないため、先生たちが地域とつながることが大切だと伝えてきた。決して学校だけで背負わず、地域の福祉・医療・介護の専門職と「顔の見える関係」を作ることが必須

であるとお伝えしました。

生徒（8年生）への福祉講座（資料26～27ページ）

中学2年生88名と、PTAや民生委員や保育園の園長など地域の大人約20名が参加。グループワークで事例を読み、「自分事」として考える機会を作りました。

5. ヤングケアラーサポーター養成講座と居場所づくりR6年～（資料28～36ページ）

これまでの講座から学んだ「どう声を掛ければいいのか分からない」「出会う機会がない」という参加者の声に応えるため、令和6年度はさらなるステップへ進みました。

①サポーター養成講座（資料31～35ページ）

ヤングケアラーは、「当事者が困りごとや自分の気持ちを言語化することが難しい」。家事をすることが当たり前になっていたり、そのことに対して助けを求めているのか、それすらも表現することが難しい、悩みを相談したり弱音を吐きだせる場所や安心できる人がいないから、そういう人が必要だ。

「認知症サポーター」のように、地域に理解者を増やしたいという思いから「ヤングケアラーサポーター養成講座」へと名称を変更しました。ヤングケアラーの存在に気づき、誰につなぎ、どう見守るかという具体的な方法を事例検討を通じて学びました。

サポーターには、ヤングケアラーを正しく理解できているか、周囲から気づかれにくい存在にどう気づくかといった視点や、子供の願いを中心に子供の考えを大事にする、子どものペースを尊重し、自己開示を待つ「信頼できる大人」としての役割を期待しています。

②しなふく食堂（資料30、36ページ）

ヤングケアラーは発掘自体が難しい。講座だけでなく、実際に出会う場が必要です。子どもから高齢者まで誰でも利用できる「しなふく食堂」を試行開催しました。高齢単身者と若い家族と一緒にゲームや会話を楽しむ姿が見られ、意義のある居場所となる手応えを感じました。

6. 今後の広がりや地域課題に向けて（資料37～44ページ）

令和7年度からは、さらに支援を拡大しています。

- ・ サポーター養成講座の増回開催。今年は2日間のコースを年2回の開催としている。
- ・ 「しなふく食堂」の月1回定期開催、およびコラボお弁当の販売（月2回、200円）。セルフドリンクコーナーを設置している。ちょっとした相談や多世代の交流が見られるようになっている。
- ・ お弁当は助成金で運営しているので1年限り。しかし地域からのニーズが多いため、来年度の開催継続に向けて悩んでいるところ。
- ・ 学生団体と協働した「フリースペース しなふく わたしの居場所」の開設。学生が子供たちとゲームをしたりして、遊び相手になってくれている。
- ・ 夏季の「避暑シェルター」実施。



まとめ（資料42～43ページ）

一連の取り組みを通して見えてきたのは、ヤングケアラーだけではなく、支援が必要な家族の「複合的な課題」です。継続していかないと地域課題は、解決できません。個人のニーズは、地域の課題としてとらえています。

私たちは行政のヤングケアラーコーディネーター等と情報を共有し、学校・地域との連携を深めながら、子どもたちの願いを中心においたサポートを継続していきます。

地域福祉課は、自由に動ける組織ということもあり、困難を抱える人や世帯に寄り添い、高齢、障害、子どもといった福祉分野の垣根を越えて、目の前の課題に臨機応変に対応してまいります。「誰ひとり取り残さない地域共生社会」の実現に向けて、社会福祉法人としてできることを進めていきたいと考えています。

本日の内容は、他の地域の皆様にもご活用いただけるよう資料等の情報提供も可能です。ぜひお気軽にご相談ください。

ご清聴ありがとうございました。

実践報告 2

「第9回 八王子介護フェア」

社会福祉法人 清心福祉会 ファミリーマイホーム

浜村 正秀氏

詳細はP73



1. はじめに：法人および施設の紹介（資料1～2ページ）

皆様、こんにちは。社会福祉法人清心福祉会、特別養護老人ホーム「ファミリーマイホーム」副施設長の浜村と申します。本日は、私共が取り組んでおります「第9回八王子介護フェア」の実践報告をさせていただきます。

ファミリーマイホームは、八王子市の北部に位置する、1995年開設の従来型特別養護老人ホームです。入所100床、ショートステイ12床、デイサービスを併設しております。「家族のようなお付き合ひ」をモットーに、個別ケアや手作りの食事に力を入れた支援を行っております。

2. 八王子介護フェアの概要と目的（資料3・6ページ）

八王子介護フェアは、11月11日の「介護の日」にちなみ、地域公益活動の一環として開催しています。「地域に開かれた施設」を目指し、住民の皆様に介護の大切さや素晴らしさを理解していただき、介護をより身近に感じていただくことを目的としています。

今回のイベントテーマは、「誰しものがかわる可能性のある介護の問題について、介護の現状を発信し将来を考える」といたしました。ソーシャルワーク機能を活かしたアウトリーチ（訪問支援）と、参加施設・事業所の広報活動を兼ねて実施しております。

3. 連携体制：参加団体と共催の「滝山会」（資料4・5ページ）

本フェアは2016年より、近隣の3つの社会福祉法人が合同で開催しています。

- ・ 社会福祉法人 多摩養育園（桜の里）
- ・ 社会福祉法人 一誠会（偕楽園ホーム、初音の杜、第二偕楽園ホーム）
- ・ 社会福祉法人 清心福祉会（ファミリーマイホーム）

また、「滝山会（たきやまかい）」の各事業所に共催いただいています。滝山会は2014



年に発足した事業所連絡会で、滝山街道周辺の医療機関や民間介護施設などが加盟し、地域包括支援センター加住が事務局を務めています。職種を超えて顔なじみの関係を作ること、地域住民に適切なサービスを繋ぐ連携体制を構築しています。主催の3法人も滝山会に所属しています。

4. 地域特性:加住(かすみ)地区の現状(資料なし・音声解説)

ファミリーマイホームがある加住地区は、八王子市平均(28.09%)を上回り平均高齢化率は32.7%という高い高齢化率、団地がないことが特徴です。緑が多く農村風景が残っており、三世代同居が多く独居世帯が少ないなど、町会・自治会の結束力も強く地縁・血縁のつながりが非常に強い地域でもあります。

5. 顔の見える関係による具体的な連携事例(資料なし・音声解説)

滝山会でのネットワークが支援に繋がった事例を紹介します。当施設の利用者様で精神的に不安定になられた方がおりましたが、主治医に精神科がなかったため、滝山会で交流のあった精神科病院に相談し、スムーズに受診・入院へと繋げることができました。また、介護保険制度改正時の情報交換など、日常的な協力体制が確立されています。

6. 当日のプログラムと会場構成(資料7・8・13ページ)

第9回となる今回は、八王子市加住市民センターの体育館をお借りして開催しました。

- ・ 11:30 模擬店開始:焼きそば、焼き鳥、ポップコーンなどを屋外で販売。
- ・ 13:00 開会式:八王子市長や施設長会会長よりご挨拶をいただきました。
- ・ 基調講演:「介護の未来を考える 介護の現状を受け介護の魅力とやりがいを発信」
- ・ アトラクション:職員によるバンド演奏や、和太鼓演奏で会場を盛り上げました。
- ・ 体験・相談コーナー:介護食の試食、ストレス測定、大学ゼミによるコミュニケーションロボット体験、ボランティア紹介など。
- ・ 展示:11の事業所(施設利用者・患者・園児)による作品を展示。
- ・ 16:00 閉会



7. 実績：来場者と経費（資料9・10ページ）

- 来場者合計:189名
（内訳：地域住民33名、施設利用者72名、スタッフ・ボランティア等84名）
- 運営経費：計338,905円
助成金（東社協・八王子ブロック）や、18社の企業協賛金によって運営費を賄いました。次年度への繰り越し金も確保できています。

8. 介護フェアの効果と課題（資料11・12・16ページ）

【効果】

- 会話を通じて、地域住民が抱える「将来の介護への不安」を直接聞くことができました。
- 利用者様の外出支援の機会となり、地域の方々との交流に繋がりました。
- 障害者団体による即売会は非常に好評で、新たな活動の場となりました。

【課題と展望】

- 世代の広がり**：学生や若い世代の参加が少なく、来場者の高齢化が目立ちました。開催時期が学園祭や運動会と重なったことも要因の一つと考えられ、日程の再検討が必要です。近隣のお祭りや学生のイベントなどにも注意をし、企画や構成を含め、参加者の増加を目指して協議を重ねていきます。
- PRの継続**：「予防から要介護状態まで」幅広く施設を活用していただけるよう、一法人では難しい規模のイベントも近隣事業所と協働して継続していくことが鍵となります。

9. おわりに

来年度は節目となる第10回を迎えます。今後も地域共生社会の実現に向け、社会福祉法人として地域の方々に寄り添い、認知症や介護という課題を共に考えていける場を大切に守っていきたいと思います。

「こども食堂フラワープラム」

社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム
馬場 なつみ氏
詳細はP99



1. はじめに（資料1～2ページ）

皆様、こんにちは。本日はこのような機会をいただきありがとうございます。社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラムの馬場 なつみと申します。本日は、私たちが東京都瑞穂町で取り組んでいる「こども食堂 フラワープラム」の活動について、想いを交えながらお話しさせていただきます。

私たちの法人は、東京の中でも自然豊かな瑞穂町で、高齢者福祉を中心に地域に根ざした事業を行っています。フラワープラムは単なる「施設」ではなく、子ども、親御さん、学生、地域の方々など、誰でもふらっと立ち寄れる「地域の居場所」でありたいという強い想いで運営しています。



2. きっかけはコロナ禍（資料3～4ページ）

活動を始めた大きなきっかけは、新型コロナウイルスでした。瑞穂町には長年続いていた高齢者サロンがありましたが、コロナの影響で閉鎖を余儀なくされました。これにより、高齢者は「場所」だけでなく「人とのつながり」や「役割」を一気に失ってしまいました。

同時に、子育て世代も外出の機会が減り、誰にも相談できず孤立を深めていたのではないかと考えられます。世代ごとに静かに進む孤独と孤立に対し、私たちは強い危機感を抱きました。そこで、「高齢者の活躍の場」と「子ども・子育て世代の居場所」を別々に作るのではなく、一緒に作れないかと考えました。誰かが誰かに「してあげる」のではなく、「みんなでつくる場所」にしようというひらめきから、このこども食堂は始まりました。

3. コンセプト（資料5ページ）

誰もが役割を持てる場として、以下の4つの取り組みを掲げています。

- ・ **こどものとまり木**：子どもたちが安心して過ごせる居場所の提供。
- ・ **パパ・ママ応援団**：日曜の昼、仕事で忙しい親御さんが子どもと一緒に遊び、食事を共にすることで、少し手を抜いてもいいのだと思える時間を提供。

- ・ **生きがい活動応援団**：高齢者の活躍の場の提供（元ばらの会の皆様が中心）。
- ・ **学生応援団**：若者の成長と地域参加を応援。

4. 一緒につくる仲間たちと開催内容（資料6～7ページ）

元高齢者サロン「ばらの会」の皆様、地域ボランティア、学生、そして特養に入所されている高齢者の皆様など、活動は多くの仲間を支えられています。

開催は毎月第4日曜日、11時から13時。フラワープラムの敷地内（平日はデイサービスで使用している場所）を活用し、毎月100名以上の方に参加いただいています。裏庭には芝生の広場があり、多くのお子さんが遊べるスペースになっています。

5. 当日の様子と工夫（資料8～9ページ）

- ・ **受付とスタンプ**：受付では、イベントの内容等をご案内。R7.9月からはデジタルスタンプカードを導入し、5ポイントたまるとカレーチケットと交換ができるなど、リピーター獲得を図っています。
- ・ **ガチャガチャ食券**：子どもたちが楽しめるよう、また、お金のやり取りに不安がある高齢スタッフの負担を減らすために導入しました。
- ・ **ランチ**：毎回、旬の野菜をたっぷり使ったカレーを提供しています。「家では野菜を食べない子が、ここでは食べる」という親御さんの嬉しい声もいただいています。
- ・ **遊びと発表**：裏庭の芝生でスナックゴルフを楽しんだり、地元のバンド演奏を聴いたり、吹奏楽、フラダンスなどの発表の機会も設けております。屋外でも自由に過ごせる空間を作っています。

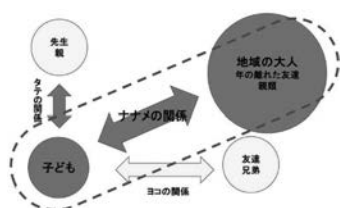


6. 活動から生まれた「関係」（資料10～11ページ）

活動を通じて、一時的な「交流」が継続的な「関係」へと変わってきています。

- ・ **地域の広がり**：ボランティアの高校生や、社会福祉協議会、町議・都議、町長、不登校の学生、ソーシャルワーカーなど、多様な人々が集まり、地域全体が温かくなっていくのを実感しています。3月の町報にも取り上げられることになりました。

7. ナナメの関係（資料12ページ）



私たちは、親や先生、上司や部下（タテ）、でも友達（ヨコ）でもない、地域の大人が関わる「ナナメの関係」を大切にしています。この関係だからこそ話せる悩みがあり、子どもたちにとっての安心感や、支える側・支えられる側の双方のつながりが生まれています。

8. 今後の課題と地域共生への入口（資料13～15ページ）

今後の課題は「担い手の確保」と「活動の継続性」です。中心となるアクティブシニアの方々の高齢化や、町内に大学がない中での学生ボランティアの募集など、課題はありますが、「やめないこと」を最優先に、長期的な視点で運営を続けていきます。

このこども食堂は、地域共生の「入口」です。ここで生まれた関係性を育て、つながりを深めることで、最終的には「共に生きる地域」の実現を目指しています。

9. おわりに（資料16ページ）

こども食堂が、みんなの役割の場、大きな居場所の場となり、これからもつながり続けていける場にしていきたいと考えています。関わってくださる全ての皆様に心より感謝申し上げ、発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

実践報告会

地域に寄り添う活動 担当者 “あるある”

実践報告会でご報告いただいた担当者“あるある”や地域に寄り添う活動から得られること、また皆さん共通の悩みなどについて、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の実行委員の皆さんからコメントをいただきました。ぜひ活動の参考にしてください！

活動を始めるにあたって情報発信し、多くの人を巻き込むことが重要！

つなひろ実行委員からのコメント：

まずは事業所内での情報発信・報告・共有を徹底することで、協力してくれる仲間が増えていきます。小さなことでも積極的に発信する姿勢を大切にしましょう。

新しいことをやることに抵抗勢力があることも、

つなひろ実行委員からのコメント：

新しい取り組みには否定的な声がかかることもあります。目的を丁寧に伝え、進捗を随時共有することで見える化が進み、不安が軽減されます。共通の目的を持って取り組めるよう、対話を重ねていきましょう。

財務の視点で、節約から地域へ還元する考え方のシフトに戸惑いがある

つなひろ実行委員からのコメント：

地域に寄り添う活動の成果は、時間をかけて施設にプラスとして返ってることが多いです。地域に顔を出すことで施設を知っていただき、将来の利用につながることもあります。5年後・10年後を見据え、地域に開かれた施設づくりを進めることで協力者が増え、事業運営も円滑になります。

地域の方に施設に来てもらうことで、質の向上につながる（施設を清潔に保つことができる、サービスマナーの向上、虐待防止など）

つなひろ実行委員からのコメント：

イベントを通じて来ていただくことが、施設を知ってもらう第一歩になります。日常的に気軽に来てもらうのは難しいため、お祭りなどのイベントで来訪のきっかけをつくりましょう。実際に見ていただくことで施設への信頼度も高まります。

地域に寄り添う活動をひとつのブランディングとして活用していくことで、地域の方からの信頼につながる

つなひろ実行委員からのコメント：

まさにその通りです。地域に寄り添う活動は法人・事業所のブランド価値を高めるための投資ともいえます。地域から選ばれる施設であることは期待の表れです。期待に応えられる施設を目指して活動を続けていきたいと思います。

ひとりで担当していて、何から始めたらいいかわからない

つなひろ実行委員からのコメント：

施設内外への情報発信、地域ニーズの把握、情報交換や研修会への参加など、取り組めることは多岐にわたります。できることから一歩ずつ始めてみてください。本報告書の事例で気になるものがあれば、問い合わせしてみるのも良い方法です。

金銭的課題や人材不足、担当者の業務多忙により継続していくことが難しい

つなひろ実行委員からのコメント：

継続のためには取捨選択も大切です。目的に立ち返り、今できる形を考えてみましょう。同じ内容を無理に続ける必要はありません。ただし、一度やめると再開が難しいこともあります。開催回数を減らす、規模を縮小するなど、継続可能な方法を探ってみてください。

地域に寄り添う活動が新規利用者の獲得や職員採用につながる

つなひろ実行委員からのコメント：

こども食堂の参加者や福祉教育を受けた小学生の保護者が採用面接に来る、併設保育園の祖父母がデイサービスを利用するなど、思わぬ形で職員採用や施設の利用につながることもあります。また、実習生に活動へ参加してもらうことで、施設の新たな魅力が伝わることもあります。日々の活動が“種まき”になっていることを意識しましょう。

多世代交流の企画だと人が集まりやすい

つなひろ実行委員からのコメント：

子どもが集まる企画は、親同士の交流にもつながります。また、子どもと触れ合うことで利用者さんの普段とは違う表情が見られ、元気をもらえる場になっていると感じます。多世代交流は良い刺激となり、施設全体に活気が生まれます。

本報告書の「地域によりそいはじめるための10のステップ」や「地域ニーズにこたえるヒント～実践報告会より」等他施設の活動を参考にできることから初めてみましょう！

実践報告会

参加者の声

- 普段関わりのない施設のおはなしがきけて、新しいつながりの予感がしました。
- 実践報告会や情報交換会をとおして、新しい情報や参考になる情報を得ることができてよかったです。
- 知らなかった助成金の情報や当法人の事情でも活用できそうな運営の負担を軽減する工夫について知る事ができました。
- 自分の法人でも挑戦できることはなんだろうと考えながら聞くことが出来ました。
- 人材、経費様々なことを工夫しながら地域のために実践している報告がとても勉強になりました。
- 多くの団体との連携が素晴らしい。
- デジタルスタンプ、是非使ってみたい。
- 東京都内でも地域によって課題が様々だということを知れた。
- 参考になる事があり、良かった。
- 社会福祉業界経験浅く、全ての講義が勉強になった。
- イベント開催の労力、とても大変だと理解しました。連携、拡大の重要性。
- 地域との関わり、他法人と協力して地域活動、大変勉強になりました。人とのつながりが少なくなっている時代ですが、地域の方のつながりを増やし、事業所の活性化につながればいいなと思いました。
- 活動に参加したい気持ちがあるが足がない人への支援を考える必要がある。
- 3ヶ所の取り組み、効果、課題を認識することができました。施設に持ち帰り、今後の共生社会の取り組みに生かしていきたい。
- 具体的な取り組み内容を知ることができて、非常に参考になりました。
- 多様な事例を聞くことができ、今後の参考になった

Ⅲ

キャンペーン実施に 至るまで

～2025年度のふりかえり～



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO とは？

東京の高齢者福祉施設がお互いに協力しながら、地域によりそつためのイベントや交流会を各地で一斉におこなうキャンペーンです。

地域包括ケアを推進し、だれもが安心して暮らせるまちづくりのために、地域で暮らす方々がつながり、その輪がひろがることをめざしています。

豊かな暮らしを支えるしくみがととのえられていく中で、高齢化の進行、社会的な孤立の問題、生活への困窮などが課題となっています。

そこで、「地域の中で、制度の狭間でこぼれ落ちる人がいないよう、一人ひとりによりそうこと」「一人ひとりの生活を、点（サービス）のみではなく、面（ネットワーキング）で支えるための『ちいきの輪』をつくること」を展開するための1つの方法として地域の多様な人びとをつなぐ取組みを行っています。

2025年度 キャンペーン実績

実施期間 2025年9月1日～11月30日

実施数 都内で64事業・473団体

参加数 述べ 12,924名

※詳細はP120参照

「Ⅳきっとみつかる！あなたのまちの『ちいきの輪』（P35）」では、今年度のキャンペーンにおける各施設・事業所の取組みについて区市町村別に下記のテーマと合わせて掲載しております。

キャンペーン取組みレポート テーマ一覧

	テーマ	内容例
Ⅰ 支える 高齢者を	1 認知症	・認知症カフェなど認知症高齢者やその家族を対象とした事業
	2 介護予防・高齢者支援	・介護予防教室など、高齢者を対象とし、閉じこもり防止や交流を目的とした事業
	3 アウトリーチ	・高齢者や地域住民を対象とした訪問・見守り・配食活動
Ⅱ 支える 多世代交流を	4 相談・家族支援	・福祉や介護に関する相談の場の提供 ・介護をする家族を対象とした講座
	5 カフェ・居場所	・多世代を対象としたカフェなど地域住民の誰もが交流や食事ができる場所の提供
	6 学びの機会	・地域住民に対する学びの場の提供
Ⅲ 地域を支える	7 地域団体との協働	・1つの施設・事業所だけでなく自治会や学校など、地域団体やその他の団体と複数で協働して行っている事業
	8 地域交流	・地域住民を招き、交流する事業
	9 防災	・防災訓練や福祉避難所など、地域の防災に関する事業

高齢者福祉施設・事業所での取組み例

しなふく紅葉フェスタ

「地域とともに」地域の絆に感謝して、地域交流イベント「しなふく紅葉フェスタ」を開催しました。「着物リメイクファッションショー」は、地域の活動団体との協働で、幅広い年代の参加者がモデルとなり、赤いじゅうたんのランウェイを、拍手喝さいの中歩きました。
(社会福祉法人品川総合福祉センターかえで荘・プルデンシャル生命保険・八潮ハーモニー・八潮学園・八潮太鼓・NPO法人みんなの食育・関東電気保安協会・明るい選挙推進協会・品川区児童相談所六踏園)

詳細はP45



親子で学べる介護体験イベント

障がいのある方や高齢者など、福祉用具を利用する人の生活や感覚を体験するイベントです。次世代を担う子ども達や保護者の方など、地域の方と車椅子の乗車・操作、高齢者体験、デイサービス送迎車のリフト体験を行いました。
(ケアタウン成増・社会福祉法人みその福祉会、株式会社トーカイ)

詳細はP62

若年性認知症支援事業 フリーサロンあしたばの就労活動

若年性認知症支援事業であるフリーサロンあしたばでは、メンバーの働きたい気持ちを大切にしており、遣り甲斐や地域貢献に繋がる活動を進めております。若年性認知症当事者、大学生、中学生の混成チームで落ち葉拾いを実施しました。
(社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑・若年性認知症支援事業 フリーサロンあしたばメンバー、なぎさ和楽苑の職員、チャレンジザドリームの中学生、教員免許法に於ける介護等体験の大学生)

詳細はP69



2025年の「つなひろ」を振り返る ～再開後3年目を終えて～

社会福祉法人秋川あすなろ会
あすなろみんなの家
今 裕司



■再開後3年目のキャンペーン

“高齢者福祉・介護に関わる社会福祉法人・施設・事業所として、地域の方々に向けた活動を展開し、その実績を広く知っていただく取り組みが必要では？”といった思いからスタートした「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in東京（以下、つなひろ）」。平成28（2016）年度以降の4年にわたる取り組みで、各施設・事業所の取り組みが、地域の中で様々なつながりを生み、広がっていると実感していました。

しかしコロナ禍により状況は一変し、我々の事業は感染対策の名のもとに他者との交わりを絶たざるを得なくなり、「つなひろ」も活動情報収集や共有にとどまり、キャンペーンとしては3年間行うことができませんでした。

令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類への見直しを機に、4年ぶりにキャンペーンを再開し、3年目となりました。

■今年度のキャンペーンから見えること

今年度のキャンペーンへの参加は、昨年度よりは僅かながら増加したものの、コロナ禍以前の4年間と比べると半数をやっと超える程度にとどまりました。

過去2年も含めて参加減少にはいくつかの要因が考えられます。

まず、一番大きいと思われるのは新型コロナウイルスをはじめとした感染症への対応です。一般社会はコロナ禍など過去の話、感染症を理由とした活動の制約など皆無と言えますが、私たちの職場環境では感染症対策は不可欠であり、活動の制約を緩和し広げていくことには今なお慎重な施設・事業所も多いと思われます。

そのため、外部の方を招き入れる、職員が出向くといった活動には踏み出せず、結果としてキャンペーンの参加に至らなかったと考えられます。

また、コロナ禍による「空白の三年間」により、施設・事業所だけでなく、地域の団体等も、これまで築きあげ引き継がれてきた関係やノウハウ等が弱まり途切れ、担い手を失ってしまったとの声も聞かれています。

新型コロナ以外では、人材不足のさらなる深刻化が、「つなひろ」のような活動への取り組みをますます困難にしていると考えられますし、取り組もうという意欲や活動の必要性を考える余裕すら失っているとも考えられます。

再開後すでに3回目ですから、参加数の復調を期待していましたが、期待ほどの増加には至らず施設・事業所を取り巻く環境の厳しさを改めて認識させられるものとなりました。

一方で、複数の取り組みで参加してくださった施設・事業所も目立っています。地域に向けた取り組みを積極的に行っていこうという施設・事業所があることは心強い思いです。

地域に向けた取り組みへの向き合い方が二極化しているとも見えますが、積極的に取り組む施設・事業所の姿が、なかなか取り組みに至らない施設・事業所に波及していくことを期待していますし、これも“つながれ・ひろがれ”の1つの形だと考えています。

今年度の報告書では、新たな取り組みとして、キャンペーン期間以外の取り組みについても情報収集し、レポートを掲載することとしました。

このことで、より多くの施設・事業所の取り組み状況を知ることができ、ヒントも得られるのではないかと考えたのです。

掲載に至った取り組みは決して多くはありませんでしたが、これまで見えてこなかった活動の情報を得られたことは、一つの成果と考えており、次年度以降も継続したいと考えています。

7月に行った説明会（講演会及び情報交換会）や、1月に行った事例報告会では、報告や情報交換を通じて様々な工夫を知ることができました。

また、大学生（ゼミ生やボランティア団体のメンバー）や、保育園関係者などの参加もあり、少し違った視点・立場からのお話を伺うこともできるなど、“ひろがり”を感じる機会ともなりました。

当日の様子は本書にも記載していますので、皆さんにも共有していただきたいと思います。

■キャンペーンのこれから

次年度のキャンペーン実施への準備はすでに始まっています。

実行委員会は新たなメンバーも迎え、活動の充実に向けて検討を進めています。

それぞれの取り組みを共有しヒントを得られるよう、見学会や事例報告等の充実を図っていくことや、東社協の「東京都地域公益活動推進協議会」と連携した活動を検討しています。

感染症対策はおろそかにはできず、人材難などの職場環境も改善は難しい状況ですが、それらを「地域に向けた取り組みができない理由」にしたままではられません。

「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in 東京」キャンペーンが目標としている「地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまち」づくりへの貢献と、社会福祉法人や高齢者福祉施設・事業所に対する「信頼と評価」という成果を得るためにも、多くの施設・事業所の参加を期待しています。

見学会

開催内容（全3回）

第1回 多世代の居場所づくりプロジェクトUI〜結〜（羽村市）

日 時 2025年9月10日（水）14：00～16：00

会 場 社会福祉法人 亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園

※キックオフ記者会見としてメディアを対象に開催

第2回 まち活スタンプラリー（練馬区）

日 時 2025年10月23日（木）11：00～

会 場 社会福祉法人 サンライズ 特別養護老人ホームサンライズ大泉

第3回 弦巻の家スマホcafe（世田谷区）

日 時 2025年11月27日（木）14：00～16：00

会 場 社会福祉法人 奉優会 特別養護老人ホーム弦巻の家

「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」今年度も見学会を行いました。つなひろに参加していただいた都内社会福祉法人の様々な取組の中から、今回も3か所の見学会を実施しました。今年もまたまた燦燦と輝く銀河の綺羅星のような活動の中から3か所に絞り込むのに実行委員（会）はかなり苦労しました。

今年見学させていただいたところは、すべて主体は特別養護老人ホームでした。取り組み内容もなかなか素敵なものでしたが、3か所すべてで、見学会終了後に母体である特養内を見学させていただき、それぞれの法人さんが、介護人材不足の中で様々な工夫をされているところを見せていただくことができました。神明園さんの一階にあった池の鯉が災害時の非常食にもなること、サンライズ大泉さんの防災拠点型地域交流スペースにあったコインランドリー、そして弦巻の家では、各フロア内にイスラム圏から来てくださった職員さん用のお祈りの部屋が準備されていました。目からうろこが何枚もおちました。

見学会には、施設・事業所の関係者だけでなく、メディア関係者の参加もあり、私たちの取り組みをたくさんの方々に知って頂く良い機会にもなりました。今年の取り組みが次年度に繋がり、誰もが安心して暮らせるまちへと続く一歩となることを期待します。

見学会当日の様子

多世代の居場所づくりプロジェクトUI〜結〜

高齢者対象の「より処」と小学生対象の「かふえてりあ はろ」見学会の日は時間が重なっていて、特養の園庭には小学生があふれかえっていました。（※残念なことに見学会後に羽村市の事情で小学生対象事業は中止されたとのことです。）

報道関係者にも来ていただき、つなひろキャンペーンのキックオフ記者会見も行いました。

（神明園／羽村市）

詳細はP95



まち活スタンプラリー

特養が練馬区と西東京市そして埼玉県新座市に隣接していることを逆手にとって、行政区を超えた地域交流の新しいそして大きな形を作り出していました。サンライズ大泉さんの防災拠点型地域交流スペースは、結婚式もできるというこじゃれたホールにレストラン、カフェ、コインランドリー、スポーツジムが内包されていて、災害時に避難されてきた方にとって、役立つと思われる様々な仕掛けがされていました。

（サンライズ大泉／練馬区）

詳細はP64

弦巻の家スマホcafe

見学会の内容は世田谷社協さんのボランティア養成講座卒業の高齢者の方が同じ高齢者にスマホの使い方を高齢者目線でやさしく教えていらっしやいました。会場になっている馬事公苑そばにある最新式の特養併設の地域交流スペースでは電光掲示板で働いている職員さんのファッションショーが映し出されていました。

（弦巻の家／世田谷区）

詳細はP55



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 実行委員会

開催内容（2025年度実績：全7回）

第1回 2025年4月14日

今年度活動内容確認

第2回 2025年6月9日

募集内容確認・説明会検討・広報方法検討（チラシ・キャンペーングッズ作成等）

第3回 2025年8月12日

応募状況確認・見学会検討

第4回 2025年11月17日

実施状況確認・見学会・実践報告会検討

第5回 2026年1月19日

実践報告会・報告書検討

第6回 2026年2月19日

報告書企画検討・次年度実施計画について

世界を大きく揺るがした新型コロナウイルス感染症。あの時、当たり前だった日常が消え、人と人との交流もバラバラになってしまいました。その中で私たちは改めて「つながること」の大切さに気付かされたようにも思います。少し遠回りはしましたが、新しい地域交流のかたちが、パワーアップしあちこちで芽吹き始めました。

「地域に寄り添うために私たちに何が出来るのか」答えは簡単ではありません。だからこそ多くの仲間が集まり知恵を出し合い活動が続けるのです。今年は新たな仲間も加わり、総勢12名で実行委員会を結成しました。メンバーは所属する施設・事業所の種別に偏りのない構成となっています。

今年度も、各メンバーの地域に寄り添った活動経験や身近な地域の状況等について情報交換をしながら事業計画の検討を重ね、研修会や見学会、実践報告会の運営、つながひろ通信の原稿執筆等を行ってきました。

今、社会福祉法人に求められているのは「必要な人にサービスを届ける」ことだけではありません。地域に暮らす全ての人にとって「なんだかあそこにあると安心だね」と思ってもらえる存在になることも重視しています。



情報交換会・説明会の様子。

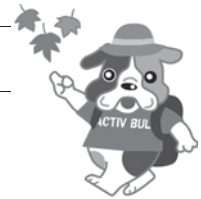
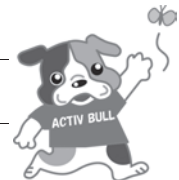
高齢者福祉施設・事業所が、福祉や介護を必要とする方のためだけではなく、地域の誰もが安心して暮らせるまちづくりや、ちょっと元気になる切っ掛けを生み出す存在になるために何ができるのかを考え続けて行きます。



実践報告会では、グループワークに入って一緒に考えることも。

実行委員会の1年（2025年度実績）

時期	主なできごと
4月	委員会（第1回）
5月	
6月	委員会（第2回）
7月	情報交換会
8月	委員会（第3回） プレスリリース
9月	つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン開始 見学会（第1回、メディア向け）
10月	見学会（第2回）
11月	委員会（第4回） 見学会（第3回） つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン終了
12月	
1月	委員会（第5回） 実践報告会
2月	委員会（第6回） 報告書作成
3月	



実行委員会からの声～キャンペーンをふりかえって～

※所属は2026年3月時点



大脇秀一
とらいふ武蔵野

まだまだ新型コロナウイルス感染症は続っていますが、各地域で様々な活動、しかもコロナ禍の経験を活かした活動が行われていることに新たな刺激を受けました。社会福祉法人として地域貢献は義務付けられていますが、窮屈に考えるのではなく、地域と一緒に楽しむ気持ちで取り組めたら最高だと思います。その為にも実行委員会に参加して都内の色々な取組みに触れることはとてもいい参考となります。地域交流に行き詰まりを感じている方は是非、実行委員会に入って一緒に活動しましょう！



小山正子
品川区立中延
在宅サービスセンター

「老人ホームで働きたい！」と思い社会福祉法人に就職しました。あれから…年。あの時の自分に「その選択Goodだよと伝えたい」。施設の利用者だけではなく、地域に住む方全てに寄り添えるこの仕事が大好きです。今年もつなひろの活動から、地域と繋がるためのヒントをたくさん頂きました。『このまち、いいネ』と思える未来を仲間とともに本気で目指しています！日々悩みながらも、笑顔を絶やさず、私たちの挑戦はまだまだ続きます。



相澤和彦
高田介護予防センター

今年も「つなひろ」の活動を通して多くの施設や取り組み、人を知ることができました。そのまま同じことをすることは難しいかもしれませんが、沢山のヒントがそこにはあり、自分たちの活動の刺激になりました。また、見学会後のお楽しみ(?)も最高です。とにかく楽しみながら業務のヒントも得られるつなひろ実行委員会メンバー大募集です。



清野哲男
府中市地域包括
支援センター白糸台

今年も、つなひろ見学会3か所すべて参加させていただきました。毎年感ずるのは、それぞれの社会福祉法人さんの考えだけではなく、担当として地域とつながる一人一人の職員さんの熱意です。人と人とのつながりは、どんなに通信手段が進化しても、紙やSNSの電子情報以外の、人としての魅力があってこそ理解共感を生み、細い糸がやがて大きな綱となり、新しい関係性といううねりを生んでいくのだと思います。それと、新しくできた関係を継続し、メンテナンス、深化させていく力こそが広がる大きな輪を生み出します。



津雪聡子
東久留米市中部包括
支援センター

今年度のつなひろのキャンペーンは、4事業所の見学会を開催し、実践報告を1月に行いました。実践報告会では、8名の大学生もグループワークに参加され、社会福祉法人が地域に寄り添う取り組みの生お声を聴いていただけたと思います。やはり、対面で話すことは良いですね。色々な取り組みや悩み事を聞けて、有意義な時間を過ごすことが出来ました。次回も、たくさんの方にお会いできることを楽しみにしています。



沼尾治巳
府中市立介護予防
推進センター

「つなひろ実行委員会」に参加し、色々な業種や他法人の取組に触れ「つながりと学び」を沢山いただいています。地域で頑張って取り組んでいる法人や一人で奮闘している方、様々な方にもっと「つなひろ」を知っていただき、社会福祉法人の力を合わせ、更に「地域の活性化や笑顔の輪を広げる仲間づくり」にチャレンジしていきたいと思っています！



今裕司
あすなろみんなの家

今年度も「つなひろ」キャンペーンが無事に実施できたこと、実行委員会に楽しんで参加できたことをうれしく思っています。見学会や実践報告会では、さまざまな気づきや学び・刺激があり、自施設へのヒントだけでなく自身への元気もいただきました。この活動には無限の可能性があると思います。次年度はもっともっと大きな輪ができますように。



委員長 我謝 悟
シャローム東久留米

今年度から、ワーキングチームから実行委員会になり、新たなスタートを切りました。加えて、地域公益活動推進協議会との連携を強化し、情報共有しながら進めることができました。実践報告会には、高齢協以外の方が参加され、有意義な意見交換ができました。次年度以降も、ちいきの輪が、もっともっとひろがってつながっていけるように、実行委員会メンバー一同協力し合いながら進めていけたらと思います。キャンペーンに参加していただくことと、このキャンペーンと一緒にやっていくメンバーも募集しています。ぜひ、参加してください。



担当副会長 小林 美穂
小川ホーム

「つながれ ひろがれ ちいきの輪」の名前は、地域に寄り添い、地域で取り残される人がいないよう、みんなが少しでもつながり、誰もが安心して暮らせるまちづくりを作りたいといった委員の方々の想いにより付けられたことと覚えています。

その名の通り、高齢者施設と地域がつながり、人と人がつながり、そんなつながりの場には皆さんの笑顔が見れる素敵な輪が出来てきたように思います。

これからもいくつもの小さな輪がつながり、東京に大きな輪を広げていけたらと思っています。

IV

きっとみつける！ あなたのまちの「ちいきの輪」 ～キャンペーン取組みレポート～



つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2025 実施施設・事業所一覧

期間内

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催施設・事業所名	取り組み名	掲載ページ
港区	1	地域交流	特養	洛和ヴィラ南麻布	ありすフェス	39
台東区	2	認知症	包括	やなか地域包括支援センター	認知症カフェ「カフェやなか」	40
	3	カフェ・居場所	特養	特別養護老人ホーム谷中	やなかまサロン	41
墨田区	4	地域交流	特養	墨田区特別養護老人ホーム たちばなホーム	たちばなカフェ ～カフェから繋がる地域共生社会の輪～	42
品川区	5	啓発講座	地域福祉課	社会福祉法人品川総合福祉センター	ヤングケアラーサポーター養成講座	43
	6	カフェ・居場所	地域福祉課	社会福祉法人品川総合福祉センター	しなふく食堂	44
	7	地域交流	特養	社会福祉法人品川総合福祉センターかえで荘	しなふく紅葉フェスタ	45
	8	地域福祉向上	特養	社会福祉法人品川総合福祉センターかえで荘	しなふく食堂コラボお弁当	46
	9	地域交流	デイ	大井在宅サービスセンター	大井三丁目高齢者憩いの場 こすもすパーティー	47
	10	地域交流	複数施設共催	品川区中延在宅介護支援センター	くつろぎ祭り	48
	11	カフェ・居場所	在支	品川区中延在宅介護支援センター	喫茶せせらぎ	49
	12	介護予防・高齢者支援	デイ	品川区立中延在宅サービスセンター	緑の力で元気ハツラツ	50
	13	地域交流	複数施設共催、地元町内会	品川区立中延特別養護老人ホーム	旗が岡八幡神社例大祭	51
大田区	14	介護予防・高齢者支援	特養、包括、デイ	社会福祉法人響会	ひびき ほっとサロン	52
	15	介護予防・高齢者支援	養護	大森老人ホーム	ホームDEランチ	53
世田谷区	16	地域交流	特養	千歳敬心苑	秋フェス	54
	17	地域団体との協働	特養、包括	特別養護老人ホーム下馬の家	スマホよろず相談会	55
渋谷区	18	地域交流	特養、デイ、訪問介護・訪問看護・居宅介護支援事業所・福祉用具・社活研	社会福祉法人パール	パールよろず博 2025	56
	19	介護予防・高齢者支援	社会福祉活動教育研究所	社会福祉法人パール	パールライフ	57
中野区	20	カフェ・居場所	デイ	松が丘高齢者在宅サービスセンター	ティーサロン華	58
豊島区	21	地域交流	特養、軽費(ケアハウス)、包括、デイ、グループホーム(認知症対応型共同生活介護)	菊かおる園	にしすがも友遊まつり	59
	22	カフェ・居場所	特養、軽費(ケアハウス)、包括	菊かおる園	認知症カフェ『そよかぜカフェかもん』	60
荒川区	23	カフェ・居場所	特養	特別養護老人ホーム 癒しの里 南千住	いやし食堂	61
板橋区	24	学びの機会	デイ、訪問介護	ケアタウン成増	親子で学べる介護体験	62
練馬区	25	地域団体との協働	デイ	社会福祉法人 練馬区社会福祉事業団 富士見台デイサービスセンター	機能訓練士によるマチカフェへの出張介護予防体操!!	63
	26	地域団体との協働	特養	特別養護老人ホームサンライズ大泉	まち活スタンプラリー	64
足立区	27	地域交流	特養、デイ	介護老人福祉施設ケアホーム足立	あだちご近所マルシェ	65
	28	地域交流	デイ	高齢者在宅サービスセンター西新井	ボランティア交流会	66
江戸川区	29	世代間交流、居場所づくり	特養、在宅サービス事業所	なぎさ和楽苑	多世代の子ども食堂「なぎさ☆キッチン」	67
	30	認知症	特養、包括、デイ	なぎさ和楽苑	若年性認知症の家族会カフェ(あしたばカフェ)	68
	31	認知症	デイ	なぎさ和楽苑	若年性認知症の就労支援	69
	32	相談・家族支援	特養、軽費(ケアハウス)、包括、デイ	なぎさ和楽苑	ケアラーズカフェ「よしみち」	70
	33	学びの機会	特養	なぎさ和楽苑	地域の学びと交流の場【学び舎なぎさ】	71
	34	認知症	特養、包括、デイ	なぎさ和楽苑	アルツハイマーデー	72

期間内

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催施設・事業所名	取り組み名	掲載ページ
八王子市	35	地域交流	特養、地域包括支援センター、複数施設共催	偕楽園ホーム・第二偕楽園ホーム・柊の里・ファミリーマイホーム・地域包括支援センター加住	第9回八王子介護フェア	73
武蔵野市	36	カフェ・居場所	特養、デイ	特別養護老人ホームさくらえん	さくらんち	74
青梅市	37	地域清掃	特養	特別養護老人ホーム 今井苑	青梅インター清掃	75
府中市	38	学びの機会	特養、養護、包括	社会福祉法人多摩同胞会 緑苑	安心シニア塾	76
	39	介護予防・高齢者支援	複数施設共催	府中市立介護予防推進センター	長いきいきフェスタ	77
調布市	40	学びの機会	包括	地域包括支援センターとさわぎ国領	高齢者をねらう悪質商法からこの地域を守ろう（見守りネットワークAゾーン会議）	78
町田市	41	地域交流	特養	友愛荘	友愛荘秋マルシェ	79
小金井市	42	防災	特養	特別養護老人ホームつきみの園	地域の防災サロン	80
小平市	43	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人 緑友会 小川ホーム	だれでも食堂「おがワン広場」	81
	44	地域交流	特養、包括、デイ	社会福祉法人 緑友会 小川ホーム	ふれあい交流イベント「おがワンフェスティバル」	82
	45	認知症	包括	社会福祉法人 緑友会 小川ホーム	笑顔でつながるおれんじパントリー	83
日野市	46	介護予防・高齢者支援	デイ	デイサービスセンター マザアス多摩川苑	見守りとしっかり栄養 配食サービス	84
東村山市	47	地域交流	特養、デイ、在支、法人内の障害・保育事業所	社会福祉法人 村山苑	村山苑 ふりば	85
	48	地域交流	特養	白十字ホーム	第10回八国山フリーマーケット	86
東久留米市	49	地域交流	特養、包括、デイ、ホームヘルプサービス、居宅介護支援事業所、ショートステイ、就労継続支援B型	高齢者福祉総合施設 マザアス東久留米	地域マルシェ	87
	50	地域交流	特養、包括、デイ	社会福祉法人 三育ライフ	シャローム祭	88
	51	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人三育ライフ シャローム東久留米	佳辰の会（かしんのかい）	89
	52	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人三育ライフ シャローム東久留米	シャロームカフェ	90
	53	カフェ・居場所	包括	東久留米市中部地域包括支援センター	失語症当事者の会 チャレンジ	91
	54	カフェ・居場所	特養	特別養護老人ホームけんちの里	たけのこサロン	92
羽村市	55	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園	多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～ かふえてりあ はろ	93
	56	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園	多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～ 神明台自習室みらい	94
	57	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園	多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～ 高齢者の居場所 より処	95
あきる野市	58	地域団体との協働	自治体・事業者団体等の協働	あきる野市、あきる野市地域包括支援センター、あきる野市介護事業者連絡協議会	介護サービス普及啓発イベント「介護の日」	96
	59	地域交流	デイ	あすなろみんなの家	あすなろマルシェ	97
	60	地域交流	デイ	あすなろみんなの家	シルバー麻雀「リーチクラブ」への協力	98
瑞穂町	61	カフェ・居場所	特養、デイ、在支、ショートステイ	社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム	こども食堂フラワープラム	99
	62	介護予防・高齢者支援	特養	特別養護老人ホーム良友園	ふれんどサロン	100
	63	地域交流	特養	特別養護老人ホーム良友園	ふれんどファーム	101
日の出町	64	地域交流	特養	特別養護老人ホーム藤香苑	みんなのホットランチSP	102

期間外

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催施設・事業所名	取り組み名	掲載ページ
渋谷区	1	介護予防・高齢者支援	特養、 軽費（ケア ハウス）、 複数施設 共催	せせらぎ ケアハウス	圧倒的風船バレー大会による要介護高齢者のエンゲージメント向上の可能性	103
豊島区	2	地域交流	介護予防 センター	高田介護予防センター	ふくろうフェス2025	104
練馬区	3	カフェ・ 居場所	特養	第3育秀苑	こども食堂	105
	4	認知症	デイ	第3育秀苑デイサービスセンターレインボー	なないろカフェ	106
	5	学びの機会	特養、包括、 デイ、 居宅介護支援	第二光陽苑	遊んで学ぶ！福祉がわかるゴミ拾いゲーム	107
江戸川区	6	防災	特養	癒しの里西小松川	癒しの里防災食堂	108
	7	フードロス 対策、生活 困窮者支援	特養、 在宅サード ス事業所	なぎさ和楽苑	なぎさ フードドライブ	109
武蔵野市	8	地域交流	特養	とらいふ武蔵野	とらいふエールのタベ	110
青梅市	9	学びの機会	特養	和楽ホーム	認知症サポーター養成講座	111
あきる野市	10	地域交流	デイ	あすなろみんなの家	ふれあいお茶飲み会	112
瑞穂町	11	学びの機会	特養、デイ、 在支、 ショートステイ	社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム	瑞穂町の歴史を知ろう！	113

期間内

No.1

港区

特養

地域交流

洛和ヴィラ南麻布 ありすフェス

- 開催日程 11/2 10:00～15:00
- 参加団体 社会福祉法人新生寿会、社会福祉法人健誠会
- 参加人数 450名

実施の目的

隣接している他法人と共同して地域貢献活動を行う。

当日の様子

地域の方をはじめ、利用者もたくさん来所され、450名ほどの来場者があった。各法人でブースを出したり、ゲストスピーカーに来てもらったり、15周年のイベントで風船をあげたり、地域の方と一体となって実施できたイベントであった。屋上で養蜂も実施しており、ミツバチの生態をすることで社会的な偏見をなくすことなどを目的にはちみつ販売も実施した。はちみつはかなりの売れ行きであった。

地域の課題や今後の課題

毎年実施し、地域との交流を深めていきたい。

ボランティアなど、少しずつ受け入れも増えてきているが、まだまだ少ないので、今後も受け入れを進めていきたい。

やなか地域包括支援センター 認知症カフェ「カフェやなか」

■開催日程 10/22 14:00～15:30

■参加団体 土田病院

■参加人数 19名

実施の目的

認知症のある方とご家族、地域の方など誰もが気軽に立ち寄れる場の提供。悩み相談や、情報共有を通して、交流を深められることを目的としている。

当日の様子

講師が、認知症の家族との付き合い方や病院受診の方法、認知症予防について話した。その後、講師への質問の時間やフリートークの時間を設けて参加者が気になることや感想など話した。認知症を予防したい方、家族のことで悩んでいる方、当事者など幅広く参加された。

地域の課題や今後の課題

初めてカフェに参加する方も増えて、認知症に関心がある方が増えてきているように感じた。一方で、参加するまでに時間がかかってしまう家族もあり、認知症を隠したいという羞恥心など、認知症への偏見はまだまだなくなっていないという課題も感じた。

今後も、当事者や家族など、誰でも参加ができるカフェの開催をしていきたい。

特別養護老人ホーム谷中 やなかまサロン

■開催日程 ①10/17 11:00～12:45

②11/14 11:00～12:45

令和7年4月から毎月第2金曜日に開催。

令和7年11月、12月は「施設の食事を食べてみよう会」を第4金曜日に拡大開催。

■参加団体 やなか高齢者在宅サービスセンター、やなか地域包括支援センター

■参加人数 154名

実施の目的

地域に住む65歳以上の方を対象に、介護予防と地域の高齢者の憩いの場を提供する目的として、「施設の食事を食べてみよう会」と「みんなで歌おう会」の2つの事業を特養が中心となり定期的に開催。



当日の様子

第1部は「みんなで歌おう会」を開催。特養やデイで行っている音楽プログラムを地域住民を対象に実施し参加者の交流を図る。1か月ごとに音楽プログラムの内容を「音楽療法」と「ギターとピアノに合わせて歌おう」に分けて提供。第2部は「施設の食事を食べてみよう会」を開催。食事前に管理栄養士に献立のポイントを解説し、特養やデイで提供している昼食を体験してもらい、参加者の交流の場としている。

地域の課題や今後の課題

社会資源が少ない地域の中で、新しい社会資源として、定期的に開催し気軽に参加できる事業の構築が重要であるとする。期待される効果として、地域の課題でもある、引きこもりや孤独死、社会的孤立の予防に有効であるとする。今後もニーズがあれば、この事業を継続していきたい。

墨田区特別養護老人ホーム たちばなホーム たちばなカフェ ～カフェから繋がる地域共生社会の輪～

■開催日程 ① 9/12 10:30～11:30

② 10/2 14:30～15:30

③ 11/11 10:30～11:30

■参加団体 墨田区特別養護老人ホーム たちばなホーム、さんいくハイツ東あずま 墨田区特別養護老人ホーム はなみずきホーム すみだステップハウスおおぞら ひだまり ちよがみの会、墨田区社会福祉協議会、立花児童館

■参加人数 82名

実施の目的

たちばなカフェを通じて、特養の利用者が世代や分野を超えて地域と繋がる。

当日の様子

9月と11月のカフェでは、ひだまりやハイツの利用者とたちばなホームの利用者、ボランティアが地域のケーキ屋さんのケーキやコーヒーをいただきながら、おしゃべりをしたり折り紙をして交流を図った。

10月のカフェでは墨田区社会福祉協議会のプラットフォームのイベントとカフェのコラボで児童館の利用者や地域住民が多く参加した。乳児から高齢者までの多世代が参加し、おしゃべりや手形アートの共同制作を行い、笑顔が多く見られた。

地域の課題や今後の課題

核家族化により子育て世代の母親からは祖父母が遠くに住んでいる場合、高齢者と交流する機会がないとの意見があった。また特養の利用者もコロナ渦以降、外部との行事が減少し、地域との繋がりが希薄になっている。今後もたちばなカフェやプラットフォームでの行事を通じて施設を開放し、特養の利用者と多世代の地域住民との交流の場を作っていきたい。

社会福祉法人品川総合福祉センター 地域福祉課 ヤングケアラーサポーター養成講座

■開催日程 ①11/25 15:00～17:00 ②11/29 13:00～17:00

全2回コース。R8年2月にも同コース開催

■参加団体 後援：品川区・品川区社会福祉協議会 助成：社会福祉法人東京都共同募金会

■参加人数 40名

実施の目的

「高齢者」「障害者」「児童」の枠にとどまらず、すべての人の幸せのために、社会的なニーズに目を向け、正しい理解を促進し、認知度を高め、地域における支え合いへつなげることを目的に、福祉啓発講座を開催する。



当日の様子

講座内容

1. ヤングケアラーとは。元ヤングケアラーの体験を聞く。ヤングケアラーの思いを知る。
2. 対人援助、声掛けの基本等について学ぶ。
3. ヤングケアラー実態と課題。品川区の支援と連携の流れについて知る。事例検討（グループワーク）。支援における留意点・気づくポイント等

サポーター養成講座としては2年目。講座カリキュラムを検討、開催。区民向けの啓発講座の内容となっている。

地域の課題や今後の課題

区民向けヤングケアラーの啓発講座は、令和4年度より細々と続けている。当事者に一番身近な区民に対して、「ヤングケアラーに関しての理解」に向けた啓発の機会は少ないため、継続開催していく事が重要である。存在に気づき、つなぎ、見守ることのできる理解者を増やすため、ヤングケアラーを支えるサポーター養成講座を開催している。ヤングケアラーを取り巻く環境には、家族の課題を伴っているケースが多いため、様々な視点から支えることができるようきっかけ作りとしての居場所を併行して作っていくことも重要であると考えている。

社会福祉法人品川総合福祉センター 地域福祉課 しなふく食堂

- 開催日程 令和7年4月～令和8年3月（継続中）
毎月1回 2時間の開催
- 参加団体 品川区子ども家庭支援センター、品川区社会福祉協議会、（株）ベストフードサービス、（株）文化堂
- 参加人数 （4月～12月まで）316名

実施の目的

子ども、障害者、高齢者の枠にとどまらず、すべての人の幸せのために、地域社会的なニーズや課題に目を向け、地域福祉向上を目的に実施する。

当日の様子



月1回の開催で、一回定員20名に200円で夕食を提供している。（夏季は昼食）食事の提供だけでなく、ゲームやおしゃべり、憩いのひと時を提供。単身高齢者が、地域の子どもやご家族とゲームをしたり、新しい出会いを楽しんでいる。

近隣の地域住民の様々な皆さんにご利用いただいている。

この機会をきっかけに、居場所、人とのつながり、孤立防止、ヤングケアラー等、さまざまな問題解決の糸口となるきっかけができると想定し、まずは信頼を築くことを目指して、実施している。

地域の課題や今後の課題

社会課題である、老々介護・高齢者の単身世帯・認知症高齢者・貧困・孤独孤立・不登校・引きこもり・ヤングケアラー・などは、八潮地区でも、重要な地域課題となっている。

資金的な面、運営人材の面では、継続安定した実施をしていくために課題がある。

つながることで、地域の課題が見えてきた。必要な状況には、支援につなげ、ゆったりつながることで、地域住民の支えになりたいと考えている。

社会福祉法人品川総合福祉センターかえで荘 しなふく紅葉フェスタ

■開催日程 10/26 11:00～14:30

■参加団体 プルデンシャル生命保険・八潮ハーモニー・八潮学園・八潮太鼓・
NPO法人みんなの食育・関東電気保安協会・明るい選挙推進協会・品
川区児童相談所六路園

■参加人数 574名

実施の目的

- ・施設利用者の文化的な活動を推進し、自己実現、社会参加の機会。
- ・地域交流の場を作ること、相互理解を深める。
- ・地域の協力体制を構築していくと同時に、地域住民と共に楽しみ、地域福祉力の向上を図る。

当日の様子

急遽天候の関係で、会場の変更を行い、ステージプログラムを室内開催に変更した。

ステージでは、施設利用者の発表の他、地域の中学生の吹奏楽、地元の太鼓之会の演奏で、盛り上がった。最後のメインである「着物リメイクファッションショー」は、地域の活動団体との協働で、リメイクした着物をお借りし、施設者・ご家族・地域住民・職員と、年代も9歳から104歳までの参加者がモデルとなり、赤いじゅうたんのランウェイを、拍手喝さいの中歩いた。まさに、「地域とともに」を実現できた。



地域の課題や今後の課題

雨天の準備が不十分だったため、2日前に様々な変更を行う中、戸惑ったが、当日の臨機応変な対応が功を奏し、イベントは、無時開催できた。例年ステージは駐車場(外)に設営していたが、6階の会場は、さまざまな制限があるものの、よい形で開催できたため、来年度は、雨天に関わらず、ステージは6回開催でもよいのではないかと意見が多かった。いつもと違う環境で実施せざるを得なかったが、開催してみて6階の会場の良さを発見できた。次年度に生かしたい。

社会福祉法人品川総合福祉センターかえで荘 しなふく食堂コラボお弁当

■開催日程 令和7年4月～令和8年3月（継続中）

毎月2回 2時間

■参加人数 （4月～12月まで）577名

実施の目的

子ども、障害者、高齢者の枠にとどまらず、すべての人の幸せのために、地域社会的なニーズや課題に目を向け、地域福祉向上を目的に実施する。



当日の様子

月2回の開催で、一回約30食のお弁当を200円で提供している。

単身高齢者の方、認知症高齢者のいるご家族、多子世帯の保育園帰りのママさんなど、近隣の地域住民の様々な皆さんにご利用いただいている。

案内ちらしを外壁に貼ると、2日くらいで定員を超えてしまうくらいの申込みの反響がある。

この機会をきっかけに、人とのつながり、孤立防止等、さまざまな問題解決の糸口となるきっかけができると想定し、まずは信頼を築くことを目指して、実施しており、その効果が出てきている。

地域の課題や今後の課題

社会課題である、老々介護・高齢者の単身世帯・認知症高齢者・貧困・孤独孤立・不登校・引きこもり・ヤングケアラー・などは、八潮地区でも、重要な地域課題となっている。

このお弁当配布は、助成金を得られたことで実施できている。

資金的な面では、継続安定した実施をしていくために課題がある。

地域からの期待度が大きいため、それにこたえるために、次年度の運営資金の助成先を探している。

大井在宅サービスセンター

大井三丁目高齢者憩いの場 こすもすパーティー

■開催日程 9/20 10:30~13:00

■参加団体 東京在宅サービス、プラチナ美容塾、品川ボランティアセンター、支え愛ほっとステーション

■参加人数 35名

実施の目的

地域に開かれた施設として、新規利用者へのPRや地域住民（全世代）との交流を図る場として「こすもすパーティー」を再開し、サービスのニーズヒアリングとしても活用する。

当日の様子



内容・飲み物・惣菜パン・焼き菓子等販売 利用者作品販売

- ・三丁目紹介スライドショー
- ・体験コーナー（交代）
 - ・ストレッチ（東京在宅サービス）
 - ・あたまのフィットネス倶楽部
 - ・ハンドマッサージ&ネイルケア（プラチナ美容塾）1
 - ・折り紙づくり（テディベア作成）

普段の活動紹介と体験ができる機会を楽しむ方もいたり、飲食を楽しむ方もいた。

地域の課題や今後の課題

ことは、無料プレゼントを行わなかったためか、集客が少なかったが、少ない人数なりに、しっかりと説明したり、かかわることができた。その関係で、普段の教室に参加申し込みをいただくことができた。

要望を伺うことができたため、今後に活かしたい。

中延複合施設 くつろぎ祭り

- 開催日程 10/11 11:00～15:00
- 参加団体 近隣小学校、福祉施設、手話サークル、地元町会高齢者合クラブ
- 参加人数 200名

実施の目的

イベントの開催により、地域の方々が来館する目的を作り施設を知っていただく。特別な人が使う特別な場所ではなく、誰もが利用できる場所と感じてもらう。

当日の様子

前日の予報通り、朝から雨が降り続いたが、施設内のイベントブースに加えテントを貼った屋外エリアも大勢の人で賑わった。アトラクションとして近隣小学校の金管バンドを依頼したこともあり、幼児から高齢者まで多世代の来館があった。「子供から大人まで楽しめる、職員も一緒に楽しむ」をコンセプトに模擬店、アトラクションを企画したため、来館者の満足度も高かった。

アクティブル君の登場もあり、子供たちが喜んでいた。

地域の課題や今後の課題

地域においては、高齢化の進行や住民同士のつながりの希薄化が課題として挙げられる。また、障害のある方への理解や交流の機会も十分とは言えない状況がある。

今後は、本事業のような交流の場を継続的に設けることで、地域住民同士の関係性を深めるとともに、誰もが安心して参加できる環境づくりを進めていく。

さらに、学校や各種団体との連携を強化し、地域全体で支え合う体制の構築を目指す。

中延複合施設 喫茶せせらぎ

- 開催日程 毎月第3木曜日 13:00～16:00
- 参加団体 中延複合施設、傾聴ボランティア団体クローバーの会
- 参加人数 30名

実施の目的

施設のロビー（入口）を活用し、誰もが集える場として喫茶を開催。「喫茶店でお茶を楽しむ」ように近隣の方々を誘っている。人との交流が気軽にできる場として開催している。

当日の様子

定番のパンとコーヒーに誘われランチ、アフタヌーンティーを楽しむように利用してもらっている。周りを気にせず話せる空間や人恋しい人に寄り添えるウエイトレス（傾聴ボランティア）が待機していることで、世代を超え一息つける空間となっている。

引きこもりがちな高齢者へ『公的サービス』を安易に勧めるのではなく、集いやすい場を作ることで、外出機会を増やし楽しみの持てる生活に一役かうことができた。

地域の課題や今後の課題

地域には、まだ活かしきれていない力がある。とりわけ元気な高齢者が持つ経験や知恵は、これからの地域づくりに欠かせない存在である。

「喫茶せせらぎ」で生まれるつながりを起点に、子育て世代をはじめとした次の世代へとその力をつないでいく。

世代をこえて支え合う関係が、日常の中で自然に育まれていくことを目指したい。

品川区立中延在宅サービスセンター 緑の力で元気ハツラツ

- 開催日程 11月～3月 月1回（土曜日）
- 参加団体 （協力）NPO法人日本園芸療法研修会
- 参加人数 50名

実施の目的

「体操」だけが介護予防ではない！好きなことを続けること、人と触れ合うことは体操以上に効果を発揮すると考え、園芸活動に焦点を当て活動を行った。

当日の様子

今年度初めての試みだったため、案内は施設掲示板、地域センターのみに配布した。全5回（定員10名）で実施したが、どの回も満員となった。園芸+大人のクラフトを意識したプログラムだったため、材料費（参加費）が高めの設定だったが、参加者の満足度は高かった。

園芸、土いじり、クラフトが好きな方が参加されていたため、活動中も参加者同士の会話ははずみ活気のある活動となった。毎回、植物や作品を持ち帰って頂いたため、帰宅後、家に飾ったり、毎日世話をすることで活動量も増えたと後日伺うことができた。

地域の課題や今後の課題

介護予防で体操等のトレーニングは、区主催のものやフィットネスクラブ等で盛んに行われているが、体操は気乗りしないと言う方も多くいる。外出の機会や友人との交流が減っている方が、自分の好きなこと、興味あることへ参加することで、生き生きとした生活が送れることこそ最大の介護予防となると改めて感じた。

施設で園芸療法を取り入れて25年。そのノウハウを地域に還元したい。

中延6丁目町会（旗が岡八幡神社氏子町会）

旗が岡八幡神社例大祭

- 開催日程 ①9/27 13:00～21:00
②9/28 10:00～16:00
- 参加団体 中延6丁目町会、中延複合施設
- 参加人数 150名

実施の目的

地元神社の例大祭を町会と協働して行う。施設利用者を含めた地域住民が集まり、交流を深め、安心して楽しく過ごせる地域づくりにつなげることを目的とする。また、地域住民とともに支え合える関係を育む機会とする。

当日の様子

日中には元気な掛け声とともに子ども神輿が施設前を渡御し、高齢者施設のご利用者の方々は笑顔で手を振りながら応援している。子どもたちの力強い姿に、「元気をもらえるよ。」などの声も上がり、温かい空気に満ちていた。渡御のあとにはかき氷をふるまい、親子連れや地域の大人たちも次々と立ち寄り、世代を超えた交流が生まれるひとときとなった。

夜には明かりが灯り、盆踊りが大会がスタート。太鼓の音が鳴り響くと同時に会場には続々と人が集まり、活気あふれる夜となった。

地域の課題や今後の課題

地域の課題及び今後の展望として、当地区は戸建て住宅が多く、親子三世代での同居も多く見られることから、世代交代が比較的スムーズに進み、例大祭も順調に行われている。例大祭に合わせて行われる盆踊りは主に高齢層の住民が担っているが、施設入所者の参加も多いため、今後も継続して協力できる体制づくりができるよう努めていく。またそのことがより良い運営につながると感じる。

社会福祉法人響会 ひびき ほっとサロン

■開催日程 ① 9/14 10:30~12:30

② 11/16 10:30~12:30

■参加人数 43名

実施の目的

地域の高齢者の方の、「ほっとできる」「ホットな」交流の場として開催。地域の一人暮らし高齢者、又は高齢世帯の方々に対して、交流の機会と場を設け、孤立感の解消の支援を目的とする。



当日の様子

① 9月14日は、「音楽イベント・サンシャイン合唱団」＆「昼食会」を行った。音楽に合わせて楽しく合唱や体操を行い、あっという間の1時間だった。「久しぶりに声を出して歌った。楽しかった。」という声がいくつもあり、皆さん元気に過ごされた。
② 11月16日は、「ポールウォーキング」＆「昼食会」を行った。大田区ポールdeウォーク推進協議会の方に指導いただき、まずは屋内で体操とウォーキングの練習を行った。その後近隣の公園まで散歩、「思ったより体を動かす!」「楽しかった。」と健康づくりを意識する機会となった。

地域の課題や今後の課題

「ひびき ほっとサロン」は、平成28年より始まり、11月の開催で通算33回目となった。「昼食会」のイベントであることも認識されており、「お昼ご飯が楽しみ」とおっしゃる方も多く、地域の高齢者の交流の機会として定着してきている。毎回地域の掲示板で広報を行っており、新規の参加者が数名いらっしゃる。参加者同士で、イベントの感想を話したり、情報交換をしたりするなど、楽しく過ごされている様子であった。今後も、楽しく参加いただける企画を開催し、高齢者の社会参加や元気維持・介護予防に寄与していきたい。

社会福祉法人 東京蒼生会 大森老人ホーム ホームDEランチ

- 開催日程 ①9/5 12:15～13:15
②9/19 12:30～13:30
9/23、10/6、10/10、10/24、10/31
- 参加人数 129名

実施の目的

地域との交流を目的として、近隣在住の高齢者（特に独居高齢者）の皆様を中心にバランスのとれた昼食を提供すること。

当日の様子

- 12時15分 個々に来園。1階なごみにて時間まで待機（お金の支払）。
時間まで健康や食事について質問などに対応。
夏（7月～9月）は、イオン水を提供。
- 12時30分 食堂に誘導、配膳。
- 13時15分 食事終了以降、1階なごみにて自由に談笑・帰宅。

地域の課題や今後の課題

夏の開催は、ランチのため猛暑が長く続く中での来園となるため脱水防止に努める対応が必要。

参加者の口コミで少しずつ利用者が増加傾向、現在是对応できているが増加に伴うランチ提供体制についても今後検討課題である。

施設で提供するスタイルのため、対象者が入院などすると参加意欲が低下し再開までに時間がかかる環境であることが課題。

千歳敬心苑 秋フェス

- 開催日程 11/16 11:00～15:00
- 参加団体 日清医療食品、緑ヶ丘ダンス部、給田小学校子どもばやし
- 参加人数 200名

実施の目的

地域公益事業の一環として地域の方々に参加いただき、安価又は無料で飲食物やイベントを提供させていただき、地域交流を図る。

当日の様子

新型コロナウイルス感染症の流行後、6年ぶりに地域の方々と交えてのイベントでした。久しぶりのイベントではありましたが、多くの人に来ていただき、楽しんでいただけたと思います。模擬店やゲーム、地域の小学校のダンスチームによるダンスの披露、小学生によるお囃子など、地域の方々のみならず、ご入居者にも楽しんでいただけたイベントとなりました。大きな問題がなく行えたことが良かったと思います。

地域の課題や今後の課題

新型コロナウイルス感染症と共存していかなければならない中、イベントを企画することはリスクがありますが、感染予防、対策をしっかりとて毎年の恒例行事にしています。回を重ねることで、地域の方々に認知され、より盛り上がりのあるイベントにしていきたいと考えています。

特別養護老人ホーム下馬の家 スマホよろず相談会

■開催日程 11/27 14:00～15:30

■参加団体 世田谷区社会福祉協議会

■参加人数 10名

実施の目的

特養で暮らすご入居者と地域住民が自然に交流できる機会をつくり、地域と施設がつながる場の創出を目指しました。

本事業は、東京都社会福祉協議会、世田谷区社会福祉協議会、施設職員が連携して実施しました。



当日の様子

当日は弦巻の家GWSカフェスペースにて開催し、地域の方々とご入居者が同じテーブルを囲みながらスマホ操作の相談や確認を行いました。

画面を一緒にのぞき込み、分からない部分を教え合う中で、会場には自然と笑顔と会話が生まれ、和やかな雰囲気に包まれていました。

弦巻の家のご入居者が地域の方と一緒にあってスマホを通して交流する姿は、当たり前のようにいて、なんだかとても幸せな気分になる光景でした。

参加者からは「安心して相談できた」「また参加したい」との声も聞かれました。

地域の課題や今後の課題

今回の取り組みを通して、高齢者が気軽にスマホの相談ができる身近な場の必要性を改めて実感しました。

また、施設入居者と地域住民が自然に関わることで、施設が地域の一部として受け入れられるきっかけにもなりました。

今後も継続的に相談会を開催し、地域住民や関係機関との連携を深めながら、地域福祉の拠点として役割を果たしていけるよう取り組んでまいります。

社会福祉法人パール（社会福祉活動教育研究所） パールよろず博 2025

■開催日程 ①11/28 10:00～16:00

②11/30 10:00～16:00

■参加団体 960名（4月～11月）

■参加人数 2日間合計80名

実施の目的

地域住民・関係機関等の皆様に、社会福祉法人パールに足を運んでいただき、施設内やスタッフ、ボランティア等の業務・活動を見て頂くことで、「パールってどんな所で、ふだん何をやってるの？」という役割・存在意義をより理解し、身近な存在として認知していただくことを目的としています。今年で6回目の開催となりました。



当日の様子

来訪者の皆様には今年も「間近で見る施設ツアー」による特養やデイサービス、フレイル教室見学と、「活動紹介ポスター展」にて、私たちの活動を紹介させていただきました。11月28日には、六本木じろうさんによる「みんなで歌おう！昭和歌謡カラオケ」や、29日には「OLDIES BUT GOODIES 音楽会」なども開催し、賑やかな時間となりました。

地域の課題や今後の課題

渋谷という大都会にて誰もが取り残されることなく、安心して、その人らしく生きていける環境作りに寄与できるよう、今後も行政・町会・地域の皆様と協力して、様々な機会を作っていきたい。

社会福祉法人パール（社会福祉活動教育研究所） 地域のたまり場・パールライフ

- 開催日程 毎週月・水・金 11時～14時
- 参加人数 （4～11月延べ）960名

実施の目的

高齢化社会を迎え、世代を超えて地域の住民が「声を掛け合い」「助け合い」「支えあい」、誰もが安心して一生涯、住み慣れたこの地で生活をし続けることができる地域社会創造を目指しています。



当日の様子

毎回、午前中はフレイル予防を目的に「体操」「太極拳」を実施。ランチを挟み、午後は「数独」「麻雀」「音楽」「お話し」「英語」「茶道」「書道」など多彩なプログラムを行っています。同じ時間・体験・目標を共有することで、中仲間意識、次回への参加意欲に繋がっています。皆様の「人お繋がる場所がある」という安心感や、生きがい創り貢献しています。

地域の課題や今後の課題

地域の元気な高齢者が集う場所・機会が少ない。今後はコロナ以前に実施していた「出張版パールライフ」の再開等の企画・実施していきたい。

社会福祉法人フロンティア 松が丘高齢者在宅サービスセンター ティーサロン華

■開催日程 毎月第4水曜日 11:30~13:00

■参加団体 いけぶくろ茜の里

■参加人数 88名

当日の様子

シニアプラザを利用される自主グループや介護予防講座等の参加者、地域住民、ケアマネジャーなどが立ちよりられます。コーヒーや紅茶、ちょっとしたお菓子の他に障害者施設「茜の里」のパン販売もあり、購入したパンとコーヒーや紅茶を飲みながら楽しくお話をされています。参加者からはサロンでの月に1回の交流を楽しみされている、自主グループ活動のあと皆でおしゃべりするのは楽しいなどの声が聞かれました。

地域の課題や今後の課題

引きこもりがちな高齢者の外出のきっかけや集いの場所になればと考えていますが、まだまだ知られていないのでPRしていきたい。今後は地域包括支援センターとコラボレーションして介護や生活の相談ができる場所としての活用も考えています。

区民ひろば西巣鴨運営協議会 にしすがも友遊まつり

■開催日程 10/4 13:00～15:30

■参加団体 西巣鴨新田町会、庚申塚町会、菊かおる園、小菊の家、西巣鴨小学校及びPTA、子どもスキップ西巣鴨、大正大学、淑徳巣鴨中学高等学校、巣鴨北中学校PTA、第一地区青少年育成委員会、巣鴨地区民生児童委員会、巣鴨庚申堂奉賛会、庚申塚商栄会、豊島区民社会福祉協議会

■参加人数 219名

実施の目的

みんなが主役 広げよう地域の輪SDGs

当日の様子

＜オープニングセレモニー＞

■区長挨拶 ■西巣鴨小学校児童有志による「にしすっ子ダンス」

■SDGsコーナー ■防災コーナー ■ダーツ ■ソースせんべい

■チョコバナナ ■カフェ

■缶つみゲーム ■千本つり ■昭和の遊びを楽しもう ■鉄道模型

小学生や未就学児を含め多くの地域の方が参加し各コーナーやゲーム等を楽しんだ。ゲームなどに参加しながら世代を超えた交流が図られた。

地域の課題や今後の課題

- ・地域への情報発信方法。知っていただくための取り組み。
- ・子育て世代の参加は増えているが、運営側は高齢化が進んでいる。多くの世代の地域住民のかかわりを増やひていく事が課題となっている。

菊かおる園

認知症カフェ『そよかぜカフェかもん』

■開催日程 第2・第4木曜日 14:00～15:30（9月～11月）

■参加団体 菊かおる園・民生委員・東京福祉保育専門学校・菊かおる園地域包括センター・大正大学

■参加人数 120名

実施の目的

- ・認知症高齢者やその家族が地域の中でその人らしくイキイキできるための交流の場。
- ・専門職に相談できる機会の提供。
- ・地域の方々に認知症の理解を深めてもらう機会と地域で見守りができる環境の創出。

当日の様子

- ・民生委員の参加（2回）や、介護福祉学科、専門学校生留学生コースの生徒の参加（4回）があり一緒に活動をおこなった。
- ・地域の方や併設のケアハウスの方が元気に参加をした。特養利用者も参加し、施設の方が地域方との交流をすることが出来た。
- ・モルックを開催し体を動かしたり、コンサートを開催している。その後には茶話会を開催し交流の場としている。

地域の課題や今後の課題

- ・本人は参加をしたいとの気持ちがあるが、一人で参加をするには危険があるように感じる事と難しい点があるため、参加をするためのフォローが必要である。しかし、その方の参加へのフォローができない状況であり難しさを感じている。
- ・地域の方への参加の促しや、参加するためのお手伝い。
- ・地域包括センターとの連携をさらに深めていきたい。

特別養護老人ホーム 癒しの里 南千住 いやし食堂

- 開催日程 ① 9 / 27 12 : 00 ~ 13 : 00
 ② 10 / 25 12 : 00 ~ 13 : 00
 11 / 22 12 : 00 ~ 13 : 00、12 / 20 12 : 00 ~ 13 : 00、
 他毎月第4土曜日実施
- 参加人数 獨協大学（学生）、女子栄養短期大学、じんデンタルクリニック、南千住西部地域包括支援センター
- 参加人数 45名

実施の目的

特別養護老人ホームで働く管理栄養士や機能訓練指導員、施設と連携している歯科医師、大学等の団体・専門職によるミニ講話を行っています。地域で生活する上で必要な知識や技術を学び、栄養満点のお食事を提供する地域交流の場としています。



当日の様子

当日は、本事業で提供予定の食事を題材にした栄養ミニ講座を行い、あわせて機能訓練指導員による口腔・嚥下体操、歯科医師や歯科衛生士による口腔ケアの重要性に関する講話を実施しました。

食事や講話を通じて、参加者が専門職に日常の食事や生活に関する相談をする場面も見られ、食をきっかけとした自然な交流が生まれていました。

地域の課題や今後の課題

今後は、引き続き参加者のニーズや関心に応じたテーマ設定を行い、健康講話や交流内容のさらなる充実を図っていきます。

あわせて、地域のボランティアや関係機関との連携を強化し、住民参加型の運営体制を構築することで、継続的かつ安定した事業実施を目指します。

ケアタウン成増 親子で学べる介護体験イベント

- 開催日程 10/5 10:00~12:00
- 参加団体 社会福祉法人みその福祉会、株式会社トーカイ
- 参加人数 31名

実施の目的

次世代を担う子ども達に介護の仕事や魅力を知っていただくこと。子育てママ達にも、すきま時間を有効活用できるの介護の仕事を知ってもらうこと。地域の方々に高齢者施設を身近に感じていただくこと。

当日の様子



車椅子の乗車・操作、高齢者体験、デイサービス送迎車のリフト体験を行いました。車椅子の操作では段差を超えることに苦労したり、高齢者体験では身体の動きづらさを体験したり、送迎車のリフトを自分で操作した時には歓声が上がりました。普段は触れることの少ない福祉用具等を体感し、介護の仕事にも興味をもって頂く機会になりました。アンケートでは子供たちからは「車椅子から落ちないか不安だった。」「送迎車のリフト操作が面白かった。」、保護者の方からは「車椅子を初めて押した。いい経験になった。」などの感想を頂きました。

地域の課題や今後の課題

コロナ禍で中止した取り組みも多く、ボランティアの受入れをはじめ地域との繋がり、再構築を進めている。訪問介護を担う地域内での介護人材の掘り起こしも課題であり、地域に向けた情報発信を継続的に行いたい。近隣小学校との交流会や子ども食堂も今年度より再開し、毎年受入れしている中学生の職場体験でも「楽しい、また遊びにきたい」との声も多く、今回のイベントのように次世代に向けた情報発信も継続的に行っていきたい。

社会福祉法人 練馬区社会福祉事業団
富士見台デイサービスセンター

機能訓練士によるマチカフェへの出張介護予防体操！！

■開催日程 11/10 11:00～11:40

■参加団体 NPO法人むすび

■参加人数 30名

実施の目的

私達の施設で地域の高齢者グループに『訪問し求められるサービスを提供する』と言う企画を立ち上げました。NPOむすびさんに声をかけさせて頂き、機能訓練士を派遣し、健康体操を行う交流事業が開始されました。

当日の様子

光が丘地域に住む方がオレンジカフェありすに30名ほど集まり、松森機能訓練士の掛け声に合わせて約40分健康体操を行いました。

笑いの絶えない健康体操で、松森訓練士の掛け声や、リズムに合わせて皆元気に体操を行う事が出来ました。又、体を動かす事だけではなく、声を出す機会も豊富に作る事で、心身共に元気になって頂く事が出来ました。

地域の課題や今後の課題

光が丘地域は人口が多く、高齢で一人暮らしの方も少なくありません。施設で有する資源を積極的に地域に開放し、職員もその事に喜びを感じる事で、両者が楽しみを持って活動を継続できるよう実施して行きたいと思います。

特別養護老人ホーム サンライズ大泉 まち活スタンプラリー

■開催日程 10月 10:00～17:00 10月17日～10月26日の10日間

■参加団体 うどんや藤、うなぎ大井川、きもの処つるや、サイクルショップいちまる、ドリームシェアアトリエ、パティスリーアリコット、パナピットうめつ、うさぎの輪、カラーサロンSilvia in the meadow、けん玉あそびば（NKKサービスセンター）、こはるびよりふおとスタジオ、そろタッチ新座片山校、野澤精肉店、保育園元気キッズ新座池田園、ラ・クチーナ・ディ・プランツォ、合同会社ロマヴィーノ、文具・学校制服ぬくい、餃子製造所ごち魂、パンJOURS、& torch Bakery、48LABO、BCCスマートフォン&タブレット西大泉教室、ECCジュニア西大泉地区区民館北教室、HiBDy.Tokyoヒブディ、Milky You、セルフホワイトニングサロン Nagisa、おしゃれの店スプーン、Kaoly Bellydance Arts、カフェシエスタ、サニーデイズキッチン、サンライズ・サーカス、スタジオルナプランカ、テンカトルカルチャースクール、パッティングプラザ大泉、パン工房ぽけっと、光陽苑、プライベートガーデン『妙-TAE』、マイリフォーム、ChacoHouse大泉学園、愛の家練馬西大泉、東京ワイナリー、徳永リハ&スポーツ治療院、ファミリーマート西大泉四丁目店、ほくと接骨院・整体院、他

実施の目的

東京都と埼玉県の境目にある自分たちの町を安心して生活できる場所にするために人々が日ごろから繋がり、子どもを見守る。そしていざという時に強く助け合う防災互助の関係性を作っておくことを目的にしています。

当日の様子

開催期間中は、マップを手に町を歩く参加者の姿が多く見られました。

親子で参加し、スタンプを集めながら会話を楽しむ様子や、高齢者施設や障害者施設もスタンプスポットとして参加し、商品購入しなくてもハイタッチで1スタンプ押してもらえる工夫が楽しかったとの声が多く聞かれました。また、「普段は前を通るだけだったが、初めて入った」「動画がきっかけで声をかけやすかった」といった声もあり、スタンプラリーが店舗と住民をつなぐ“会話のきっかけ”として機能していたことがうかがえます。

地域の課題や今後の課題

今年度は新たに西東京市が加わったことで、市境・県境を越えた広い生活圏での回遊が生まれた。スタンプラリーを兼ねた防災・災害マップの作成においては、道路構造の複雑さや地域特性から、住民目線と専門的視点を両立させる難しさも浮かび上がり、より見やすく分かりやすい設計にはプロの関与が必要であると感じている。今後は、スタンプラリーで築いた参加団体間のつながりを基盤に、団体全体でのマルシェ開催を通じ、平時から顔の見える関係性を広げ、災害時にも機能する地域連携へと発展させていく。

介護老人福祉施設ケアホーム足立 あだちご近所マルシェ

■開催日程 ①9/11 11:30～14:30

②9/27 11:00～14:30

毎月第2木曜日 11:30～14:30

奇数月第4土曜日 11:00～14:30

■参加団体 カフェノトリコ、藤之屋、にぎりむすび、西伊興ひまわり園、cocokara.co.nori、ひのでかだん、足立アレルギーの会hoop、ミッキー農園、ベイベーヒップ、喫茶アジェンデ&カレーシャ、あこのタロット占い、snowflake、Oasis、結、平成デイサービスセンター足立

■参加人数 80名

実施の目的

自施設の地域公益活動だけでなく、他の社会福祉法人や地域活動団体の活動を支援するために、施設の駐車場を活用してイベントや販売会を定期開催。施設利用者だけでなく地域の方、他施設の方も利用可能。



当日の様子

毎月第2木曜日の開催は、施設やデイサービスの利用者様も自分のお財布を手に買い物を楽しんでいた。近所からもお馴染みのお得意様が次々と来場して、会場に用意された休憩コーナーで会話を楽しんでいる様子もみられた。

9/27(土)の土曜マルシェは多数の出店があり、にぎやかな雰囲気となった。近所の子供もワークショップに参加し、その様子を眺めて楽しむ施設利用者もいらした。

地域の課題や今後の課題

駐車場で開催しているため、夏の暑さや冬の寒さで施設利用者が買い物に出られない日が増えた。特に暑さ対策については今後検討が必要だと感じた。ひとつの対策として花火大会を兼ねた夕涼み会を開催し、好評だったため継続したいと考えている。

今までの地域のつながりを活用して、様々な団体に参加してもらえるよう活動を継続していきたい。

高齢者在宅サービスセンター西新井 ボランティア交流会

■開催日程 ①11/10 10:30～11:45

②11/17 13:00～14:50

③11/28 13:00～14:50

■参加人数 46名

実施の目的

当法人で活動中のボランティアやボランティア活動に興味ある人が互いの活動を知り、体験しあう機会として交流会を開催します。地域のつながりを深め、新たなボランティア活動の創出や発展へとつなげていきます。

当日の様子

11月10日は『スマイル体操ボランティア』を中心にスマイル体操を習い、みんなでレクリエーション活動も体験元気あふれる時間を過ごしました。11月17日は通所で『物づくりボランティア』活動講師の方にステンドグラス風小物作りを教わり物づくりに挑戦しました。11月28日は『折り紙ボランティア』を講師に迎え、立体的な折り紙工作の作品を集中しながら作り上げられました。活動年数や活動内容に関わりなく普段それぞれに活動されている方々が、互いの活動を知り交流を持てる有意義な時間になったと感想をいただきました。



地域の課題や今後の課題

ボランティアをやってみたい！どんな活動ができるの？といったお問い合わせがあります。地域の活動資源や活動の場所など情報収集が不十分でもあります。地域の中で開かれた施設として相談できる場所、日常生活において継続して取り組める場所、情報交換の場所としての役割をこれからも継続して取り組んでまいります。

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑 多世代型子ども食堂「なぎさ☆キッチン」

■開催日程 ①4/12 16:00～18:00

②5/31 16:00～18:00

毎月第4土曜日 16:00～18:00

■参加団体 社会福祉法人 なぎさ和楽苑、ボランティアグループ たんぽぽ、
ボランティアグループ なぎさグループ、フードバンクジョイライフ、
信濃運輸株式会社

■参加人数 208名

実施の目的

同じ地域に生活している高齢者と子ども達が食事を通じて世代間交流を図り、孤食の防止や栄養バランスのとれた温かい食事や居場所の提供をする。また、日常生活の悩みや課題について相談支援を行う。



当日の様子

地域のボランティア、施設の管理栄養士と職員が意見交換しながら献立を考え、協力して調理をしています。毎月第4土曜日を活動日に設定していますが、4月は施設行事の関係で第2土曜に変更して実施。当日は地域の住民および子どもたちが集ってワイワイと和やかな雰囲気の中で食事をしています。食事開始の1時間前から入館でき、学習支援や居場所づくりの時間として開放、交流の場を設けています。

デザートには手作りのゼリー、綿あめ、かき氷、スイカ割りなどのイベント的な催しも行っています。

地域の課題や今後の課題

食事の支援や居場所を必要としている子ども達にもっと参加して欲しいため、近隣の小学校や保育園にQRコード付のチラシを配布し、Instagramやホームページにて情報を発信していますが、高齢者の参加が多い傾向にあります。

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑 若年性認知症支援事業 家族会カフェ（あしたばカフェ）

■開催日程 10/19 13:30～15:30

■参加団体 若年性認知症支援事業 フリーサロンあしたばメンバー、若年性認知症支援事業 家族会

■参加人数 30名

実施の目的

- ・若年性認知症に特化したオレンジカフェを通じて、当事者、家族、専門職、地域住民の交流を促進する。当事者が役割を持つことで自己有用感を高め、家族会や専門支援機関への接続を促す。



当日の様子

- ・5階の平和菜園であしたばメンバーが収穫したさつまいもを焼き芋にして販売した。加えてソフトクリームも用意し、参加者全員で収穫と味覚の秋を楽しんだ。焼きたてのさつまいもに舌鼓を打ち、和やかな雰囲気の中で秋の味覚を共有する楽しい時間となった。
- ・恒例の「ハッピーバースデーソング」や「簡単手話のコーナー」は実施したが、特別なイベントを設けず、参加者同士がゆったりと対話できる効果的な時間が得られた。

地域の課題や今後の課題

- ・あしたばカフェへの参加が、フリーサロンや家族会への参加につながるケースが多いため、必要な情報が届いていない方々への情報発信の工夫が喫緊の課題である。
- ・当事者の方が施設入所や逝去されると、課題が山積していた「現役」時代には熱心に参加していたご家族の足が遠のく傾向にある。しかし、その方々の貴重な経験は、現在悩んでいるご家族にとって大きな助けとなる。そのため、OB/OGとなっても継続的に足を運んでもらえるような仕組みや工夫を検討し、経験を継承できる場を創出する必要がある。

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑 若年性認知症支援事業 フリーサロンあしたばの就労活動

■開催日程 ①11/17 10:30～11:30

②11/27 10:30～11:30

■参加団体 若年性認知症支援事業 フリーサロンあしたばメンバー、なぎさ和楽苑の職員、チャレンジザドリームの中学生、教員免許法に於ける介護等体験の大学生

■参加人数 30名

実施の目的

- ・若年性認知症当事者の「働きたい」「人の役に立ちたい」という意欲を尊重し、社会参加の機会を提供すること。
- ・中学生・大学生との共同活動（落ち葉拾い）を通じ、若年性認知症への正しい理解を促進すること。



当日の様子

- ・活動に先立ち、学生に対し若年性認知症の基本的な説明を行い活動への理解を深めた。自己紹介後、当事者、大学生、中学生の混成チームで落ち葉拾いを実施。学生が「ゴミ袋を開いてください」など具体的な依頼を出すことで、メンバーが作業しやすくなった。当初は距離感があったが、徐々に会話が増え、作業スピードも向上した。
- ・作業後の振り返りでは、「大変だったが綺麗になって良かった」といった感想を共有し達成感を分かち合った。就労を介して認知症、世代を超えた交流が実現した。

地域の課題や今後の課題

- ・地域において、認知症、特に若年性認知症について知り、学ぶ機会が依然として不十分である。小中学校の義務教育の段階から、認知症への理解を深める機会が必要であると考えている。
- ・体験や学習のために来苑する学生を待つだけでなく、若年性認知症当事者の就労を介した世代を超えた交流や活動を意図的に創出し、地域へ積極的なアウトリーチを計画的に実施していきたい。

なぎさ和楽苑 ケアラズカフェ「よりみち」

- 開催日程 毎週火・木曜日 11:00～15:30（祝日除く）
- 参加団体 大慈学苑 傾聴ボランティア、若年性認知症家族会 あしたば会、なぎさ和楽苑家族会、なぎさ和楽苑 ボランティア、チームオレンジ員、なぎさ和楽苑 職員、なぎさ和楽苑 喫茶ブリッサ
- 参加人数 250名

実施の目的

介護者、支援者が気軽に立ち寄り、同じ介護者同士の交流や情報交換、専門職との相談ができ介護者自身のケアも大切にしながらエネルギーチャージできる居場所作りを目指す。



当日の様子

大慈学苑、家族会等の方々を中心となりボランティアで傾聴、交流の場を運営していただいている。チラシ、HP、SNS、地域の広報誌、回覧板、ケアマネジャー等にPRし、介護者ご家族、近隣住民の方、おひり暮らしで交流の機会の少ない方など様々な方々が参加。日ごろの介護でのお悩みや、お一人暮らしの方々のお悩み、ご家族との関係性に関するお悩みなど話され、傾聴、助言などを実施。イベント企画（手話講座、フラワーアレンジメント、小物づくり、勉強会、男性介護者の会等）も行い、定期的な参加者も増えている。

地域の課題や今後の課題

【地域課題】

- ・ 家族介護者への支援のための社会資源の不足。
- ・ 資源があっても情報弱者も見受けられる。
- ・ 区内で1か所のため、来苑が難しい方もおり、ケアラズカフェが拡大していけるとよい。

【今後の活動】

- ・ 参加人数の少ない日もあるため、周知、PRに力を入れる。
- ・ 週2回の定期開催は継続し、集客につながる企画を検討していきたい。

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑

学び舎なぎさ

- 開催日程 ①10/18 14時00分～15時00分
 ②11/9 14時00分～15時00分
 令和7年度15回開催 4/26 5/3 5/17 6/21 7/6 8/16
 8/31 9/15 9/21 12/14 1/17 2/21 3/15 開催
- 参加団体 なぎさ和楽苑
- 参加人数 150名

実施の目的

福祉への理解、介護予防、健康づくり、ボランティア活動推進等の各種講座を開催します。参加を通じて、参加者同士の交流の場や生きがいづくりにつながることを目指す。



当日の様子

10月18日、「学び舎なぎさ」は管理栄養士による「厳しい冬に備えて、からだを養生する」講座を実施した。

講座では、免疫力を高める食材の選び方や体を温める調理法について、具体的なレシピを含めて説明。日頃の食事に関する質問も活発に交わされた。

参加者からは、「すぐに実践できる内容で、献立を考えるのが楽しみになった」「冬の体調管理の重要性を改めて認識した」という前向きな感想が多数寄せられた。本講座は、皆さんの健康維持と生きがいづくりに貢献する充実した時間となった。

地域の課題や今後の課題

高齢化の進行と核家族化により、地域コミュニティの希薄化が深刻な課題であり、特に単身高齢者の孤立防止や生きがい創出へのニーズは高い。

「学び舎なぎさ」は、この課題に対し、福祉理解、健康づくり、介護予防を核とした講座を継続して提供する。今後は、地域ボランティアや他世代交流を促進する企画を増やし、多世代間の緩やかなネットワークの構築を目指す。参加者一人ひとりのつながりと主体的な活動を支援することで、誰もが安心して暮らせる地域共生社会の実現を目指す。

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑 アルツハイマーデー

- 開催日程 9/21 14:00～15:00
9月1日～9月30日 アルツハイマー月間として取り組み
- 参加団体 社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑
- 参加人数 100名

実施の目的

9月1日から9月30日までの1ヶ月間を『アルツハイマー月間』とし、アルツハイマー病を含む認知症に対する正しい理解を深めるための、普及・啓発活動を集中的に展開する。



当日の様子

9月21日のアルツハイマーデー（認知症の日）当日には、「認知症を学ぼう」をテーマとした地域向け講座を実施した。参加者は15名で、アルツハイマー病をはじめとする認知症に関する理解を深める機会となった。

9月1日から9月30日までの1ヶ月間を「アルツハイマー月間」とし、施設内および地域に向けた普及啓発活動を展開した。主な活動内容は以下の通り

- ・施設内・地域へのInstagram、ポスターなどの発信
- ・敬老行事の際に、普及啓発のオリジナルバッジを作成し配布。
- ・認知症の理解を深める啓発ポスターを掲示。

地域の課題や今後の課題

アルツハイマー月間中に実施した講座では、多くの方にご参加いただき、「認知症についてもっと知りたい」「日々の生活の悩みを共有したい」という地域の高いニーズを改めて認識した。

このことから、認知症を正しく理解し、ご本人やご家族が地域で孤立しないための情報発信と、気軽に相談できる場づくりが、私たちの大切な役割であると考えている。また、認知症になっても自分らしく過ごせるという新しい視点（新しい認知症観）の、講座など開催し地域に広めていく。

偕楽園ホーム・第二偕楽園ホーム・桜の里・
ファミリーマイホーム・地域包括支援センター加住

第9回八王子介護フェア

■開催日程 10/25 11:30～16:00

■参加団体 社会福祉法人一誠会・社会福祉法人多摩養育園・社会福祉法人清心福祉会・社会福祉法人八王子心成苑・医療法人社団東京愛成会・社会医療法人社団愛有会・医療法人財団敬寿会・医療法人社団珠泉会・株式会社シルバービレッジなど

■参加団体 189名

実施の目的

「楽しく介護を知ろう」をテーマに、地域公益活動の一環として、ソーシャルワーク機能を生かしたアウトリーチ事業を行うとともに、参加施設・事業所の広報活動を行う。



当日の様子

今年のイベントテーマを、「誰しものがかわる可能性のある介護の問題について 介護の現状を発信し将来を考える」とした。基調講演（介護の未来を考える 介護の現状を受け介護の魅力とやりがいを発信）の前後に職員バンドや和太鼓演舞を行い、賑やかな演出とした。講演以外の会場では、介護食の試食、利用者や入院患者の作品展示会、ストレス測定、大学生が研究しているコミュニケーションロボットの体験、ボランティア団体の紹介、模擬店など、介護に関連したブースも多数あり賑わいを見せていた。

地域の課題や今後の課題

あくていぶる君にはイベント中、昨年度は「能登半島地震の応援募金活動」を、今年度は「八丈島台風災害の応援募金活動」を担っていただき、「赤い羽根共同募金」を通じて被災地への復興支援を行った。

課題としては、実施している会場の立地面も含め、イベントテーマに興味を持った方々しか参加する機会がないことや、地域の子どもやその親世代の関心が得にくく、参加される方々の高齢化が目立った。

来年度は節目の第10回目となるので、多くの来場者に参加していただくため、開催時期の日程を含め企画や構成を再検討していきたい。

特別養護老人ホームさくらえん さくらんち

- 開催日程 毎週水・金・土曜日 11:30～13:30
- 参加団体 特別養護老人ホームさくらえん
- 参加人数 約900名

実施の目的

地域住民や高齢者が、気軽に食べて、話して、集まる場所を作りたいと考えた。管理栄養士監修のバランスの取れたおひるごはん、心も体も元気に。

当日の様子

コロナ禍前以降、約7年ぶりに再開ができた。再開当初は0名～2名程度であったお客様も、現在は15食完売となる日も増えてきた。お客様は地域の高齢者や主婦層、子供連れ、学生など幅広い年代。お客様同士での会話が弾むことも珍しくなく、地域の拠り所として認知されつつある。

地域の課題や今後の課題

営業日・食事数を増やしていきたいが、本業との兼ね合いで人員確保が課題。現在、ボランティアは1名。今後更にボランティアの力を借りることで、より多くの方にお越しいただける環境をつくりたい。

特別養護老人ホーム 今井苑 青梅インター清掃

■開催日程 10：00分～11：00 毎月第三木曜日

■参加人数 5名

実施の目的

青梅の玄関口である青梅インター周辺の清掃活動を行い、ボランティアの方と交流を図ります。

当日の様子

ボランティアの方と青梅インター周辺に赴き、ゴミ拾いを行っております。毎月、ルートを変えるたびにゴミの量が増えており、定期的に行う事でゴミ削減に努めております。

地域の課題や今後の課題

感染症の蔓延により、施設と地域の方との交流の場が減ってきていると思います。施設の職員が地域に赴き、そこで、活動することによりボランティアの方との交流を深めていく機会になればと思います。

社会福祉法人多摩同例会 安心シニア塾

- 開催日程 9/18 10:00～11:30
5/15 10:00～11:30
6/19 10:00～11:30
- 参加団体 多摩同例会 緑苑・あさひ苑・泉苑・府中市消費生活センター
警視庁府中警察署・武蔵野赤十字病院
- 参加人数 245名

実施の目的

市民の皆様が豊かなシニアライフを過ごしていくために、また、安心して老後を迎えるために必要な情報や知識について一緒に考えたりお伝えをしていくことを目的とした取り組みです。



当日の様子

当日は「感染症」をテーマに、流行の新型コロナウイルスやインフルエンザについての正しい情報や適切な感染症予防の仕方、最新の治療方法などの情報を交えながら参加者の皆様と一緒に考えていきました。

地域の課題や今後の課題

- 12/8 「関節痛ってなに？」痛みに困っているあなたと一緒に考えましょう
- 1/15 「大好きな街 府中でいつまでも！」ふくしのしおりのご案内
- 2/19 「今こそ知っておきたい！色々なシニア世代の住まい方」
これからの人生、何を優先して考えましょうか？
- 3/19 「認知症とケア」これって認知症？

上記の内容をこれからも開催していきながら、参加者の皆様と一緒に理解を深め、地域の方々とのつながりをひろげていきたいと思っています。

社会福祉法人多摩養育園 府中市立介護予防推進センター 長いいきいきフェスタ

■開催日程 11/1 10:00~17:00

■参加団体 地域包括センター11か所（介護予防コーディネーター）、府中市社会福祉協議会SC（生活支援コーディネーター）協力：ふろっぐ（足の測定）、ディー・オー・ピー（福祉用具展示）、エーデンラボ、音楽療法士 共催講座：府中市医師会、ボランティア、自主グループ

■参加人数 420名

実施の目的

府中市民に向けた 介護予防普及啓発

当日の様子

プラッツの5階ホール・ホワイエ。6階会議室を活用してのイベント開催。

ホール：①音楽療法士による講座②府中市医師会による講座「あなたの腎臓は元気ですか？③楽しく脳を活性化協力団体によるブース

6階：運動コーナー、健康度測定、レクリエーションコーナー、隊組織測定、脳年齢測定、試食コーナー（さあにぎやかにいただく）等実施。楽しみながら自身の健康度を意識するきっかけづくり、自助力のアップなど図れた。



地域の課題や今後の課題

広報は、地域包括、文化センター、府中市広報紙、医師会など行った。定員がある講座方式が多かったこともあり、参加者の伸びは、想定内であった。次年度更なる集客の方法、開催方法を検討していく。府中市の中央での開催により、様々な方が来場できるようと考えているが、地域から動けない人へのイベント実施も更に検討していく必要があると感じている。医師会と共催講座は、好評であり今後も開催方法を検討しながら継続していきたいと考えている。

調布市地域包括支援センターときわぎ国領 高齢者をねらう悪質商法からこの地域を守ろう (見守りネットワークAゾーン会議)

■開催日程 9/26 10:00~12:00

■参加団体 調布市消費生活センター、民生委員、広報協力員、調布市役所

■参加人数 20名

実施の目的

地域包括支援センターの各担当地域（Aゾーン）において、年1回見守りネットワークの充実や見守り力の向上を図る会議・研修を開催している。今年度は消費者被害をテーマに開催した。



当日の様子

消費生活センターの方をゲストに、高齢者を狙う消費者被害の最新情報やそれに対応する方法を、クイズ・寸劇・グループワークを通じて学んだ。さまざまな詐欺の種類やクーリングオフについて、また見守りの工夫や消費生活センターの役割などを具体的な事例も用いながら共有することができた。参加者は民生委員や広報協力員（地域包括支援センターの事業をサポートしていただいているボランティア）など地域住民が中心であり、学んだことを自分たちの住んでいる・関わっている地域高齢者にすぐに還元できる良い機会となった。

地域の課題や今後の課題

当包括の担当地域は市内でも高齢者の多い地域であり、独居高齢者も年々増加傾向である。「あやしい人の訪問があった」「市役所を騙った変な電話があった」といった、高齢者宅への電話や訪問による詐欺被害（未遂）が後を絶たない。高齢者と接する機会が多く信頼も得ている民生委員や広報協力員とともに引き続き注意喚起し、詐欺に遭いそうになったら未然に防ぐことを意識して、今後も出前講座やチラシの配布等を行い、見守りネットワークを充実させていきたい。

特別養護老人ホーム友愛荘 友愛荘秋マルシェ

■開催日程 10/18 10:00～15:00

■参加団体 友愛十字会本部職員、南大谷3丁目有志、社会福祉法人コメット原町
田スクエア明和荘タイムス

■参加人数 150名

実施の目的

地域福祉の理念に基づき、地域住民と利用者が交流を深め、共に楽しみ支え合う関係を育む契機とする。

当日の様子

施設の中庭では、栄養士による手作りのカレーやワッフル、子ども向けのスーパースクールすくいなどの露店販売やスタンプラリー、建物内では近隣の大学生による楽器演奏やシンガーソングライターによる歌の披露のプログラムを行った。野菜をたくさん使ったカレーは大変好評であり、スタンプラリーはおもちゃがもらえるので多くのリピーターで賑わい、音楽に手をたたき歌に涙し、地域住民も利用者も秋の一時を満喫されている様子であった。



地域の課題や今後の課題

近隣の方より「(親が)他の施設に入所したけど、こっちの方が良い所だから転院？しちゃうかな」「近所に家族と楽しめる場所があるってとてもありがたいです」との声を受けた。本事業を通じて友愛荘の存在や良さを知ってもらう機会となることを学んだので、今後はサロン事業など他の事業も充実させていきたい。それには、事業の存在を多くの皆様に知ってもらうこと、実際に足を運んで頂くことが課題となるが、例えば、地域の小中学校でのクラブ活動の発表の場として参加してもらうことで、周知と動員の両面を図ることを検討している。

特別養護老人ホームつきみの園 つきみの防災サロン

■開催日程 9/26 13:30~14:30

■参加人数 10名

実施の目的

9月1日は防災の日。防災月間である9月に、避難所ではなく自宅で生き延びるための備えと工夫、注意点について、地域のかたたちを対象に理解を深めていただくことを目的とします。



当日の様子

大地震がおきた場合、東京都では自宅倒壊のおそれがない場合「在宅避難」を推奨しています。しかしながら、多くの人たちは、避難所に行けばなんとかできると考えているのが実情です。そこで、参加者のみなさんに「どうすれば避難所へ行かなくても自宅で過ごすことができるか」をテーマに、水の確保や凝固剤とビニール袋を活用しての排泄の方法、通電火災のしくみを知り、火災から自宅を守る方法を、実験を通して理解していただきました。初めて知ることも多かったとの意見が多くありました。

地域の課題や今後の課題

最低限の水を確保し、自宅のトイレを活用できるようにすることは、体調をくずさないためにもっとも重要な自助努力と考えます。しかしながら、その重要性に気づいていない人が多いため、今後も継続的に防災サロンを開催し、備蓄の必要性について働きかけていきたいと考えます。

社会福祉法人 緑友会 小川ホーム だれでも食堂「おがワン広場」

■開催日程 11/28 11:30～13:00

■参加団体 小平市社会福祉協議会、民生児童委員、見守りボランティア、小川西老人会、放課後等デイサービス、ぶるーべりー愛犬ファミリー協会、小川西町公民館館長、2層協議会委員、小平西ネット、小平障がい者連合

■参加人数 60名

実施の目的

温かい食事のでき、ホッとする居場所を作りたいという2層協議会で話し合いのもとで小川ホームが公益事業として立ち上げただれでも食堂。子ども、高齢者、障がいのある方もみんなが交流出来る居場所にしていきたい。



当日の様子

毎月楽しみに来てくれる方や表の看板やのぼり旗を見て来てくれた方など開始前から並んで待っている。子ども達の遊び場スペースが作ってあるので、そこで遊ぶ子どもを見ながらおしゃべりしている高齢者など、多世代交流の場になっている。デイサービスの活動室を利用して実施しているので、季節に合わせた飾り付けがされており、来てくれた方にも好評である。食事をしながら、同席になった親子に話しかける高齢者の姿も見られ、穏やかに時間が過ぎていた。

地域の課題や今後の課題

高齢者施設であるため、やはり高齢者の方の参加が多い。親子連も少しずつ増えてきているが、地域の子どもや家族に「おがワン広場」を知ってもらい、もっと幅広い年代の方に参加してもらいたい。食堂だけで終わるのではなく、コーヒーの販売も始め、ゆっくりお話も出来る居場所になれるような取り組みも始めてみた。

社会福祉法人 緑友会

ふれあい交流イベント「おがワンフェスティバル」

■開催日程 10/26 10:00～14:00

■参加団体 白梅学園大学・一橋ア式蹴球部・小平市特別支援学校・(株)ベジランチ・ブリヂストンチャレンジド・東洋商事・富士見住宅自治会・作業所・ぶるーべりー愛犬ファミリー協会・緑成会病院・ハワイアンマッサー・ジルアナ・TUKURUクレープ・フィードトラックmoff・2層協議体

実施の目的

地域の方々や地域で活躍する団体の方、企業、大学、病院、障がい者施設などが交流する機会として、またそれぞれを知ってもらう機会として実施するフェスティバルである。

当日の様子

あいにくの天気になってしまったが、来場者約300人、ボランティア80名、職員30名で実施し大盛況であった。今年、初めて参加してくれた団体もいくつかあり、他の団体と交流出来ており、また来場して下さった方々にも知ってもらう機会となった。学生達が子ども達も楽しめるブースを出してくれており、子どもから高齢者まで楽しんでもらえるイベントとなった。



地域の課題や今後の課題

今年で4回目の実施となるが、来場者の中にも「知らなかった」「もっと早くに知っていたら、友達にも声をかけた」などの声も聞かれ、広報の問題を感じた。地域の団体や企業、学校などの新規の開拓が必要。

社会福祉法人 緑友会 小平市地域包括支援センター小川ホーム 笑顔でつながるおれんじパントリー

■開催日程 10/12 10:00～11:00 第2日曜日開催

■参加団体 認知症の当事者、小平市高齢者支援課、基幹型地域包括支援センター、緑成会病院リハビリ、国立精神神経医療研究センター病院、認知症支援リーダー、小平市社会福祉協議会、イオンフードスタイル小平店、居宅介護支援事業者アットホーム、見守りボランティア

■参加人数 70名

実施の目的

認知症の方の社会参加推進事業で、認知症当事者の声を聴き、出来ることを生かして活躍できる地域づくりとして、笑顔でつながるおれんじパントリーを実施している。



当日の様子

協力機関のイオンフードスタイル小平店、社会福祉協議会で寄付してもらった商品、フードバンクでいただいた商品とフードドライブで集めた商品を当事者の方やその家族の方、社会参加推進事業の委員の方たちと分別や袋詰め、地域の方に笑顔で手渡しするのなどのお手伝いをしてもらい、食品など必要とされる地域の方にお配りをする。地域の方に大変喜ばれていた。

地域の課題や今後の課題

このフードパントリーは、子ども子育て支援プロジェクトとして開始したが、まだ多くの子ども達には配れていない。また、本当に必要としている人達に配れているのかも難しい。

デイサービスセンター マザアス多摩川苑 見守りとしっかり栄養 配食サービス

■開催日程 元旦・日曜日除く 毎昼食時

■参加人数 2025年10月配食数 1185食

実施の目的

日野市の高齢者や産後の母親を対象とした昼食の配食サービスを行っています。食事が確保できればそのまま住み慣れた我が家で暮らすことができる人は少なくありません。施設の厨房を活用した取り組みを行っています。



当日の様子

マザアス日野の配食は3つ特徴があります。

- ①個別対応。利用者の食事形態・量・好き嫌い・療養食に配慮したお弁当を提供しています。
- ②見守り。手渡しによる配達時には安否確認を兼ねた「見守り」も行われ、孤立を防ぐ役割も果たしています。
- ③産後家庭向けサービス。日野市に住所のある産後2ヶ月以内のお母さんと、同居する未就学のお子さんを対象とした配食サービスも提供しています。栄養バランスの取れた昼食を配達し、産後のお母さんの健康維持と見守りを支援しています。

地域の課題や今後の課題

大雪や台風など悪天候でも配食は休めません。事前の情報収集やしっかりとした体制づくりが今後も必要です。また夕食の提供も課題です。

社会福祉法人 村山苑 村山苑 ふりば

■開催日程 9/21 10:00～14:00

■参加団体 かりん、けやき第一作業所、シンヨーケアサービス、さくらキッチン、つばさカフェ、縁側相談、本町サロン、タスクプロジェクト、地域住民によるフリーマーケット×3、社会福祉法人村山苑

■参加人数 150名

実施の目的

村山苑が社会福祉法人として地域住民の生活を支える一役を担い、地域共生社会の実現に貢献するため、多団体との連携のもと地域の方に楽しんでもいただける催しを開催する。



当日の様子

天候に恵まれ、爽やかな晴天の中で開催することができた。今年度は防災ブースを設置し、非常食の試食やタブレットのゲームで防災について学ぶ取り組みも実施した。来場者は子どもから高齢者まで幅広く、ゲームコーナーや駄菓子、フリーマーケットやフラワーアレンジメントなど、世代ごとに違った楽しみ方をされていた。紙芝居やエプロンシアター、施設利用者によるファッションショー、シナプソロジーなど、社会福祉法人らしい内容のアトラクションも実施した。来場者、参加団体の皆様、職員と、たくさんの笑顔がみられた一日となった。

地域の課題や今後の課題

「村山苑 ふりば」は、コロナ禍により希薄になってしまった地域との繋がりを再構築すべく、「地域のために何ができるか」を考え作り上げたイベントです。R5年度にはじめて開催し、今年度で3回目の開催となりました。来場者に楽しんでもいただきたい、ご協力をいただく地域の方や他団体にとっても交流の場になってほしい、という思いから、誰もが気軽に参加できる「フリーな場」→「ふりば」という名になりました。今後も継続していくことで、地域に根付いたイベントになれば嬉しいと思っています。

白十字ホーム 第10回 八国山フリーマーケット

■開催日程 11/16 12:00～15:00

■参加団体 社会福祉法人白十字会、社会福祉法人山鳩会、社会福祉法人ユーカリ福祉会、シルバー人材センター、民生委員、地域住民

■参加人数 350名

実施の目的

高齢社会にあって、地域で暮らしているながら「孤立」している状況が社会的な関心を強めています。地域の中での世代間交流の機会を増やすこと、多世代が共に見守り支え合って、地域で暮らせる町づくりを目指します。



当日の様子

当日は29の個人と団体の方が出店され、盛況なフリーマーケットになりました。今回は第10回を記念してキッチンカーにも来ていただきました。アトラクションとして施設職員による健康体操、地域住民の方々、高齢者・障害者施設の利用者によるバンド演奏のコラボ、近隣中学校の生徒さんによる吹奏楽の演奏が行われました。多くの方々が来場して下さり、売れ行きやアトラクションについても非常に好評でした。出店者同士のつながり、子どもから大人まで幅広い世代のつながり、高齢・保育・障害の分野を超えたつながりがみられました。

地域の課題や今後の課題

高齢化率は年々上昇しており、老老世帯、独居世帯が増えている。畑だった場所が住宅に変わっていて、新しい住民も増えている。地域住民同士のつながりの希薄化が地域の課題となるなか、八国山フリーマーケットが、地域のつながりを作り、誰もが安心して住み慣れた地域で住み続けられるような活動にしていきたい。

高齢者福祉総合施設マザアス東久留米 地域マルシェ

■開催日程 10/26 ※雨天のため中止

■参加団体 雨天中止のためなし

■参加人数 0名

実施の目的

地域住民、自治会、商業者、農業者、福祉関係者など、いろいろな立場の方たちが集える「場」をつくっていくことを目的としたマルシェです。

当日の様子

当日雨天のためマルシェは中止となりました。しかしながら参加予定団体から「近いうちにマルシェをしてほしい」という要望があり、予定にはありませんでしたが急遽2026年3月にマルシェを開催することになりました。

地域の課題や今後の課題

中止となったマルシェは第2回目でしたが、多くの方々から「残念」「もっと開催日数を増やしてほしい」「私たちの団体も参加したい」との声を多数いただきました。2025年5月から始めたばかりの地域マルシェですが、地域の期待を感じるとともに、どのように地域の方々と協働できるか模索しているところです。地域のため、地域に住む人たちのために何ができるかを一緒に模索していきたいと考えています。

社会福祉法人 三育ライフ シャローム祭

■開催日程 11/2 10:30~13:30

■参加団体 社会福祉法人リブリー・社会福祉法人マザアス・社会福祉法人しおん
保育園・社会福祉法人森の会・社会福祉法人すぎのこ・三沢かご店・
Ykiki・NOA（大道芸）・なんくるエイサー・合唱団そよ風

■参加人数 300名

実施の目的

関係する法人や地域の方々と協働し、皆さんに楽しんでいただける祭りを開催する。地域交流・法人間の交流を深めること。当方の事業のご利用者の作品を展示し、皆さんに見ていただくことで、事業を知っていただく。



当日の様子

好天に恵まれて、特養のご利用者もコロナ禍前から久しぶりに参加していたけて開会宣言をしていただいた。恒例の沖縄のエイサーで開幕し、模擬店や関連法人のフリーマーケットで楽しんでいただいた。イベントは、合唱団のこどもたちのかわいい歌声、大道芸のNOAさんの素晴らしいパフォーマンスに見ていた方々から大きな拍手が起きていた。こどもコーナーの射的やヨーヨー釣り、綿あめなども大好評で、子供たちの行列ができていた。新鮮野菜も完売となり、特養のご利用者・ご家族・地域の方々も皆さん笑顔であった。



地域の課題や今後の課題

去年は特養で感染が拡大していて、ご利用者は参加できなかったが、今年は本当に久しぶりに皆さんが楽しんでいた。しかし、過去において、活躍してくれていた小学生ボランティアをお願いすることができず、次年度以降の課題となった。今年も、車両の置き場として、イオンモール東久留米にご協力いただけた。今後は、祭り自体にも参加していただけるよう協議を行ってみたい。

社会福祉法人 三育ライフ 若年性認知症カフェ・佳辰の会

- 開催日程 毎月第一木曜日・13：00～15：00
- 参加団体 社会福祉法人 三育ライフ、東久留米市中部地域包括支援センター、NPO法人ゆいまある、東久留米市認知症疾患医療センター前田病院、東京都多摩地区若年性認知症総合支援センター
- 参加人数 120名

実施の目的

若年性認知症・当事者や家族の居場所作り。認知症になっても地域に関わりを持ちながら、自分らしく生きるための集い場。

当日の様子

若年性認知症当事者、ご家族、専門職が集い、近況報告、若年性認知症関連の情報提供や地域イベントへの参加、暑気払い、忘年会、新年会の企画、開催を通じて親睦と情報交換の場になっている。

地域の課題や今後の課題

東久留米市内には多くの認知症カフェは存在しているが、若年性認知症の方々がご参加できる場所がない。現在近隣市小平市、西東京市、清瀬市、八王子市との若年性認知症カフェとつながりながら、東京都内での若年性認知症のある人とご家族支援の輪を広げていきたい。

社会福祉法人 三育ライフ 認知症カフェ・しゃろーむカフェ

- 開催日程 毎月第三土曜日・13:00～15:00
- 参加団体 社会福祉法人 三育ライフ、東久留米市中部地域包括支援センター
- 参加人数 240名

実施の目的

認知症・当事者や家族の居場所作り。認知症になっても地域に関わりを持ちながら、自分らしく生きるための集い場。手芸や折り紙、手作り作業、麻雀等を通して親睦を深めて、地域社会に貢献していく。

当日の様子

認知症当事者、MCI当事者、そのご家族、地域の学生が集い、近況報告、認知症関連の情報提供や地域イベントへの参加、ここで作った作品を当法人の文化祭・しゃろーむ祭にて販売をしている。地域の小学生・中学生、子育て世代の親子当が参加して、多世代交流がじつげんしている。

地域の課題や今後の課題

東久留米市内には多くの認知症カフェは存在しているひとつではあるが、なかなか、他の認知症カフェとの連携ができていない。認知症サポーター養成講座の方々が定期的に関わり、しゃろーむカフェを盛り上げて頂いています。このカフェに通うための手段がなかなか難しく、安全・安心に通える仕組み作りが課題となっている。(今のところ事故はない)

東久留米市中部地域包括支援センター 失語症の当事者の会 チャレンジ

- 開催日程 ① 9/13 13:00～15:00
② 10/11 13:00～15:00
毎月第2土曜日 13:00～15:00
- 参加団体 失語症意思疎通支援者
- 参加人数 51名

実施の目的

失語症を抱える当事者の居場所

当日の様子

9月10月と、新しい失語症当事者とご家族が会に参加となる。いつも通り、司会と口の体操は、メンバー内で順番に行っていく。

近況報告で、新しい方の今までの状況や悩み事を聞き、メンバーでアドバイスをしあう。

以前から取り組んでいる、「意思疎通支援者」の派遣についての新着状況や、来年予定している、市民向けの「失語症の講座」について話し合いを重ねる。

地域の課題や今後の課題

「意思疎通支援者」の派遣事業を市にお願いしているが、なかなか前には進んではない。だが、あきらめず働きかけを行っている状態。

新しい失語症の方も参加するようになり、メンバーは増えてはいるが、この夏、暑さの為、自転車で参加していた方は来れていない為、実際には参加人数が増えているといいがたい。

また、来年に市民向けに「失語症の講座」を開催する予定ではあるが、講師の予定に合わせた場所取りが難しく、まだ決定している状態ではない。是非、実現させたいと思う。

特別養護老人ホームけんちの里 たけのこサロン

- 開催日程 5/16 10:00～15:00
5/16より毎週金曜日10:00～15:00開催
- 参加人数 369名

実施の目的

地域高齢者に対して様々な介護予防のプログラムを提供し、当施設において高齢者の居場所作りを行う。

当日の様子

毎週金曜日 午前・午後 開催

第1週 午前 手工芸等 午後 体操教室

第2週 午前・午後 手工芸

第3週 午前 手工芸 午後 体操教室

第4週 クッキング教室

第5週 たけのこ食堂 たけのこ食堂の参加人数が多く、参加者が友人を募って参加してくれている。食を通じたプログラムの参加者が非常に多くなる傾向。



地域の課題や今後の課題

引っ越しをしたばかりで近隣に友人もいないので参加したいという高齢者が参加された。その方はその後、定期的に参加されるようになり、当初の目的である居場所作りが進みつつある。

食を通じたプログラムは多くの人が集まるため今後、月1回日曜日にたけのこ食堂を開催したい。

社会福祉法人 亀鶴会 特別養護老人ホーム 神明園 多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～ かふえてりあ はろ

■開催日程 (実施日) 9月：1、3、8、10、15、17、22、24、29日
10月：1、6、8、15日 計13日間
(実施時間) 15時～18時

■参加人数 322名

実施の目的

- 市内の小学生に地域の方々との交流の機会と、放課後安心して過ごす事ができる居場所の創設。
- 地域がセーフティネットとして機能し、日々の生活を豊かにする地域の可能性を広げる。



当日の様子

毎回25名を超える子ども達が集まり、賑やかな活動となった。地域のあそび場の一つとして利用してくれる子、夕食だけ食べて帰る子などはろに来る理由は様々。また参加人数が多く、活動拠点である「神明台sTorehouse」内では過ごす場がない子も、ダンボールで家を作ったり、外のベンチで過ごしたり、それぞれの居場所を作り、見つけ経過してくれるようになったのが興味深かった。「夕ご飯を食べてから習い事に行きたい」「お腹が空いているから早く食べたい」と当初は食事時間を17時に設定していたが、用意でき次第食事とした。食事を提供するという意義を再度高める事ができた。

地域の課題や今後の課題

活動を通し、地域にこども達の過ごす場が少ない事を実感した。またこども、青年、成人、高齢者と各世代の関係が途切れがち、こどもと大人社会相互のつながりが薄いと感じる。こども達が安心して遊ぶ場、過ごす場、そして各世代が交流する場は必要である。地域のセーフティネット機能を高めるという視点からも、お互いに気にかける、関心を持つ機会を「居場所づくり」という活動から作っていきたい。

社会福祉法人 亀鶴会 特別養護老人ホーム 神明園
多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～
神明台自習室 みらい

■開催日程 ○実施日 9月2、5、9、12、16、19、23、26、30日
10月3、7、10、14日 計13日間

○実施時間 15時～19時

■参加人数 21名

実施の目的

- 中学生が地域の人々と交流を図りながら、安心して過ごす場、勉強ができる場の創設。
- 地域がセーフティネットとして機能し、日々の生活を豊かにする地域の可能性を広げる。

当日の様子

みらいを利用してくれた中学生のほとんどが、部活に所属、学習塾にも通っていた。自習室利用より、部活のない日に神明台sTorehouseに集まり、おしゃべりをして過ごしていた。学校や部活での事、悩みを話している事が多く、スタッフ側の大人がどのような距離感でいるべきか難しかった。食事が目的でしっかり食べて帰る子も多かった。

地域の課題や今後の課題

近くに公共施設がなく、学校や家庭以外に落ち着いて学習できるスペースが少ないという地域課題が見つかった事が「神明台自習室みらい」を始めるきっかけとなった。保護者からは利用についての問い合わせがあったが、実際には自習室を利用する中学生は少なかった。

中学生の居場所が必要とされているが、なかなか利用に繋がらない難しさがあった。青年期の繊細で難しい時期、中学生が利用しやすい場になるには、親世代より年代に近いスタッフが受容的な関りと見守りを提供できる事が重要だと思った。

社会福祉法人 亀鶴会 特別養護老人ホーム 神明園 多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～ 高齢者の居場所 より処

- 開催日程 ○毎週月・水・金曜日（都合により変更・中止あり）10時～15時まで
○実施回数 9月12回 10月13回 11月11回 計36回
- 参加人数 585名

実施の目的

- 利用する方に「つながり」と「役割」が生まれる事を目的に、気軽に集い、利用できる高齢者の居場所の創設。
- 地域がセーフティネットとして機能し、日々の生活を豊かにする地域の可能性を広げる。



当日の様子

月ごとに活動スケジュールを決め、チラシにて配布。毎回参加、参加したい活動のみ、ランチのみと「より処」の利用の仕方は様々。特に「笑いヨガ」「体操教室」「みんなで作って食べよう！（料理）」「写経」の活動は人気で、継続利用につながった。またイベントが無い日も、誰かいて、何かしている場にもなってきた。

毎週月・水曜日はランチを用意（限定12食・200円）。9～11月のご利用者数は264名、皆で楽しく食べる事の大切さを再認識する事ができた。

地域の課題や今後の課題

活動を始め、地域に単身世帯が多い、知り合いが少ない、家から出るきっかけがないと感じている方が多いなど、地域コミュニティの希薄化が進んでいる事を実感している。必要性を感じるとともに、「居場所」に対しての捉え方は人それぞれであり、人間関係のトラブルやこの活動への不満になる事もあり難しさもわかってきた。地域に必要な居場所となるよう、改めて「居場所がない」という感覚をもつ状況を、原因を知る事からこの活動を展開していきたい。

あきる野市、あきる野市地域包括支援センター、あきる野市介護事業者連絡協議会 介護サービス普及啓発イベント「介護の日」

■開催日程 11/8 10:00～16:00

プレイベント 11月4日～7日 9:00～17:00

(ただし、4日は13:00から、7日は12:00まで)

■参加団体 あきる野市、あきる野市地域包括支援センター（3センター）、あきる野市介護事業者連絡協議会（会員102事業所）、その他協賛企業・事業所等

■参加人数 500名

実施の目的

各種展示や体験・相談コーナーなど多様なメニューを展開し、あきる野市民に対し広く介護サービスの普及啓発を図ります。

当日の様子

プレイベントでは通所サービス利用者の作品や福祉用具、行政・地域包括支援センター・各種サービス等のパネルを展示しました。

メインイベントでは上記に加え、訪問入浴の実演、ロコモチェックや骨密度測定、講演会、ボッチャ体験、小型モビリティの体験試乗、配食事業者による試食など多彩なメニューを展開しました。

隣接する秋留台公園でのあきる野市産業祭と同日開催であることや、無料の喫茶コーナーや射的などのゲームコーナーを設けたこともあり、家族連れなど多くの方に来場いただきました。

地域の課題や今後の課題

市民にとって介護・福祉サービスは、必要になるまで身近でないことを実感しています。一方、あきる野市の調査では、高齢者はつつつセンター（地域包括支援センター）の認知度は他の福祉関連施設・拠点に比べて高く、この取り組みの継続も役立っていると思われます。

今後も、市民が日頃から自分の望む生活について考えられるよう、介護や福祉サービスが身近なものとなるような取り組みが必要と考えます。

その際、集客目的の目玉企画や“あそび”の要素と、深く知る・考える“まじめさ”のバランスの取り方も課題と感じています。

あすなろみんなの家 あすなろマルシェ

- 開催日程 ① 9/19 15:00～18:00
② 10/30 15:00～18:00
11/22 13:30～15:00（おばあちゃんのお店屋さん）
- 参加団体 あすなろみんなの家、秋川あすなろ保育園
- 参加人数 260名

実施の目的

施設の畑や庭で育てている野菜や果物等が、給食で使いきれずに余ることがあります。そんな時、自然の恵み・手間暇かけた成果を、地域の皆様に「お裾分け」します。

当日の様子

当施設や隣接する秋川あすなろ保育園で栽培・収穫された野菜や果物等を、両施設の玄関前にて低廉な価格にて販売した。

保育園では、園児が収穫や「売り子」として参加したほか、給食で食べていることから「家でも食べたい」との言葉をきっかけにお買い上げいただく光景も見られた。

11/22（土）は、6年ぶりの開催となる「おばあちゃんのお店屋さん」として、利用者の手工芸品等を利用者自ら販売したほか、施設が調理した総菜・お菓子等も販売し、多くの方でにぎわった。



地域の課題や今後の課題

デイサービスの利用者やご家族、保育園園児の保護者にも、食に関する様々な課題がある。

デイサービスや保育園における栽培など日々の活動で産み出されたものや給食調理のノウハウを提供することで、食事環境を整え健康の増進に貢献できればと考えている。

栽培品目等の問題もあって、現在は不定期的な取り組みにとどまっているが、ある程度定番の取り組みとなることを目指していきたいと考えている。

あすなろみんなの家 シルバー麻雀「リーチクラブ」への協力

- 開催日程 毎週水曜日 12:00~16:00
- 参加団体 リーチクラブ、あすなろみんなの家
- 参加人数 (キャンペーン期間中) 325名

実施の目的

地域の高齢者に趣味活動等の場所を提供することで、高齢者の生きがいづくり・閉じこもり予防・健康維持や介護予防につなげるとともに、介護サービス現場を身近なものとして感じていただく。

当日の様子

あきる野市内の高齢者が自主運営する麻雀サークルで、毎回20人以上の方が参加されている。

活動には、当施設の機能訓練室（通所介護の基準外）を提供し、事前準備から片づけまで、サークルにお任せしている。

施設は、水分補給用のお茶等を提供するほか、介護に関する情報提供等を、資料配布や掲示などにより、適宜行っている。

地域の課題や今後の課題

市内には様々なサークル等が存在しているが、活動場所の確保に苦労している場合も少なくない。

当施設は、コロナ禍以降長期にわたり、以前行っていた会場貸し出しを中止していたが、昨年度より1団体あたりの利用時間・人数を制限した形で提供を再開した。しかし、食事は原則禁止とするなど、使い勝手が良いとはいえない部分もあり、感染症対策と地域貢献・開かれた施設の両立に向け、さらに工夫が必要と感じている。

一方、定期的な活動場所の提供は、高齢者の健康増進や介護サービス・当施設の認知度向上に役立っていると感じている。

社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム こども食堂 フラワープラム

- 開催日程 10/31 11:00～13:00 毎月第4日曜日11:00～13:00
- 参加団体 瑞穂町社会福祉協議会、元高齢者サロン「ばらの会」の皆様、地域ボランティアによるワークショップの皆様、社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム
- 参加人数 407名

実施の目的

こどものとまり木__共食と体験の提供
 パパ・ママ応援団__日曜日のご飯づくりはひとやすみ
 生きがい活動応援団__学生・元気高齢者主体の運営
 で役割創出
 学生応援団__こどもと触れ合い体験の創出



当日の様子

10月!! ハッピーはろうい〜ん

あっちこちでプリンセルやスーパーマリオ・ジャックオランタンなどお気に入りの衣装に身を包み来場。いつも以上のワクワク感たっぷりです。

敷地内のスタンプコーナーで6個のスタンプを揃えると、お菓子の詰め合わせをプレゼント!! スタンプコーナーにはアクティブル君ぬいぐるみを目印に一生懸命に探してくれました。アクティブル君のステッカーも大変好評でした!!

今月のカレーは、かぼちゃをトッピングしハロウィンを満喫できるメニューとなりました。

地域の課題や今後の課題

コロナウイルス拡大をきっかけに、地域で活動していた高齢者サロン廃止。高齢者サロンに替わりアクティブシニアの活躍の場としてこども食堂へ協力。今後も活躍の場・役割発揮の場として継続していく必要がある。誰もが気軽に集まれる場所として活動の継続が課題です。

多世代で集まることができるからこそ、育児や日々の悩み事などナナメの関係（顔なじみの第三者）だからこそ気軽にお話ができるような地域の間としての役割を発揮していければと思います。

※タテの関係：親子、ヨコの関係：友人、ナナメの関係：顔なじみの第三者

良友園 ふれんどサロン

■開催日程 ① 9/16 10:30~11:30

② 11/18 10:30~11:30

■参加人数 9名

実施の目的

介護予防として、体操の他、ゲーム感覚で体を動かすプログラムを実施。

当日の様子

タオルを使った体操や、風船を使ったゲーム、チーム戦など、レクリエーション要素を入れながら体を動かす体操を行った。参加者の皆さま、笑顔が見られ、新しいゲームには苦戦しながらも、楽しい雰囲気だった。



地域の課題や今後の課題

楽しみながら体を動かすことができるよう、今後もプログラムを考えていきたい。コロナ前は体操後にランチを提供していたが、現在は中止している。地元の方々の交流機会にもなるよう、参加者から意見を聞きながら次年度に向けて検討していきたい。

良友園 ふれんどファーム

- 開催日程 ①10/21 10:00～10:30
②10/28 10:00～10:30
- 参加団体 ぴよぴよ保育園、東松原保育園、ひじり保育園
- 参加人数 30名

実施の目的

- ・施設裏の畑の活用
- ・子どもたちに自然に触れる機会を提供
- ・畑で作物を育てる体験
- ・施設ご利用者に対し、子どもたちと触れ合える機会を提供



当日の様子

春に自分たちで植えたサツマイモを収穫。1キロ以上の道のりを歩いてきたにもかかわらず、笑顔いっぱいでお芋ほりを楽しんでいた。「大きいのが獲れたー！」と、見学するご利用者に見せる様子も。お芋ほりのあとは、子どもたちからご利用者に歌のプレゼントがあり、元気な歌声にご利用者も笑顔で喜んでいらっしまった。

地域の課題や今後の課題

保育園において、芋ほりを体験させていただける農家の方が減少しており、本活動は園児の食育という観点からもよい効果が出ている。

今後は、施設内で園児の歌などの発表の場として、交流できるよう検討している。

特別養護老人ホーム藤香苑 みんなのホッとランチSP

■開催日程 ①10/5 12:00~14:00

②10/18 12:00~14:00

■参加人数 105名

実施の目的

特養の食事をテイクアウトorイトインの選択式で販売。地域の方への食事支援、レスパイトケア、社会参加のきっかけ作りなど受け取り手のニーズに応じて柔軟に寄り添うことを目的とする。



当日の様子

ドライブスルー形式で購入される方が大半であったが、イトイン形式を家族で利用される方もおり、施設の中や施設の屋上で温かい食事を召し上がられた方もいた。特に子どもたちは屋上を走り回ったり、施設内でお絵描きをしたりと食事をきっかけとし、日常生活において普段なかなか出向く機会のない特養に、足を運ぶきっかけとなったことは、「ふくしをひらく」うえで大きな一歩になったと感じた。

地域の課題や今後の課題

地域柄、スーパーやコンビニ、レストランや子供たちの遊ぶ場所がなかったり、車がないと不便など環境的な課題は多く感じる。今回イトインを利用される方も一定数いたことから、通常のお弁当販売に加え地域向け食堂の実施を検討している。こういった環境から当施設は、単に「入所して生活する場所」ではなく、地域の課題に応じて必要な生活インフラの機能も担っていくべきだと考えている。福祉を施設の中だけで完結させるのではなく、地域にひらき、地域とともに支え合っていくためにも様々な取り組みの実践を今後も重ねていきたい。

総合ケアコミュニティ・せせらぎ ケアハウス
社会福祉法人奉優会 特養事業本部営業推進室

「圧倒的風船バレー大会による要介護高齢者の エンゲージメント向上の可能性」

■開催日程 8/5 10:00～16:00

■参加団体 マイホームはるみ、ケアホームズ両国、杜松ホーム、ショートステイ
淡路、白金の森、目黒中央の家、奉優の家、文京小日向の家、花の木
ハイム、みどりの苑、沓掛ホーム、つばめの里、等々力の家、弦巻の
家、代田の家、本町きらきらこども園

■参加人数 132名

実施の目的

特別養護老人ホームで過ごされる利用者を対象とし、「風船バレー」を採用。競技を通じて、心身機能の維持・向上に加え、QOL（生活の質）の向上、認知機能の刺激（判断力・注意力の維持）、社会的交流やコミュニケーションの促進、精神的リフレッシュ、外出機会の提供など、多くの効果を期待。

当日の様子

奉優会特別養護老人ホーム16施設の各地区より選抜された8チームが渋谷区本町つばめの里、地下多目的ホールに集まり風船バレー対抗戦を繰り広げた。また、渋谷区本町きらきらこども園の園児17名と職員3名も参加し、高齢者対園児で試合を行う。全力でボールを追う園児の微笑ましい姿に和みながらも、本気でボールを打つ姿にいつもとは違う生き生きとした様子が見られた。施設対抗戦では職員も熱くなってボールを追う姿に大きな声で応援する入所者の姿があった。終了後は疲労も見られたが、体育館でのレクリエーションに満足されていた様子であった。

地域の課題や今後の課題

今回の大規模イベントは当法人として初の試みであった。今回はご家族や近隣こども園の参加により利用者のいろいろな表情が確認できた。普段施設以外の人と触れ合うことがなかなか難しい状況にある入所者だが、このような大規模イベントにより外出の機会と他者とふれあう事ができた。今後毎年実施していき、地域のボランティアや学校法人との連携を図っていきたいと考えている。

豊島区立高田介護予防センター 「ふくろうフェス2025」

■開催日程 6/28 13:00～15:00

■参加団体 ふくろうの杜高齢者総合相談センター、NPO法人 いきがい安心ジョイフル「結の会」、地域共生型就労拠点こみっとプレイス、豊島区社会福祉協議会（CSW）、飛鳥未来高等学校 読み聞かせボランティア団体、社会福祉法人フロンティア 山吹の里、民生児童委員（第2班、第6班合同）、豊島区高齢者福祉課 介護予防・認知症対策グループ 認知症地域支援推進員、認知症地域支援推進員ブース チームオレンジ、特定非営利法人 やすら木、あぜりあ認定栄養ケアステーション、本人ミーティング「晴の会」（認知症地域支援ブース参加者に手渡すローズマリーの匂い袋を事前に作成）、メルディア ウェルネス、地域住民ボランティア、豊島区立高田介護予防センター

■参加人数 147（内来場者数90人）名

実施の目的

地域住民との交流を目的とし、特に若い親子世代にこの様な福祉・相談機関を知ってもらおう。

そうする事で、早期の介護離職を防いだり相談ができ、地域生活の安定を図れるように過ごしてもらおう。



当日の様子

2023年に初めて開催し今回で3回目の開催となる。

事前に地域の掲示板にチラシを貼付、地域の福祉専門学校、地域の保育園や幼稚園にチラシを配布。また民生委員児童委員からも発信をしている。

受付で来場者にスタンプラリーの用紙を渡し、各ブースへ立ち寄るキッカケを作った。全て周る事でお土産をプレゼントしている。

各ブースの滞在時間が長く、来場者とのコミュニケーションも活発で、非常に和やかな時間が流れていた。

地域の課題や今後の課題

初年度の「ふくろうフェス」の認知度はあまり高くなかったが、普段の業務の中での地域交流や繋がり、このイベントを継続して行う事で徐々に周知されていった。

若い親子世代はこの様な福祉・相談機関を知らない事が多い。

その結果、何か困りごとがあった時にどこに相談をしていいかわからず、地域から孤立してしまう可能性がある。今回の様に気軽に触れ合えるイベントがあれば「何かあった時に頼れる場所」という認識が生まれてくる。

これからも継続して行う事で、福祉・相談機関の周知、地域住民との交流を図ってきたい。

社会福祉法人育秀会 第3育秀苑 第3育秀苑 こども食堂

- 開催日程 11/15 12:00～13:30
毎月第3土曜日 12:00～13:15（ラストオーダー）
- 参加団体 第3育秀苑
- 参加人数 26名

実施の目的

「共に食べる」という温かい時間を通じて、地域のこどもたちが安心して過ごせる居場所を作りたい。

また、仕事と子育ての両立に日々奮闘している保護者の方も一緒に気軽に立ち寄っていただける場所にしたい。



当日の様子

スタートの12時を待ちきれず11時頃から子供たちが集まり始める。子供の居場所づくりという目的で始め、「第3育秀苑に行けば！何か楽しいことが♪美味しい物が♪」という、第3育秀苑が認知されて来ているのをとても嬉しく思う。

当日は、ボランティア2名の協力を得て★鶏肉の塩麹焼き定食★豚汁★スイートポテトを準備。食事提供までは別スペースで塗り絵をしたり、ピアノを弾いたり、ホワイトボードを使って授業ごっこ♪と自由に過ごす。食事は「美味しかったです～」「次はなに？」などと楽しみにしてもらっている様子であった。

地域の課題や今後の課題

地域では、ひとり親家庭の増加や高齢化、こどもの孤食などが課題となっている。こども食堂は、食の支援だけでなく、安心して過ごせる居場所づくりや地域交流の促進に役立っている。今後は、地域の多様な世代や団体と連携し、継続的な運営体制を整えながら、こどもたちが安心して集える場をさらに広げていくことが課題と考える。

第3 育秀苑（特養・認知症対応型デイサービス） なないろカフェ（オレンジカフェ）

- 開催日程 11/11 10:00～11:30
毎月第2火曜日 10:00～11:30
- 参加人数 26名

実施の目的

認知症になっても住み慣れた地域で生活が継続できるように、地域の皆様に認知症について知っていただく機会となり、認知症や介護に関して気軽に相談できる場所となる。



当日の様子

11/11は冬の始まりを感じられる寒い日でしたが、26名が参加されました。以前は4名掛けテーブルをメインに配置していましたが、初参加の方も気軽に輪に入れるように8名で席を囲める様なテーブルを配置したことで活気のある会となりました。

この日に行ったミニ講話は寒くなるこれからの時期に合わせて「感染症予防・ヒートショックについて」を行いました。

また、カフェで提供するお菓子を今回から練馬区立支援学校の生徒さんの手作りお菓子に変更したことで、さらに地域との繋がりを感じる事が出来るカフェとなりました。

地域の課題や今後の課題

約一年が経ち、地域の方々にもなないろカフェが浸透してきたように思います。さらに有難いことに、毎月のように初参加の方もいらっしゃいます。引き続き、認知症の方や地域の方が社会との繋がりを作る場として継続していく必要があると考えています。

また、認知症への理解を広める為にも、ミニ講話は常に興味を持って頂けるように工夫して行く必要があると考えております。

社会福祉法人 泉陽会 第二光陽苑

遊んで学ぶ！福祉がわかるゴミ拾いゲーム

■開催日程 ① 5/11 10:00～11:30

② 11/23 10:00～11:30

■参加団体 関町北四・五丁目町会

■参加人数 33名

実施の目的

車椅子体験・視覚障害者体験・高齢者疑似体験をしながら、近隣を散策しゴミ拾いを行う。

高齢者の身体的特徴や福祉用具の使用法等を体験し、福祉・介護への理解を深めながら、環境美化にも取り組む。



当日の様子

当日は天候にも恵まれ、親子連れや近隣の町会の方等に参加いただけた。

参加者からは、「ゲーム感覚で楽しかった。」「外の道で車いすを押すことの大変さを知った。」等の感想が聞かれた。

体験の中で子供達に怪我等がないように、路上に出る前に説明・練習を行った。また近隣を歩く際は誘導棒を持った職員が複数名アテンドするかたちで、通行車両に気を付ける等の安全配慮に努めた。

地域の課題や今後の課題

近隣の小学校・中学校・保育園との交流（行事等の相互の参加）や町会と連携した防災の取り組み等を通じ、今後も開かれた施設として、介護福祉の専門性を活かした地域貢献を行っていく。

癒しの里西小松川 癒しの里防災食堂

■開催日程 5/18 10:00~16:00

■参加人数 58名

実施の目的

- ①西小松川地区に住む住民と施設職員が顔なじみの関係性を構築し、安心して住み続けられる地域作りを目指す。
- ②地域に開けた施設づくり。
- ③非常食の試食や体験を通じ、地域住民の防災意識を高める。

当日の様子

- ①起震体験車で大地震と同じ規模の揺れを体験してもらい、大地震が来た時にはどのような体勢が安全かや、家の中で危険な物は何かを考えてもらい、再度自宅環境を整備したいとの話を多数伺えた。
- ②非常食の食事を提供。(アルファ米おにぎり、お粥、すまし汁、デザート) アルファ米おにぎりは実際に作る工程から体験してもらい、どのような物品の備えが必要か、食べるまでの所要時間も想像しやすいと好評だった。
- ③ハザードマップの展示や非常時の衛生管理方法の指導、ペットボトルの手作り手洗いグッズの体験、非常食の紹介等、体験型の企画を多くし、楽しみながら学んで貰えた様子だった。

地域の課題や今後の課題

今回が初めての地域向け企画となったが、高齢者施設ということもあり、参加者のほとんどが年配の方だった。イベント周知方法が町会の掲示板や回覧板のみだった為、今後はより幅広い世代の地域住民に参加してもらえるよう、発信方法の工夫が必要であると感じた。

イベントのアンケート結果や住民との話の中で、食に関するイベントや、フレイル予防に関心が高くニーズがあるようであった為、今後はニーズを踏まえたイベントを定期的開催し交流を増やしていく事で、地域に開けた施設を目指していきたい。

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑

なぎさ フードドライブ

■開催日程 ① 7/18 10:00～18:00

② 11/20 16:00～18:00

■参加団体 社会福祉法人 なぎさ和楽苑、えどがわっ子食堂ネットワーク、フードバンクジョイライフ、信濃運輸株式会社

■参加人数 50名

実施の目的

食品ロス問題からフードドライブへつなげる取り組み。主に家庭に余っている食べきれない食品を持ち寄り、必要としている『個人の方』にお届けしする活動。

当日の様子

地域の住民やボランティアの方々、施設の職員、協力企業等に寄附を呼びかけ、集まった食材を必要な方にお届けしています。夏休みや冬休み等の長期のお休み前などを中心に実施しています。昨今の物価高もあり、お米や缶詰、冷凍食品などの支援に本当に助かっていますとの感謝の言葉が聞かれています。

地域の課題や今後の課題

支援を必要としている方に情報と食材をお届けしたいと考えています。利用制限を設けていないため、回数を重ねていく毎に利用世帯が増えている現状のため、食材の確保が喫緊の課題となります。

特別養護老人ホームとらいふ武蔵野 とらいふエールの夕べ

■開催日程 8/10 16:30~20:00

■参加団体 クリーンむさしのを推進する会、なのはなサロン、千葉大学湯浅研究室

■参加人数 77名

実施の目的

コロナ禍以降の新たな地域交流、家族交流の在り方として開設したバリアフリーガーデン「とらいふあーむ」での取組内容を広く地域や関係団体等に知って頂き、新たな展開に繋げていきたいとの思いで開催した。

当日の様子

3年目の醸造となったとらいふエールだったが、今年はライムフレーバーを効かせたビールで参加者からも「昨年とまた一味違って美味しい!」と評判だった。早い時間からテーブルも埋まり、ビールを囲んであちらこちらで盛り上がりを見せ、地域の方々や関係団体の方々との交流もこれまで以上に深まり、とらいふあーむの取組みに対する理解も深まった感じで、役職員からも「開催した意義は十分にあった」との声が上がった。

地域の課題や今後の課題

参加された方々にはとらいふあーむの取組みに対する理解は深まったと思うが、まだまだ一部の方に留まっている感は否めず、今後更なる広報活動を展開していく必要があると感じている。又、各種関係団体からも「今後具体的にどのような関わり方をしたらいいのか打合わせをしていきたい」との打診もきていて、地域の抱える課題に対してとらいふあーむを通してどのような貢献ができるか健闘していく必要があると考えている。

特別養護老人ホーム 和楽ホーム あおぞらカフェ（認知症サポーター養成講座）

■開催日程 8/6 14:00～15:30

■参加団体 小曾木っ子の会・青梅成木台病院 認知症疾患医療センター

■参加人数 16名

実施の目的

認知症への正しい理解を広げ、地域全体で認知症の人と家族を支える“やさしいまちづくり”を進める。

当日の様子

当日は、認知症への正しい理解や地域で支えていくために、認知症の基礎知識、症状の特徴、接し方のポイント、家族への支援、地域で利用できる制度などを分かりやすく講師より説明があり、それぞれの参加者が自分に出来る事を探していける講座となった。受講後は、偏見を持たず温かく見守り、困っている人にできる範囲で手助けしていく「認知症サポーター」として地域での支え合いに参加していきたいと意気込みを語る参加者もありました。終了後はお茶やコーヒーを飲みながら交流を図った。

地域の課題や今後の課題

地域の福祉拠点として、地域の方々が気軽に参加できる「あおぞらカフェ」を開催していくための啓発活動の推進が今後の課題である。

原小宮町内会・原小宮ふれあい福祉委員会・あすなろみんなの家 ふれあいお茶飲み会

■開催日程 共催している原小宮町内会・原小宮ふれあい福祉委員会との調整の結果、令和8年3月に開催することとなった。

■参加団体 原小宮町内会・原小宮ふれあい福祉委員会・あすなろみんなの家

実施の目的

町内会の高齢者のふれあい・交流の場として、昼食やゲームを通じ、「笑って歌って元気よく」楽しいひとときを過ごす。

「あすなろみんなの家」の事業や、介護保険・高齢者福祉のサービスについて理解していただく。

当日の様子

町内会行事である敬老の集いの開催日程が見直され、対象者が重複するふれあいお茶飲み会の行事日程についても変更し、令和8年3月に開催することとなった。

地域の課題や今後の課題

新型コロナウイルス感染症の5類への移行から時間がたち、活動の機会や範囲はコロナ禍以前の状態に戻ってきているように感じているが、活動が停滞していた期間が長かったため、担い手やノウハウの継承に課題を抱えている団体等も多いと感じている。

施設としても、利用者や職員の安全を確保しつつ、地域の方々に施設にお越し頂くための工夫をしているが、いまだに迷っている部分もある。

社会福祉法人 梅の樹会 フラワープラム

瑞穂町の歴史を知ろう！

■開催日程 ① 8 /21 14：00～14：40

②12/17 18：30～19：10

■参加団体 デイサービス利用者の皆様、特養入居者の皆様、フラワープラム職員

■参加人数 51名

実施の目的

利用者の方が瑞穂町の歴史を学ぶ事で郷土への理解と愛着を深め、心の健康や生きがいづくりになるとともに、交流の場としても楽しんでいただくことを目的に講師を招いて開催した。

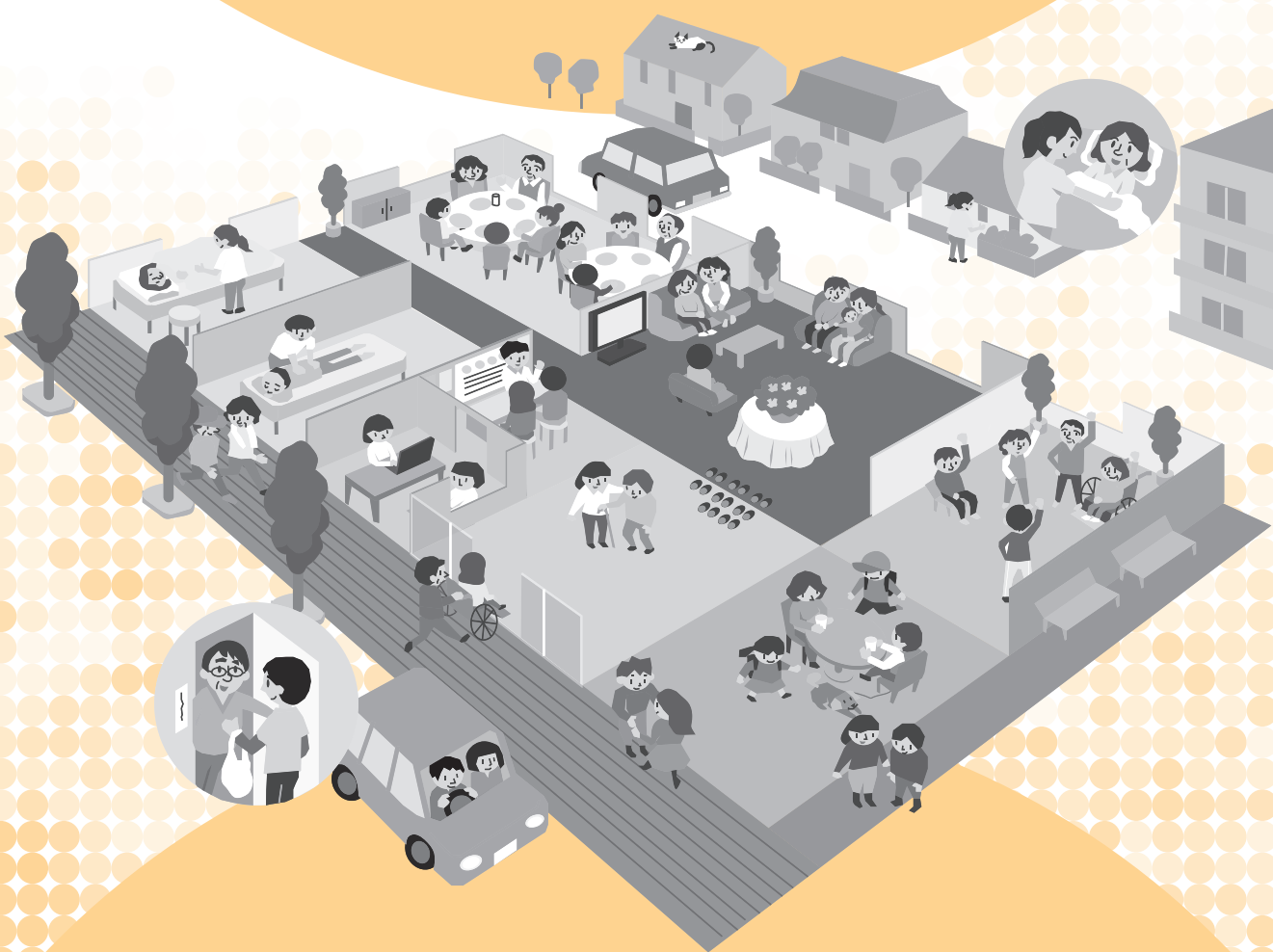
当日の様子

デイサービス、特養の利用者様と職員の合計51名が参加した。中には今回の講話を聴くためにデイサービスの利用日を変更した方もいた。何代にもわたってこの地域に住んでいる方々でも、初めて聞く歴史の話しの数々に驚いた表情で講師の話しに聞き入っていた。町内で発見された数々の古文書の内容が紹介されると、昔の人々のリアルな日常の姿に笑いや感心の声があがり、会場は盛り上がりを見せた。

地域の課題や今後の課題

町の高齢化に伴う歴史の継承者や地域のつながりの希薄化が課題となっている。地域を支える社会福祉法人として、様々な方々が共に助け合ってゆける地域共生社会を実現するため、自分達の地域の歴史や文化について理解を深め、できる取り組みを行ってゆきたい。

資料





東社協 東京都高齢者福祉施設協議会

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2025

《高齢者福祉施設・事業所を中心とした「地域に寄り添う」ための都内一斉キャンペーン》

参加施設・事業所募集のご案内



「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO（略称：つなひろ）」は、都内の高齢者福祉施設・事業所による地域に開かれた取組みを増やしPRする目的で、2016年度から開始しました。東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所にて行われる地域交流・介護予防・学びの機会などを周知するものです。

皆様のご賛同と積極的なご参加により、高齢者福祉施設・事業所ならびに社会福祉法人における地域の取組みへの認知度が高まります。ぜひご参加ください。

1 つなひろの目的

1. 地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が、地域に寄り添うことで「ちいきの輪」をつくります。
→地域で暮らす方々がつながり、その輪がひろがることを目指しています。
2. 東京都内の高齢者福祉施設・事業所の取組みを、ひとつでも多く発信（見える化）することで、社会福祉法人に対する信頼と評価が高まります。
→皆様の主体的かつ積極的な「つなひろ」へのご参加が不可欠です。
3. 他施設の取組みを参考にし、施設・法人での新たな取組みや、複数施設と協働した取組みに発展することを期待しています。
→見学会や実践報告会等で、地域に開かれた取組みを学び、深める機会を作ります。

◎キャンペーンについて

施設・事業所で行う「地域とつながる活動」があれば、是非ご参加ください。

【キャンペーン期間】9月～11月

※今年度は、キャンペーン期間外（4～8月、12月）の取組みについても募集し、報告書へ掲載します。

- 9月第3月曜日の敬老の日と、11月11日の介護の日に合わせて、キャンペーン期間を9～11月としています。この期間に行われる活動があれば、ぜひご参加ください。
- 地域住民への寄り添いが趣旨の活動であれば、どのような取組みでも構いません。これから新たに取組みを実施しようとされている法人や、取組み方法がよく分からない法人の皆様のヒントになるかもしれませんので、貴施設・事業所の取組みのご参加をお願いします。
- 単独の施設・事業所による取組みのほか、複数施設との共催（法人内施設・事業所、他法人、他業種の福祉施設・事業所、民間企業、地域の住民組織等）の取組みでもご参加いただけます。
※東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員ではない事業所との協働参加の場合、申込は高齢協の会員事業所名でお願いいたします。

<取組み事例>

- 高齢者を支える取組み…介護予防教室や認知症カフェの開催／高齢者が対象の閉じこもり防止や交流を目的とした取組み／地域の高齢者が対象の訪問・見守り・配食活動
- 多世代交流を支える取組み…福祉や介護に関する相談の場の提供／介護をする家族を対象とした講座／施設を会場としたカフェや居場所づくり／福祉や健康に関する市民向け学習会
- 地域を支える取組み…地元イベントの参加など地域団体との協働／まちづくり懇談会など地域内での交流会／福祉避難所設置訓練など住民向けの防災活動 等

施設のお祭りや
敬老の日のイベントなど
施設で毎週・毎年行っている
取組みでも参加できるブル！



2 参加方法

令和7年7月23日(水)までに、東京都高齢者福祉施設協議会HPのエントリーフォームより必要事項を登録してください。いただいた情報については、つなひろのHP上に「参加施設一覧」として、施設名・取組み内容・会場名・開催日などを掲載する予定です。

【東京都高齢者福祉施設協議会HP】<http://www.tcs.w.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

東京 高齢協議会 で検索！

※「最新情報」または「つながれひろがれちいきの輪」のページよりお申込みできます。

⇒会員のお申込みには**会員コード**の入力が必須となります。

本通知左上または案内メールに記載しています。



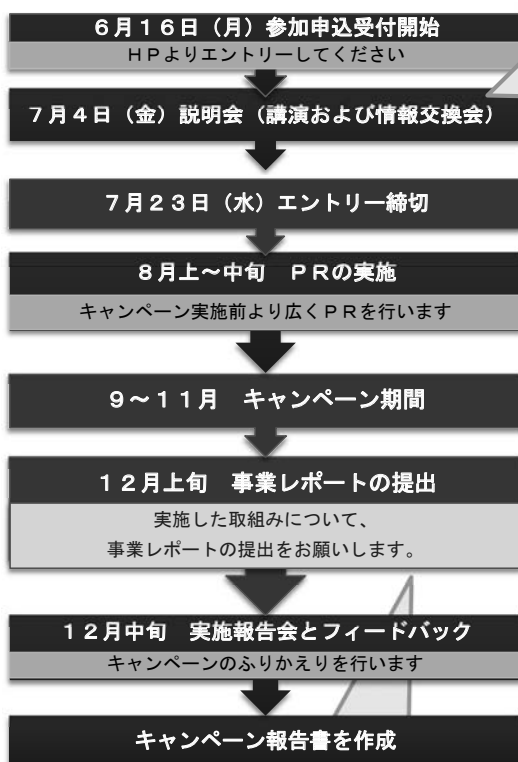
↑高齢協HP内「つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO」QRコード

※複数の取組み(予定を含む)がある場合、大変お手数ですが、1件ずつ書き込んで送信してください。

たくさんの事例を集めて取組みのヒントとして発信するため、ぜひご協力をお願いいたします。

※規模の大小、定例か単発開催かなどは問いません。また、日程未定・内容検討中でも、現時点で実施予定があれば、エントリー可能です。日程未定・内容検討中として参加いただいた取組については、情報更新用のフォームを設置し、更新内容をお知らせいただくようにいたします。

3 キャンペーンの流れ



★説明会(講演および情報交換会)

参加検討中の事業所の方も、お気軽にご参加ください◎

日時 7月4日(金) 14:00~16:30

会場 家の光会館 コンベンションホール

内容 講演・情報交換会・キャンペーン説明など

※今年度参加予定の施設・事業所は可能な限りご参加ください。

※詳細は別途送付する案内をご覧ください。

★広報グッズの送付

つなひろ参加事業所には、キャンペーン促進グッズとして、つなひろのチラシやグッズ(アクティブルぬいぐるみ、ミニのぼり等)をお送りします！

★キャンペーン参加施設・事業所見学会

施設・事業所の取組みの様子を見学することができます

(希望者のみ)。日時・場所等の詳細は後日送付する案内をご覧ください。

★事業レポートの作成

つなひろにご参加いただいた取組について、実施の様子などをレポートと写真でご提出いただきます。いただいた内容は、報告書等に掲載します。



↑2024年度チラシ



↑2024年度広報グッズ

4 開催状況－過去の実績より

2024年度のキャンペーンは、コロナウイルスの5類移行を機に再開してから2年目の活動となり、69事業の参加がありました。

＜2024年度のキャンペーンの様子＞



第8回八王子介護フェア
借楽園ホーム・第二借楽園ホーム・桜の里・ファミリーマイホーム・地域包括支援センター加住（八王子市）



あだちご近所マルシェ
社会福祉法人道心会 介護老人福祉施設ケアホーム足立（足立区）



語り合いサロン「ぶらっとなみき」
社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホームミナ（国分寺市）

＜2024年度実施データ＞

取組み種別	取組み数	構成比（％）
認知症への対応	3	4.3％
介護予防・高齢者支援	8	13.6％
アウトリーチ	0	0.0％
相談・家族支援	1	5.1％
カフェ・居場所づくり	13	11.9％
地域住民の学びの機会	4	13.6％
地域団体との協働	3	10.2％
地域交流	30	37.3％
防災への取組み	4	1.7％
その他	3	5.1％
合 計	69	100％

施設種別	取組み数	構成比（％）
特別養護老人ホーム	52	37.7％
養護老人ホーム	2	5.1％
軽費老人ホーム	6	10.2％
デイサービスセンター	32	39.0％
地域包括支援センター	20	20.3％
在宅介護支援センター	7	1.7％
区市町村施設連絡会	0	0.0％
複数施設との共催	5	6.8％
その他	14	11.9％
合 計	138	100％

※過去の開催状況などの詳細はHPをご覧ください。

5 Q&A

【Q】従来から実施している取組みでも参加できますか。
【A】できます。従来の活動も含めてPRすることがキャンペーンの目的です。なお、キャンペーンを契機として、施設・事業所内で新たな取組みを検討いただく形での参加も可能です。ただし、自治体の委託事業など主催が他団体の取組みの場合、事前に主催団体に了承を得た上でお申込みください。
【Q】1日間、半日間、通年で実施している取組みでも参加できますか。
【A】広く地域住民を対象とする取組みであれば、実施時間や期間の制限は特にありません。
【Q】開催日時は施設側で決めてもよいのでしょうか。
【A】各施設でお決めください。その際、日程が重ならないよう近隣施設との調整をお願いします。
【Q】キャンペーン期間（9～11月）に行わなければいけませんか。
【A】今回より4～8月、12月の取り組みもご参加いただけます。期間外の取り組みとして報告書に掲載しますので、エントリーフォームよりお申し込みください。
【Q】施設のある地域の在住者のみを対象とする取組みでも参加できますか。
【A】ご参加いただけます。その場合、参加申込書の該当欄（参加条件）に記載ください。
【Q】会員以外の事業所との共同（高齢分野以外の施設等との連携を含む）での参加はできますか。
【A】可能です。ただし申込時の担当施設・事業所名は、高齢協の会員施設・事業所名でお願いいたします。

【Q】取組みやイベントの経費負担、ブロック活動助成の活用方法について教えてください。 【A】取組みやイベントの実施にかかる経費は、会員施設・事業所によりご負担ください。 なお、(高齢協会員である)複数の施設・法人での合同事業など区市町村単位・地域ブロック会単位で活動を行う場合には、地域ブロック会活動経費、地域ブロック会協働助成事業をご活用いただくこともできます。その場合には、各地域ブロック会長または事務局までご連絡ください。 キャンペーン全体の広報・PRにかかる経費(キャンペーン紹介チラシやグッズ等)は、東京都高齢者福祉施設協議会が負担します。	
【Q】キャンペーン全体のPRはどのように行うのでしょうか。 【A】キャンペーンを紹介するチラシを作成し、東京都高齢者福祉施設協議会のHPに繋がるQRコードのリンクを掲載します。各団体の取組みをHPにとりまとめ、施設名や法人名、所在地、参加する取組みやイベントに関する情報を掲載します。イベント当日などにチラシを配布いただきながら、都内全体の取組みとしてキャンペーンをご紹介ください。また、行政や関係団体等にも情報を発信します。	
【Q】キャンペーンのロゴや名称はありますか。それをどのように使うのですか。 【A】チラシやウェブサイト、また職員名刺や広報誌などに記載することで、趣旨に賛同しながら都内の高齢者福祉施設が丸となって行っている姿を伝えるよう、ロゴマークの使用にご協力をお願いします。 HPよりダウンロード可能です。また取組み名称は、キャンペーンの趣旨にご理解をいただきながら、実施施設・事業所で任意に名称を設定していただいてもかまいません。	【掲載例】 つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 東京都高齢者福祉施設協議会 特別養護老人ホーム ○○苑 地域交流会・介護相談会 11月○日(○)10時～15時 
【Q】チラシ以外に、キャンペーン広報グッズはありますか。 【A】作成する予定です。参加施設・事業所にはキャンペーン実施前にグッズを配布いたします。これまでは、施設・事業所用にミニのぼり・アクティブルぬいぐるみ、イベント時の参加者配布用にシャープペンシル・付箋・ボールペン・クリアファイルなどを配布しました。詳細は、事務局までお問い合わせください。	
【Q】終了後の報告はどのように行うのでしょうか。 【A】事業レポート、活動に関する写真の送付をお願いします。 レポートのフォーマットをHPよりダウンロードの上、作成し、事務局までお送りください。あわせて、HPやFacebook等に掲載可能な写真を1～2枚程度お送りください。レポートにて地域の方々の声、活動を通して浮き彫りになった福祉課題などについて伝えます。	
【Q】社会福祉法人ではなくてもキャンペーンに参加できますか。 【A】可能です。ぜひご参加ください。	
【Q】キャンペーンの取組みに対するリスク対応について。 【A】事故等のリスクへの対応は、各施設・事業所でご対応いただくようお願いいたします。	
【Q】地域における公益的な取組との違いについて知りたい。 【A】つながれ ひろがれ ちいきの輪では、<u>地域における公益的な取組も含め</u>、地域住民の暮らしの中での困りごとなど、日々の出来事によりそい、高齢者福祉施設・事業所としてできることから支えていく活動であればどのような取組みでも参加いただけます。また、「東京都地域公益推進協議会」(事務局：東社協経営支援担当)とは異なる高齢協独自の取組みであり、参加において別途参加費等を請求することはありません。	

◎報告書について

一年間のまとめとして、毎年報告書を発行しております。2024年度報告書には、各事業所での取組み事例や、つながりの活動の様子、2025年1月20日に実施した「つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO 実践報告会」の様子を収録しています。高齢協のウェブサイトにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。

◎お問合せ先

東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当(宮田・山本)
TEL: 03-3268-7172 FAX: 03-3268-0635
メール: kourei@tcs.w.tvac.or.jp



つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2025 実施状況

1 実施期間

2025年9月1日～11月30日

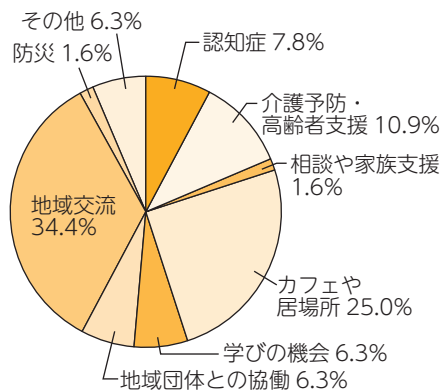
2 実施状況概要

参加事業数	64
参加団体数	473
実施区市町村数	29

3 実施事業内訳

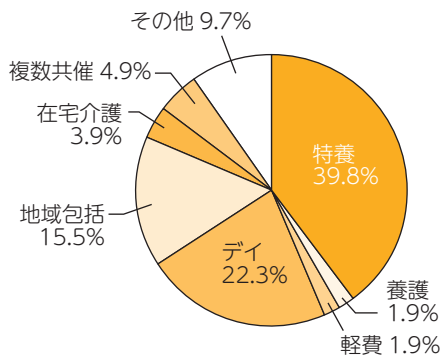
(1)取組み種別

	事業数	構成比
認知症	5	7.8%
介護予防・高齢者支援	7	10.9%
アウトリーチ（訪問活動）	0	0.0%
相談・家族支援	1	1.6%
カフェ・居場所	16	25.0%
学びの機会	4	6.3%
地域団体との協働	4	6.3%
地域交流	22	34.4%
防災	1	1.6%
その他	4	6.3%
合 計	64	



(2)施設・事業所種別

	事業数	構成比
特別養護老人ホーム	41	39.8%
養護老人ホーム	2	1.9%
軽費老人ホーム	2	1.9%
デイサービスセンター	23	22.3%
地域包括支援	16	15.5%
在宅介護支援	4	3.9%
区市町村施設連絡会	0	0.0%
複数施設との共催	5	4.9%
その他	10	9.7%
合 計	103	



広報グッズ紹介

1 ロゴマーク

各施設がキャンペーンの一環として都内全域で取り組んでいることをPRするためのロゴマークです。東京の街並みや暮らす人を1つの輪にすることで「ちいきの輪」を表しています。パンフレット、名刺、ホームページなど様々な用途に活用いただきました。



2 チラシ

キャンペーンの趣旨や今年度の実施施設・事業所の取組みを1枚のチラシにまとめました。

表面のイラストには、「様々な高齢者福祉施設の活動の姿」「地域によりそう場」のイメージが込められています。高齢者福祉施設の取組みについて知っていただく機会に都内の関係団体や実施施設・事業所のかかわりのある住民に向けて配布を行いました。



3 のぼり

各施設・事業所の取組みの会場に置いてキャンペーンのPRをするグッズ。高齢者施設や社会福祉法人が暮らしの困りごとを気軽に相談できるところであることも伝えていきます。

4 アクティブルぬいぐるみ

東京都高齢者福祉施設協議会のマスコットキャラクターのぬいぐるみ。今年はキャンペーンのテーマカラーの黄色のTシャツを着ています。のぼりと一緒に各施設の取組み会場に置いてキャンペーンのPRに活用いただきました。

5 アクティブルステッカー

各施設・事業所の取り組みやイベントの際に参加者へ配布し、広報に活用いただくためのグッズとして、今年度新たに作成しました。3種類の絵柄があり、子供や高齢者に好評でした。

6 ポケットティッシュ

各施設・事業所の取り組み会場にて配布し、キャンペーンをPRするグッズとして今年度新しく作りました。キャンペーンの取り組み以外でも配布できるように、手に取りやすいデザインとなっています。



広報ツール紹介

1 キャンペーン特設サイト

東京都高齢者福祉施設協議会のウェブサイト内に特設コーナーにて、今年度のキャンペーンの実施状況、これまでの開催状況など1年を通じてキャンペーンを知る機会として作成しました。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOキャンペーン特設サイト

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/tiikinowa/index.html>



2 Facebook

東京都高齢者福祉施設協議会のFacebookページにキャンペーン開始のお知らせを掲載しました。

3 東京新聞の広告掲載

キャンペーン中の11月11日（介護の日）に、情報広報室の協力のもと、東京新聞に東京都高齢者福祉施設協議会の全面広告としてキャンペーン再開の記事を掲載しました。

11月11日 介護の日

最後まで自分らしく暮らしたい

その想いに応えるために

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会

私たちは、地域の高齢者に対して、さまざまなカタチで支援を行っています。この1年の主な活動を紹介します。

介護の日「11月11日」

いい日、いい日は、介護の日です。高齢化などにより介護が必要となる方が増加している一方、介護にまつわる課題は多岐にわたります。介護サービスの利用者やそのご家族、介護従事者や支援し、地域の支え合いの場に応じたことを目指して、厚生労働省は11月11日を介護の日と定めしました。

東京高齢者福祉施設協議会（高齢協）とは

高齢協は、東京都内の特別養老ホーム（約520施設）、養老老人ホーム（約30施設）、特養老人ホーム（約50施設）、地域包括・在宅介護支援センター（約250カ所）、デイサービスセンター（約340カ所）を会員とする組織として活動しています。

会員が相互に研さんを重ねながらサービスの質を高め、利用者主体による高齢者福祉の発展を目的として、施設で働く職員を対象とした研修会や実践研究発表会（アクティブ福祉in東京）、調査研究活動、制度の拡充を目的とした提言活動（ソーシャルアクション）などを行っています。

若手介護職員によるユニット「東京ケアリーダーズ」

東京ケアリーダーズは、東京都内の高齢者福祉施設、事業所で働く若手介護職員によるユニット。メンバーは高齢者福祉施設、養老老人ホームやデイサービスなどの高齢者福祉施設で働く職員が中心で、何らかの生活を支え、心身の介護支援を行っています。日々の仕事を通じて感じる高齢者の声や課題、また、自分たちが抱えている課題や悩みを共有し、互いに学びあう機会を設けています。

「アクティブ福祉in東京25」では、「ケア・アクト」というテーマを掲げて、実際に介護現場で働くケアリーダーズメンバーが活躍する機会を作りました。

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン

2025年9月～11月に、東京の高齢者福祉施設が互いに協力しながら、地域によりそうためのイベントや交流会などを、都内各地で一斉におこなうキャンペーンです。

例えば、以下のような活動を紹介します。

- ・バザーや施設のお祭りなど、地域交流イベント
- ・介護予防教室や介護をする家族向けの講座
- ・子ども食堂やだれでも食堂などの場所づくり

4 つなひろ通信

キャンペーンの進捗状況を都内の高齢者施設や都民の方に定期的に伝えるものとして発刊しました。今年度もつながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO のキャンペーンを企画・運営を担当する実行委員会のメンバーに見学会の様子を紹介していただきました。実践で取組まれている視点から感じたことや考えたことをまとめ、伝えています。

2025年9月1日号(送信枚数:全1枚)

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol. 1

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会(企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 実行委員会)

●このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス1

9月1日キャンペーン開始!—ホームページに開催情報掲載

「つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2025」キャンペーンは、都内31の区市町村で、66事業の参加により、9月1日にスタートします。コロナ禍での中断を経て再開後3年目となります。参加事業所やイベント数は、昨年度比で微増となっていますが、コロナ禍以前の水準には戻っていません。感染症対策や職員体制確保などが大きな課題と考えられるほか、一度途切れた関係や取り組みを再構築していくことが難しいとの指摘もあります。そんな状況でも、私たち高齢者福祉施設・事業所が地域に寄り添う必要性を共有し、着実に取り組みを広げていきたいと考えています。

キャンペーンの詳細は、下記ウェブサイトでご確認いただけます。また、地域に寄り添うヒントを得る機会として、エントリー事業所の取り組みの見学会も実施予定です。見学会以外の個別の見学希望や活動に関するご相談も、下記の事務局までお問い合わせください。

トピックス2

9月10日(水) 見学会・キックオフ記者会見のご案内

今年度の『つながれ ひろがれ ちいきの輪』キャンペーンが始まり、キックオフ記者会見として、都内の社会福祉法人が「地域に寄り添う」取り組みの実際の様子をご覧いただける機会を設けさせていただきました。奮ってご参加ください!

多世代の居場所づくりプロジェクト UI~結~(羽村市)

1 日時 令和7年9月10日(水) 14時00分~16時00分

2 会場 特別養護老人ホーム神明園 敷地内「神明台 sTorehouse」

(住所) 〒205-0023 東京都羽村市神明台 4-2-2

(交通) JR 青梅線「羽村駅」東口からタクシーで約5分(初乗料金内)

JR 青梅線「羽村駅」東口から徒歩 約20分(約1.5km)

3 内容

①ごあいさつ・キャンペーンの説明

②「多世代の居場所づくりプロジェクト UI~結~」について(担当者より)

③高齢者の居場所「より処」と小学生の居場所「かぶえてりあ はろ」の見学

4 申込フォーム

URL: <https://form.run/@k-1DMfZptUibTxgcmELujt>

申込締切: 令和7年9月8日(月) 正午

定員: 10名程度



会員施設用
申込フォーム
QRコード

見学会について

「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」キャンペーンでは、都内の社会福祉法人が「地域に寄り添う」取り組みの様子をご覧いただける機会として、見学会を実施します。

見学会では、主催者より取り組み内容の説明を聞いた後、実施している様子を見学できます。

見学会一覧は右記 QRコードよりご確認ください。

気になる取り組みがございましたら、記載の申込先までご連絡ください。



↑見学会一覧

キャンペーンの詳細はこちらから➡

※会員向けメールでもご案内しております。



東京 高齢協議会 で検索!



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsv.tvac.or.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力をお願いします。ご希望の施設・事業所にはチラシやグッズを追加で送付することができます。送信元までご相談ください。

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol. 2

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 (企画実施担当・つなぐれひろぐれちいきの輪 in TOKYO 実行委員会)

○このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。



トピックス1 9月10日(水) 見学会・キックオフ記者会見

今年も『つなぐれ・ひろぐれ・ちいきの輪 in TOKYO (通称: つなひろ)』がスタートしました!

我謝実行委員長(シャローム東久留米)のキャンペーン趣旨説明に続き、特別養護老人ホーム神明園 中村園長から、神明園での取り組みについてお話を伺いました。今回は「多世代の居場所づくりプロジェクト UI~結~」から高齢者の居場所 より処 と、かふえてりあ はろ を見学させて頂きました。別曜日に行われる神明台自習室 みらい と合わせ週に4回も地域に向けた活動を行っているそうです。月1回・週1回程度の開催では、1回1回がリセ



ットされてしまい単発感が否めず継続的な支援とならないと感じ、現在のスタイルにしたそうです。『より処』に参加した高齢者が、その後の『はろ』で生き活きと活躍する(オセロの相手等)姿や、元気一杯に走り回る子ども達にとって、かけがえのない場所となっているように感じました。

中村園長の話しには理想だけではなく、厳しい現実の話もありました。そこに熱い思いと、専門職としての見識を垣間見ることが出来ました。「地域への取り組みについてはいつでもお話ししますよ」と言って頂きました。

今年もつなひろキャンペーンでは多くの見学会を予定しています。どこかの会場で出会い出来る日を楽しみにしています。(つなひろ実行委員会)

トピックス2 10月23日(木) 見学会のご案内

今年度の『つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪』キャンペーンが始まりました。都内の社会福祉法人が「地域に寄り添う」取り組みの実際の様子をご覧いただける機会を設けさせていただきました。

奮ってご参加ください! 皆様のご参加お待ちしております。

- 1 日 時 令和7年10月23日(木) 11時00分~
- 2 会 場 サンライズ大泉 地域交流スペース サンライズ・サーカス
(住所) 〒178-0065 東京都練馬区西大泉 4-20-17
(交通) 西武池袋線「大泉学園駅」北口下車
西武バス福祉センター 行き15分「久保新田」で下車。
徒歩で「大泉西小学校入口」交差点を右折し直進
- 3 内 容
② ごあいさつ・キャンペーンの説明
③ 「まち活スタンプラリー」について(担当者より)
④ 実際にスタンプラリー参加(自由散策)
- 4 申込フォーム
URL: <https://form.run/@k-apvMu6qk6qwAJyonatoA>
申込締切: 令和7年10月16日(木)
定員: 10名程度



会員施設用
申込フォーム
QRコード

キャンペーンの詳細はこちらから➡

キャンペーン参加施設一覧、見学会一覧掲載中!



東京 高齢協議会 で検索!



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcs.w.tvac.or.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力をお願いします。ご希望の施設・事業所にはチラシやグッズを追加で送付することができます。送信元までご相談ください。

2025年12月25日3号(送信枚数:全1枚)

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol. 3



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 (企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO 実行委員会)

●このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

見学会に参加しました！ 一地域の輪、しっかりつながっていますー

9月にスタートした『つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO』の一斉キャンペーンが、今年も無事フィナーレを迎えました。恒例となった見学会では、3つの事業所にお邪魔させていただき、各事業所の頑張りをしっかり見て・聞いて・感じてきました。



トピックス1 10月23日(木) 見学会

練馬区の特別養護老人ホーム「サンライズ大泉」に併設された「サンライズ・サーカス」に集合。地域支援課の職員の方から、スタンプラリー誕生のお話を伺いました。昨年に続く開催ということもあり、今年は商店街の皆さんもすっかり事情通、企画もスムーズに進んだそうです。

「イベントは一日にしてならず」日々の積み重ねが、こうした協力関係を生むのだと、スタンプ以上に深く心に刻まれました。



トピックス2 11月27日(木) 見学会



こちらは弦巻の家(特別養護老人ホーム)と世田谷区上町地区社会福祉協議会がタッグを組んだスマホ cafe。

事業所1階の地域交流スペース(普段は本格派 cafe!)を活用し、社協職員とボランティアの皆さんが大活躍しています。特養ホームの入所者の方も加わり、「入所してから地域とつながれる時間」となっていました。ボランティアの皆さんも高齢者ですが、その表情はとてもいきいきとしていて、役割があることの力をあらためて感じさせられました。



～キャンペーン期間を終えて～

偶然にも、今回の見学先はいずれも地域交流スペースを活用した cafe を運営されていました。運営スタイルは違えど、どちらも「つい長居したくなる空間」を地域の方に提供されていました。見学会に参加し、事業所に併設する cafe への認識が変わりました。詳しいお話は実践報告会にて！

(見学会の後は、cafe で一杯。話しが弾みました!(^^)！)

★☆☆☆☆☆☆実践報告会・情報交換会のお知らせ★☆☆☆☆☆☆

日時:令和8年1月19日(月) 14時～16時30分

場所:家の光会館7階 コンベンションホール

内容:3事業所からの実践報告と情報交換を行います。



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol.4



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 (企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO WT)

●このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス 1

2025『実践報告会・情報交換会』開催しました！

毎年恒例となっている実践報告会。『つなひろ』へのエントリーの有無に関わらず、「ちょっと気になる」「話を聞いてみたい」という方も大歓迎で開催しています。今年もさまざまな立場の方にご参加いただき、小人数ながら会場はにぎやかな雰囲気になりました。参加の目的は人それぞれ。活動のヒントを探しにきた方、新しい取組の参考にしたい方など様々ですが、「地域に寄り添いたい」という思いはみなさん共通です。発表が始まると一転、会場は真剣モード。発表者の言葉一つひとつに、うなずきながら耳を傾ける姿が印象的でした。どの実践も思わず「すごいなあ…！」と感じるものばかり。でも話を聞いているうちに、不思議と「これ、もしかして自分にもできるかも？」という気持ちがいじわじわと湧いてきます。特別なことではなく、地域のためにできる小さな一歩。その積み重ねが、しっかり実を結んでいく、そんな大切な気づきをもらえる時間となりました。発表後はお待ちかねの情報交換タイム。自分の実践を話したり、「それいいですね！」「アイデアをもらったりと、あちこちで会話の花が咲いていました。この報告会は高齢協メンバーに限らず、学生さんや保育関係者、障害福祉サービス事業所の方々など、多彩な顔ぶれが集まるのも魅力のひとつ。「普段出会えない人の話が聞けて新鮮！」という声も多く聞かれます。そして情報交換の時間は…やっぱりあつという間。話し足りない皆さんは場所を変えて、さらに「延長戦」へ突入していました(*^^)v 来年度は「コミュニティソーシャルワーク」をテーマにした勉強会も予定しています。社会福祉法人の熱い思い、これからもいじわじわと(でも確実に！)地域へ広がっていきたいですね



～来年度のキャンペーン予定～

2026 年度も 6 月中旬からキャンペーン申込開始予定です！
キャンペーン期間は 9 月～11 月になります。
今年も皆さんのご参加、お待ちしております♪



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム 委員募集！

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチームでは、キャンペーンをすすめていくために、一緒に活動していただける方を募集しています。対象は東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所の職員になります。ご興味がある方は、下記「送信元」に記載の事務局までご連絡をお願いいたします。

- * 必要に応じてご所属の法人代表や事業所長に派遣依頼文等を作成いたします。
- ★2024 年度ワーキングチームの活動★
 - ・年 7 回程度の委員会の開催
 - ・キャンペーングッズ・チラシ・報告書の企画作成
 - ・つなひろ参加施設への見学会 (3 回) や実施報告会の企画運営 など



▼キャンペーンの詳細はこちらから

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索！

※申込フォームは、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail : kourei@tcsw.tvac.or.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力お願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することができます。送信元までご相談ください。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 実行委員会 委員募集

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 実行委員会では、キャンペーンをすすめていくために、一緒に活動していただける方を募集しています。対象は東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所の職員になります。ご興味がある方は、下記に施設・事業所名とお名前、ご連絡先をご記入の上、FAX・メールにてお送りください。

* 必要に応じてご所属の法人代表や事業所長に派遣依頼文等を作成いたします。

2025 年度実行委員会の活動

- ・ 年 8 回程度の委員会の開催 ・ キャンペーングッズ・チラシ・報告書の企画作成
- ・ つなひろ参加施設への見学会（3 回）や、実施報告会の企画運営 など



見学会 実際に目で見て地域の実践を学べる場をつくりました



実践報告会 グループワークに入って一緒に考えることも！

地域によりそう実践から、都内の高齢者福祉施設などが、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりのためにできることは何か、を日頃から考えて取り組んでいます。

自施設・事業所の取組につながるヒントを得られるチャンスに、和気あいあいとした雰囲気の中で情報交換をしながら、キャンペーンの企画内容の検討やイベントの運営一緒にしてみませんか。みなさまのご参加お待ちしております。

地域の活動を支える
仲間づくりや
他施設のアイデアを知る機会に！
ぜひ一緒にキャンペーンを
支えてほしいブル！



■お問合せ先

東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当（湯澤・馬込）

TEL：03-3268-7172 FAX：03-3268-0635 メール：kourei@tcsw.tvac.or.jp

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 実行委員会 委員参加希望

事業所名： _____ お名前： _____

TEL： _____ FAX： _____

Mail： _____

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会
2025年度 つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO
実行委員会 名簿

No.	所属	氏名
1	シャローム東久留米	我謝 悟
2	あすなろみんなの家	今 裕司
3	品川区中延在宅介護支援センター・ 品川区立中延在宅サービスセンター	小山 正子
4	高田介護予防センター	相澤 和彦
5	癒しの里南千住	武井 圭佑
6	とらいふ武蔵野	大脇 秀一
7	東久留米市中部包括支援センター	津雪 聡子
8	府中市地域包括支援センター白糸台	清野 哲男
9	府中市立介護予防推進センター	沼尾 治巳
10	小川ホーム	小林 美穂
11	東京都民生児童委員連合会	藤野 真琴
12	東京ボランティア・市民活動センター	加藤 織江

※2026年3月時点

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2025 報告書

2026年6月発行

編集 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

発行者 東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1

TEL 03-3268-7172 FAX 03-3268-0635

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/>



お問い合わせ

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会

事務局 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸 1-1

飯田橋セントラルプラザ内

TEL 03-3268-7172 FAX 03-3268-0635

URL <http://www.tcsww.tvac.or.jp/bukai/kourei/>